

ICOM

取扱説明書

WIDE BAND RECEIVER
IC-RX7

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、0.150～1300.000MHzの広帯域をカバーする受信機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分に発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

ユーザー登録について

付属の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。

ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要なになります。

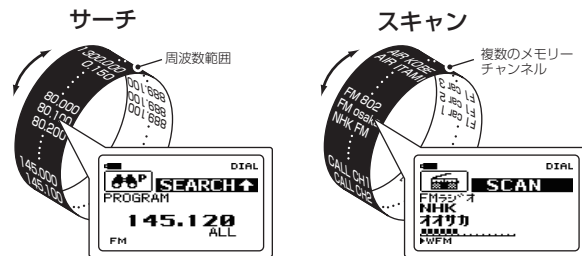
個人情報の取り扱いについて

弊社が個人情報を利用する場合、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内にて利用し、範囲を超えての利用はいたしません。

弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ (<http://www.icom.co.jp>) をご覧ください。

本製品の概要について

◎本製品は、電波が出ている周波数を探す「サーチ」と、登録したもから電波が出ている周波数を探す「スキャン」ができる受信機です。



特定の周波数範囲から順番に、音(信号)が出ているところを探していきます。

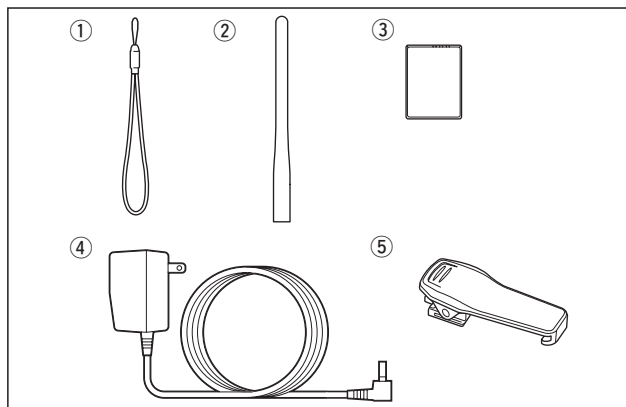
メモリーに登録した複数のチャンネルの中から音(信号)が出ているところを探していきます。

◎0.150～1300.000MHz(一部の周波数を除く)の広帯域受信ができます。

◎クローニングにより、本製品の設定やメモリーの内容をパソコンから書き込むことができます。(別売品CS-RX7が必要です)

また、IC-RX7同士を接続することで、親機側の設定やメモリーの内容を子機側に書き込みできます。(別売品OPC-474が必要です)

付属品について



- ①ハンドストラップ..... 1
- ②アンテナ..... 1
- ③バッテリーパック..... 1
- ④充電器..... 1
- ⑤ベルトクリップ..... 1

- 取扱説明書(本書)
- 保証書
- 愛用者カード

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、iCOM、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。
アイコム株式会社の著作物の全部、または一部を無断記載、複写およびいかなる方法による複製も禁止します。

本書について

本書で説明する画面は、オールリセットした状態や、メモリーに登録した例を挙げて説明しています。

使用後はリサイクルへ



この製品は充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

もくじ

安全上のご注意(必ずお読みください)	vi	3. 電源について	9
■ 本製品について	vi	■ バッテリーパックの装着	9
■ バッテリーパックについて	viii	■ 乾電池の装着	10
■ 充電器について	x	■ 運用時間と残量表示について	11
■ バッテリーケースについて (BP-262)	xii	■ 充電のしかた	12
外部電源接続時のご注意	xiii	■ 外部電源の接続	14
電波法についてのご注意	xiii	■ ヒューズの交換について	14
モバイル運用上のご注意	xiii		
JIS保護等級4(防まつ形)相当の防水性能	xiii	4. 基本操作のしかた	15
取り扱い上のご注意	xiv	■ 電源を入れる	15
お願いとおことわり	xiv	■ 受信音量を調整する	15
		■ スケルチレベルを調整する	16
1. ご使用の前に	1	■ モニターのしかた	16
■ アンテナの取り付けかた	1	■ 操作モードについて	17
■ ベルトクリップの取り付けかた	1	■ テンキーで周波数を入力するには	20
■ ハンドストラップの取り付けかた	2	■ 周波数を大きく動かすときは	21
		■ 受信モード(電波型式)を設定する	21
2. 各部の名称と機能	3	■ チューニングステップ	22
■ 操作パネル	3	■ FM(ラジオ)放送を受信する	23
■ キーボード	4	■ アンテナの切り替えについて	23
■ ディスプレイ	7	■ ATT機能について	25
		■ 受信感度(RF GAIN)機能について	25
		■ ロック機能の使いかた	26
		■ [DIAL]ツマミと[▲]/[▼]に割り当てている機能 を入れ替える	26

5. サーチのしかた	27	9. MENU画面について	57
■ サーチについて	27	■ 設定項目の選択方法	57
■ サーチの操作	30	■ 設定項目の一覧表	58
■ プログラムの書き込みかた	35	■ スキャンの設定項目について	59
■ プログラムリンクの編集	36	■ サーチの設定項目について	62
■ スキップ周波数の指定と解除のしかた	37	■ モード/TS/トーン関連の設定項目について	66
■ スキップの指定	38	■ セッティングの設定項目について	71
6. メモリーに書き込む	39	■ サウンドの設定項目について	76
■ サーチで受信した周波数をメモリーへ書き込む	39	■ ディスプレイの設定項目について	77
■ 名前入力のみ	43	10. 各種機能の使いかた	79
7. スキャンのしかた	45	■ デュプレクス通信を受信する	79
■ スキャンについて	45	■ トーン/DTCESを使った通信を受信する	82
■ スキャンのしかた	47	■ トーン/コードサーチのしかた	85
■ リンクの設定のしかた	49	■ VSC(ボイススケルチコントロール) 機能について	86
■ ネーム直接呼び出しのしかた	51	■ ビープ音について	87
8. プライオリティのしかた	53	■ ダイヤルスピード機能について	87
■ プライオリティ機能とは	53	■ パワーセーブ機能の使いかた	87
■ プライオリティ機能の使いかた	54	■ オープニングメッセージの設定について	88
■ プライオリティサーチ、プライオリティスキャン の解除のしかた	56	■ 表示フォントのサイズ設定について	88
		■ バックライトについて	88
		■ コントラスト調整について	88
		■ オートパワーオフ機能の使いかた	89
		■ オートパワーオン機能の使いかた	89
		■ クローニングについて	90

もくじ (つづき)

11. 別売品一覧	91
12. ご参考に	92
■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には	92
■ 故障かな?と思ったら	93
■ アフターサービスについて	94
■ CI-V(リモート)について	95
■ CI-Vの基本フォーマットについて	96
13. 定格	97
■ 一般仕様	97
■ 受信部	97
索引	99

安全上のご注意(必ずお読みください。)

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

- ▶ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- ▶次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから、本文をお読みください。

<p>△ 危険</p>	<p>この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。</p>
<p>△ 警告</p>	<p>この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。</p>
<p>△ 注意</p>	<p>この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が、傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。</p>

■ 本製品について

△危険

- 引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。引火、火災、爆発の原因になります。
- 自動車などの運転中は、本製品を操作しないでください。交通事故の原因になります。
- 液晶パネルが破損した場合は、液もれした液に触れないでください。
万一、皮膚や衣類に付着したときは、石鹸で洗い流してください。

△警告

- 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。
- 指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

安全上のご注意

■ 本製品について(つづき)

△警告

- 線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- アンテナの端やハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。
- 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。
- この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- 煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。

△注意

- アンテナを持って、本製品を持ち運ばないでください。
故障や破損の原因になることがあります。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には放置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- 製品の上に乗ったり、物を置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- 製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
変色、塗料がはがれる原因になることがあります。
普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- 本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
故障の原因になることがあります。
- 本機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 磁気カードなどは本機に近づけないでください。
磁気カードなどの内容が消去される場合があります。
- ハンドストラップやベルトクリップは確実に取り付けてください。
落下によるけが、本機の破損の原因になることがあります。

- 長期間で使用にならないときは、本機の電源を切り、電池を取りはずしてください。
本製品を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。

■ バッテリーパックについて

△危険

- ◎ バッテリーパックは、火の中に投入したり、加熱したりしないでください。
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。
- ◎ コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があります、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での充電はしないでください。
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。
- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。
バッテリーパックの性能や寿命の低下、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。
- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。
- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックと一緒に持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および受信機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の充電器で使用したり、それ以外の用途には使用したりしないでください。
- バッテリーパックから漏れ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

安全上のご注意

△警告

- ◎バッテリーパックの使用や充電中、または保管中などに、いつもより発熱しているなど異常と感じられたときは、使用しないで買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
そのまま使用すると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- ◎バッテリーパックを電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎指定の充電時間以上、充電しないでください。
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎バッテリーパックから漏れだした液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎バッテリーパックは、ぬれた状態で本製品に装着しないでください。
受信機の電源端子に水や海水が付着して、故障の原因になります。

- ◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
発熱、感電、けが、故障の原因になります。
- ◎テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
バッテリーパックから、ガスが発生することがあります。
破裂、発熱、液もれの原因になります。

△注意

- ◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、バッテリーパックの残量が約半分になってから、取りはずして保管してください。
- 5℃～35℃以外の環境で充電しないでください。
- 10℃～+60℃以外の環境で使用しないでください。
- 本製品を長期間使用しない場合は、バッテリーパックを取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
 - ・1ヶ月以内 : -20℃～+50℃
 - ・3ヶ月以内 : -20℃～+35℃
 - ・約1年 : -20℃～+20℃
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- ◎清掃には、シンナーやベンジンを絶対に使用しないでください。
ケースが変質したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
普段は、乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎バッテリーをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。

■充電器について

△危険

- IC-RX7専用のバッテリーパックの充電器です。
指定以外の充電には使用しないでください。
電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。
- この製品を分解、改造しないでください。
火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

△警告

- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- 接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
- 充電器のプラグに金属類を差し込まないでください。
火災、発熱、感電、故障の原因になります。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。

安全上のご注意

■ 充電器についてつづき

- めれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。感電の原因になります。
- 接続ケーブルに傷がついたときやACコンセントの差し込みがゆるいときは、**使用しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。
- 煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐにACコンセントから充電器を抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

△注意

- 充電またはバッテリーパックを本製品に装着する前に必ずこの取扱説明書をよく読んでください。
- 5℃以下または35℃以上では充電しないでください。
周囲温度が5℃以下または35℃以上になる場所では、充電されないことがあります。
- 湿気やホコリの多い場所や、風通しの悪い場所で使用したり、タコ足配線やACアダプター同士を密着させたりして使用しないでください。
火災、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから充電器を抜いてください。
火災、発熱の原因になることがあります。

- 充電器を抜き差しするときは、**接続ケーブルを引っ張らないでください。**
火災、感電、故障の原因になることがありますので、電源プラグを持って抜いてください。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはがれたりする原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。
- 本製品をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。
- 直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。
充電器の火災、故障、誤動作、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

■ バッテリーケースについて (BP-262)

⚠危険

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

●BP-262(別売品)は、アルカリ乾電池専用のバッテリーケースです。

指定以外の電池を入れないでください。

●充電しないでください。

●ハンダ付けしないでください。

●バッテリーケースの電池端子間をショートさせないでください。

●ネックレスなどの金属類とバッテリーケースを一緒に持ち運んだり、放置しないでください。

●火やストーブのそば、炎天下など、高温になる場所での使用、または放置をしないでください。

●長時間使用しない場合は、液もれのおそれがありますので、アルカリ乾電池を取りはずしてください。

また、電池のアルカリ液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触ったりしないでください。

失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。

⚠警告

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。

●テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
乾電池から、ガスが発生することがあります。

●水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。

●分解や改造をしないでください。

●電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。

また、種類の異なる電池を混ぜて使用したり、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。

※オキシライド乾電池も使用可能です。

安全上のご注意

外部電源接続時のご注意

- ◎本製品の外部電源ジャック(DC 6V)に入力できる電圧は、**DC 5.1V~6.9V**です。
24V系や12V系のバッテリー搭載車には、直接接続しないでください。故障の原因になります。
- ◎本製品は、電源を切っても常に微少の電流が流れます。
特に、別売品のCP-18を接続してしばらく使用しないときは、車のバッテリー保護のため、必ず本製品からCP-18を取りはずしてください。
- ◎外部電源にスイッチング電源を使用した場合、スイッチングノイズの影響を受けることがあります。

電波法についてのご注意

電波法第59条で「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」と通信の秘密について定められています。
※本製品の取り扱いには十分配慮して、電波法を守ってください。

モバイル運用上のご注意

- ◎安全運転のため、**本製品は走行中に操作しないでください。**
操作する場合は、必ず安全な場所に車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で車両を運転しないでください。
- ◎本製品を車に取り付ける場合、安全運転に支障がないように取り付けてください。
また、エアバック装備車に本製品を取り付ける場合、このシステムの動作に影響を及ぼす取り付けかたはしないでください。
- ◎本製品をハイブリッドカーでご使用になる場合は、搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

JIS保護等級4(防まつ形)相当の防水性能

この製品は、JIS保護等級4(防まつ形)相当の防水性能を確保していますので、少々の雨でも使用できます。
ただし、絶対に水につけないでください。
水につけると故障の原因になります。

取り扱い上のご注意

- ◎本製品やバッテリーパックを極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、水分をふき取ってからご使用ください。
- ◎付属のアンテナは、本製品を手で持ったときに特性がよくなるように設計しています。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

お願いとおことわり

- ◎本製品は、厳重な管理のもとに生産、出荷されていますが万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、お買い上げいただいた販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ◎本製品は広帯域受信機です。
本製品の内部発振(スプリアス)により、受信できなかったり、雑音を発生させたりする周波数もありますが、故障ではありません。

アナログ放送からデジタル放送への移行について

- 本製品は地上デジタル放送(音声)に対応しておりません。
- 地上デジタル放送は2006年12月1日から全国で放送が開始されています。
- ただし、該当地域におけるサービスエリア(受信可能エリア)は、限定されていることがあります。サービスエリアは順次拡大される予定です。
- 地上アナログ放送は2011年7月に終了することが、国の方針で決定しています。

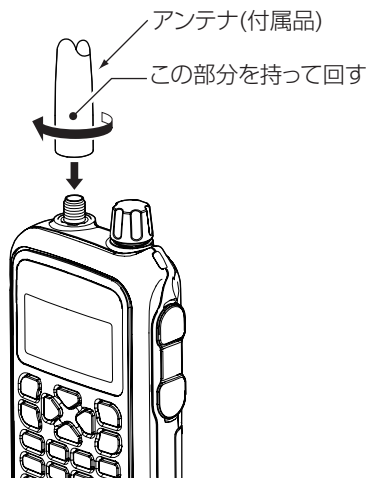
1

ご使用前に

■ アンテナの取り付けかた

取り付けるときは、アンテナ(付属品)の根元を持って時計まわりに手で締まる程度まで回します。

取りはずすときは、アンテナの根元を持って反時計まわりに回します。

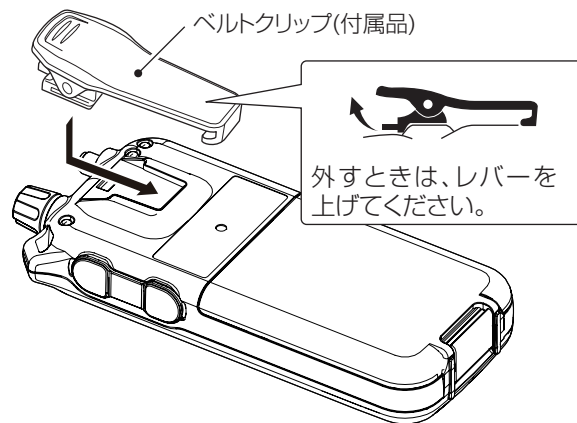


【ご参考に】

SMA型のアンテナコネクタを採用しています。
付属品のアンテナでも十分な受信感度がありますが、低い周波数帯や運用する場所により受信しにくい場合があります。
市販のアンテナをご使用になると受信性能がさらによくなる場合がありますので、販売店にご相談ください。

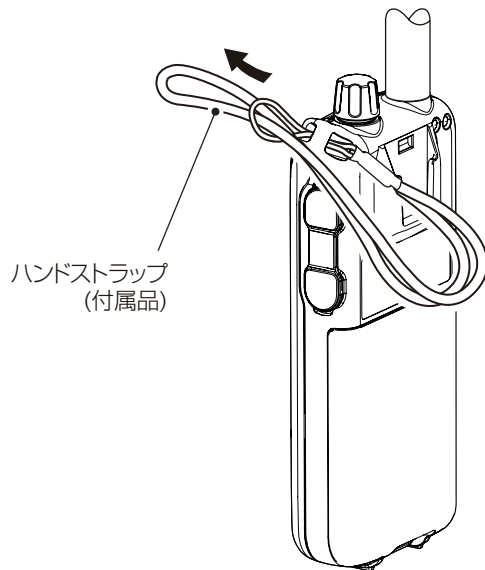
■ ベルトクリップの取り付けかた

本体背面の取り付け部に“カチッ”と音がするまではめ込んでください。



■ ハンドストラップの取り付けかた

運用時や持ち歩くときに、ハンドストラップ(付属品)に手首をとおしておく、落としたりしないで安全です。

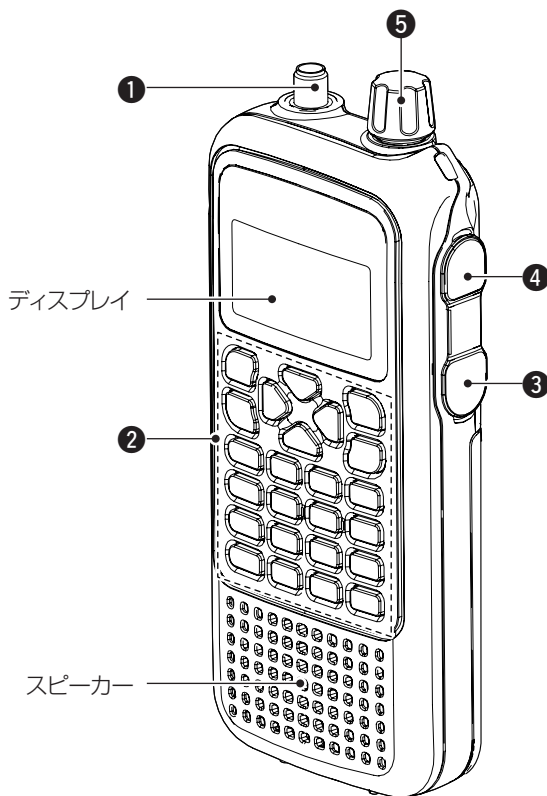


△ 警告

アンテナの端やハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。

本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

■操作パネル

**① アンテナコネクター**

付属のアンテナを接続するコネクターです。(P1)

※SMAコネクターを使用すれば、外部アンテナも接続できます。

② キーボード(P4)

運用周波数やダイレクトキー操作、MENU画面の各機能を設定します。

③ 外部電源ジャック[DC 6V]

付属品の充電器を接続するジャックです。(P12)

別売品のCP-18(シガレットライターケーブル)を使用すると、外部電源による運用もできます。(P14)

④ SP(スピーカー)/CI-Vジャック[SP]

別売品のヘッドホン(HP-4)などを接続するジャックです。(P91)

また、別売品のクローニングソフトウェア(CS-RX7)を使ってパソコンから本製品をクローニングできます。(P90)

別売品のCT-17を接続して、パソコンから本機を操作することもできます。(P95、P96)

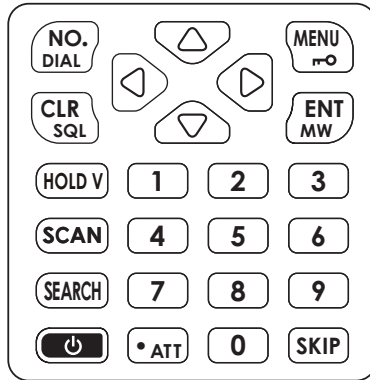
⑤ DIAL(ダイヤル)ツマミ

MENU画面の中の諸機能の切り替えや、メモリーチャンネル(M-CH)のネームの切り替えなどをします。

また、サーチやスキャンの方向を切り変えるときにも使用します。

※[▲][▼]/[DIAL]ツマミの割り当て機能を入れ替えできます。(P26)

■キーボード



● NO./DIALキー [NO./DIAL]



- ➡短く押すと、ナンバー(ネーム呼び出し番号)入力画面に入ります。(☞P51、P52)
- ➡長く(約1秒)押すごとに、[▲][▼]/[DIAL]ツマミの割り当てている機能を入れ替えます。(☞P26)

● CLR/SQLキー [CLR/SQL]



- ➡MENU画面設定時に短く押すと、設定画面を解除します。(☞P57)
- ➡文字入力時に短く押すと、点滅している文字を消します。(☞P43、P44)
- ➡長く(約1秒)押すごとに、モニター機能を“ON/OFF”します。(☞P16)

● MENU/LOCKキー [MENU/☞]



- ➡短く押すと、MENU画面を表示します。(☞P57)
- MENU画面操作時に短く押すと、MENU画面の一番上の階層に戻ります。
- ➡長く(約1秒)押すごとに、キーロック機能を“ON/OFF”します。
- ただし、MENU画面操作時は、無効になります。(☞P26)

● ENT/MWキー [ENT/MW]



- ➡短く押すと、各機能の決定や選択をします。
- ➡VFO、サーチのHOLD中、またはスキャン中に長く(約1秒)押すと、メモリー編集画面に入ります。
- ➡サーチ中に長く(約1秒)押すと、オートメモリーライトサーチを“ON/OFF”します。(☞P33)

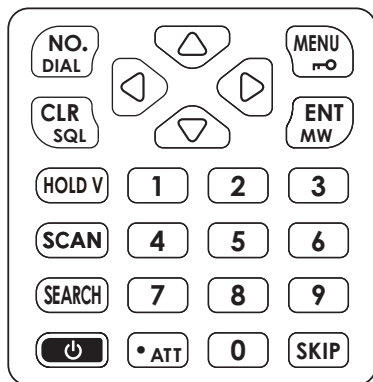
● アップ/ダウンキー [▲]/[▼]



- ➡短く押すと、受信音量をアップまたはダウンします。(☞P15)
- キーを押しつづけると連続動作になります。
- ➡短く押すと、MENU画面の項目やメモリー編集画面の項目を切り替えます。(☞P57、P41～P43)
- ※[▲][▼]/[DIAL]ツマミの割り当て機能を入れ替えることができます。(☞P26)

2 各部の名称と機能

■キーボード(つづき)



● レフト/ライトキー [◀]/[▶]



➡サーチ中やサーチのHOLD中、またはVFOモードのときに、短く押すとバンドを切り替えます。(☞P17)



➡スキャン中やスキャンのHOLD中に短く押すと、グループを切り替えます。(☞P19)

➡MENU画面のときに短く押すと、階層を切り替えます。(☞P57)

➡スキャン中やスキャンのHOLD中に長く(約1秒)押すと、カテゴリを切り替えます。(☞P19)

➡VFOモードのときに長く(1秒)押すと、チューニングステップを1MHzステップに切り替えます。(☞P21)

● HOLD Vキー [HOLD V]

HOLD V

➡サーチやスキャン中に短く押すごとに、サーチやスキャンを一時停止/再開を切り替えます。(☞P17、P19)

➡長く(約1秒)押すと、VFOモードを表示します。(☞P19)

● SCANキー [SCAN]

SCAN

➡短く押すと、リンクスキャンを開始します。(☞P19)

➡長く(約1秒)押すと、MENU画面のスキャン項目に移動します。

● SEARCHキー [SEARCH]

SEARCH

➡短く押すと、オールサーチを開始します。(☞P17)

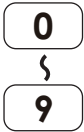
➡長く(約1秒)押すと、MENU画面のサーチ項目に移動します。

● 電源キー [Power]

Power

➡長く(約1秒)押すごとに、電源を“ON/OFF”します。

● テンキー [0] ~ [9]



- ➡ スキャン中に登録したリンク番号(ダイレクトキー番号)でダイレクトキー操作ができます。(☞P49、P50)
- ➡ VFOモードのときに短く押すと、周波数を設定します。(☞P20)

● ・ATTキー [・ATT]



- ➡ スキャン中に短く押すと、ダイレクトキーの入力画面を表示します。(☞P50)
- ➡ 長く(約1秒)押し続けると、アッテネーター機能を“ON/OFF”します。(☞P25)

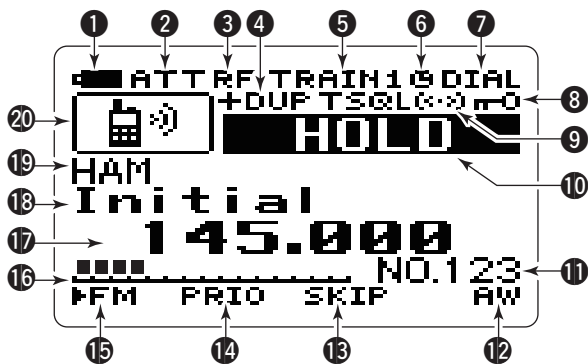
● SKIPキー [SKIP]



- ➡ スキャンの一時停止中に短く押すと、スキップチャンネル(SKIP→PSKIP→消灯)を設定します。(☞P37)
- ➡ スキャン中に長く(約1秒)押し続けると、グループスキップを設定します。(☞P38)
- ➡ サーチで電波を受信したときに長く(約1秒)押し続けると、スキップチャンネルに書き込みます。(☞P37)
- ➡ MENU画面のスキップ設定項目で短く押し続けると、スキップを設定します。(☞P38)

2 各部の名称と機能

■ディスプレイ



① 電池残量表示(☞P11)

バッテリーパック、バッテリーケース(アルカリ乾電池)を装着しているときに表示します。

バッテリーの残量が少なくなると、電池マークが半分になります。

※充電中は、電池マークが半分ずつ交互に点滅します。

充電が完了すると、消灯します。(☞P12)

② アッテネーター表示部(☞P25)

アッテネーター機能が動作中に表示します。

③ RF GAIN表示部(☞P25)

RF GAINが動作中に表示します。

④ デュプレックス表示部(☞P79～P82)

デュプレックス運用モード(-DUP/+DUP)を選択中に表示します。

⑤ キャンセラー/VSC機能表示部(☞P29、P30、P86)

空線キャンセラー/MSKキャンセラー/VSC機能を表示します。

- TRAIN1/2 : 空線キャンセラーの動作中を表示
- MSK : MSKキャンセラーの動作中を表示
- VSC : VSCの動作中を表示

⑥ オートパワーオフ機能表示部(☞P89)

オートパワーオフ機能を設定しているときに点灯します。

⑦ DIAL/VOL表示部(☞P26)

[DIAL]ツマミの操作機能を表示します。

- ⑧ **ロック表示部**(☞P26)
キーロック機能が動作していることを表示します。
- ⑨ **各種トーン機能表示部**(☞P84)
トーンスケルチ/ポケットビープ/DTCSスケルチ/逆トーンスケルチ/逆DTCSスケルチ機能を表示します。
- TSQL (⊙) : CTCSSによるポケットビープ機能の動作中を表示
 - TSQL : トーンスケルチ機能の動作中を表示
 - DTCS (⊙) : DTCSによるポケットビープ機能の動作中を表示
 - DTCS : DTCSコードスケルチ機能の動作中を表示
 - TSQL R : 逆トーンスケルチ機能の動作中を表示
 - DTCS R : 逆DTCSコードスケルチ機能の動作中を表示
- ⑩ **受信状態表示部**
サーチ/スキャン/ホールドなどの受信状態を表示します。
- ⑪ **ナンバー表示部**
ネームに登録したナンバー(ネーム呼び出し番号)やベリシクサーチのCH番号を表示します。
- ⑫ **オートメモリーライトサーチ表示部**(☞P33)
オートメモリーライトサーチ設定時に表示します。
- ⑬ **スキップ表示部**(☞P37)
スキップ機能を表示します。
- SKIP : メモリースキップを表示
 - PSKIP : プログラムスキップを表示
- ⑭ **プライオリティ表示部**(☞P53～P56)
プライオリティ機能が動作しているときに点灯します。
- ⑮ **受信モード表示部**(☞P21)
受信モード(電波型式)を表示します。
- ⑯ **Sメーター表示部**
受信中の信号の強さを表示します。(☞P23)
- ⑰ **ネーム表示部**(☞P47)
受信しているネームを表示します。
ネームを設定していないときは運用周波数を表示します。
- ⑱ **グループ表示部**(☞P47)
受信しているグループを表示します。
- ⑲ **カテゴリ表示部**(☞P47)
受信しているカテゴリを表示します。
- ⑳ **カテゴリアイコン表示部**(☞P40、P47)
受信しているカテゴリのアイコンを表示します。
カテゴリアイコンは、カテゴリの編集画面で変更できます。
アイコンの種類は、「TRUCK」、「BUS」、「CAR」、「RACE CAR」、「TAXI」、「MOTORCYCLE」、「TRAIN」、「SHIP」、「YACHT」、「AIRCRAFT」、「GLIDER」、「HAM」、「HAM HH」、「RADIO」、「TV」、「EMERGENCY」、「FIRE」、「WEATHER」、「HUMAN」、「ANIMAL」、「BUILDING」、「HOUSE」、「PROGRAM SEARCH」の合計23種類あります。

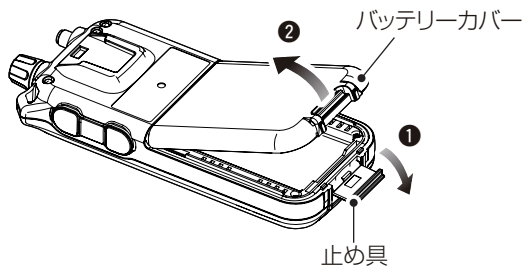
3 電源について

■バッテリーパックの装着

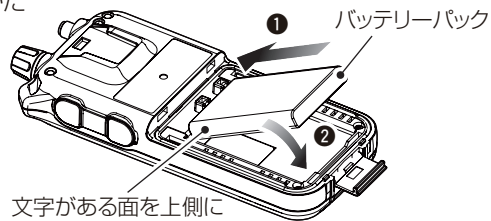
バッテリーカバーを、図の手順(①→②)にしたがって取りはずします。

※逆の手順(②→①)でバッテリーカバーを装着します。

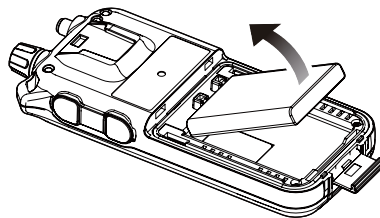
※本製品の電源を切ってから、取りはずしてください。



●取り付けかた



●取りはずしかた



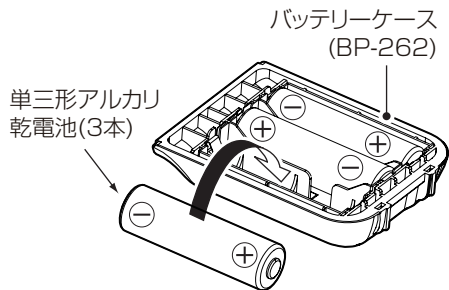
△ 注意

長期間使用しないときは、バッテリーパック、またはバッテリーケースを必ず本製品から取りはずしてください。

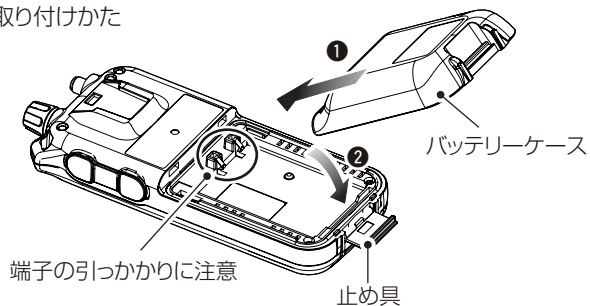
本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、寿命が短くなったり、電池が消耗したりする原因になることがあります。

■乾電池の装着

電池の極性⊕(プラス)、⊖(マイナス)に注意して、単三形アルカリ乾電池(3本)をバッテリーケース(BP-262)に入れます。



●取り付けかた



◇バッテリーケースを正しくご使用いただくために

⚠ 危険

単三形アルカリ乾電池専用です。

マンガン乾電池や単三形の充電式電池を入れて使用しないでください。

- ◎電池の極性(⊕と⊖)に、ご注意ください。
- ◎乾電池の電圧が、本製品の動作範囲以下になると、電源が切れます。
- ◎バッテリーケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に動作しないことがあります。
各端子は、乾いた布などで定期的にお手入れしてください。
- ◎乾電池に記載されている注意事項も、併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

※オキシライド乾電池も使用可能です。

《乾電池装着時のご注意》

本製品は電源を“OFF”にしても、常に微電流が流れています。乾電池が消耗する原因になりますので、本製品を使用しないときは必ず乾電池を本体から取りはずしてください。

【ご参考】




電池は、気温が低下するほど容量の減少が著しくなります。使用できる温度の下限は、一般的に-10℃とされています。寒冷地でご使用になる場合は、バッテリーケース(BP-262)の部分を十分に保温しながらご使用ください。

3 電源について

■運用時間と残量表示について

◇バッテリーパックの残量表示について




バッテリーパックを装着時、残量に応じて変化します。

表示	バッテリーパックの状態
	十分に容量があります。
	充電する時期です。(短時間の運用は可能)
	【点滅】充電する時期です。(数分で電源が切れます)

◇乾電池の交換時期について

アルカリ乾電池の容量が少なくなると、音が歪んだり、途切れたりします。

このようなときは、3本とも新しい乾電池に交換してください。

表示	電池の状態
	十分に容量があります。
	容量が減っています。(短時間の運用は可能)
	【点滅】電池を交換する時期です。

◇バッテリーパックの運用時間の目安

AF定格出力、バックライトOFFの連続受信時

バッテリーパック：約8時間

使用条件などにより、運用時間が異なることがありますので、ご注意ください。

◇乾電池の運用時間の目安

AF定格出力、バックライトOFFの連続受信時

バッテリーケース：約16時間30分

使用条件やアルカリ乾電池の種類(製造元など)により、運用時間の異なることがありますので、ご注意ください。

※乾電池の特性により、低温では運用時間が短くなります。

【ご参考に】

接触不良を防ぐために、バッテリーパックの電源端子を乾いた布などで定期的な清掃されることをおすすめします。

■充電のしかた

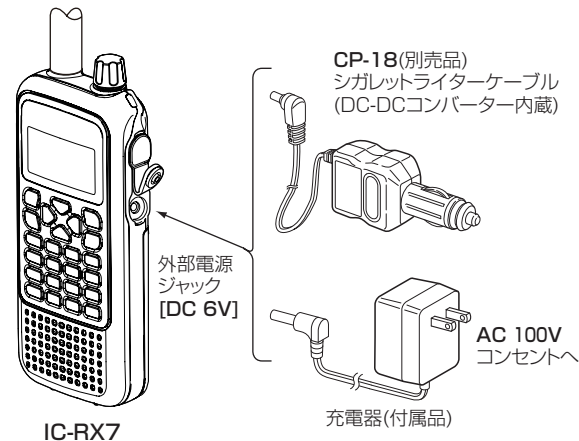
バッテリーパックは、出荷時の状態では十分な充電がされていません。ご使用前に、必ず充電してください。

● 付属の充電器を使用して、充電してください。

充電するときは、必ず本製品の電源を“OFF”にしてください。また、ご家庭のコンセントの電圧(AC100V)が極端に低くなったときは、正常に充電できないことがあります。

※24V系のバッテリー車でご使用の場合は、DC-DCコンバーター(24Vを12Vに変換する装置)が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

〈充電時間は、約5時間です〉



◇充電中の表示

- 電源を切った状態で充電
「」→「」→「」→
「」と変化します。
- 充電が完了
 (充電表示)が消えます。



充電中の表示

※電源を入れた状態で充電

「 (消灯)」→「」→「」→「 (消灯)」と残量表示が変化します。

充電が完了すると、残量表示は消えます。

△ 注意

バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。

長期間バッテリーパックを保管する場合は、バッテリーパックの残量が約半分になってから、本製品から取りはずして保管してください。保管期間と温度範囲については、本書のxページをご覧ください。

3 電源について

■充電のしかた(つづき)

◇充電についてのご注意

- ◎バッテリーパックをお買い上げいただいたとき、または長期間使用しなかったときは、ご使用前に必ず充電してください。
- ◎本製品の運用や充電をしないときは、外部電源から取りはずしてください。
- ◎バッテリーパックは消耗品ですから、充電を繰り返すと運用時間が短くなっていきます。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパック(BP-244)をご購入ください。

△ 危険

- ◎本製品以外の充電器を使って充電しないでください。
- ◎BP-244以外の電池(ニッカド/ニッケル水素など)は、充電できません。
- ◎BP-262(バッテリーケース)に市販の単三形充電式電池などを入れても充電できません。
- ◎ネックレスなどの金属類と一緒に持ち運んだり、放置しないでください。
ショートすると電池の破裂、発熱、液もれの原因となり、危険です。
- ◎充電器およびバッテリーパックの端子をショートや分解しないでください。感電のおそれがあります。
また、火や水のなかに入れないでください。
爆発のおそれがあります。

△ 警告

- ◎本製品のバッテリーパックは、継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後の再充電はしないでください。
- ◎充電が完了した直後に、電源プラグの抜き差しを繰り返すなどして再充電をしないでください。

△ 注意

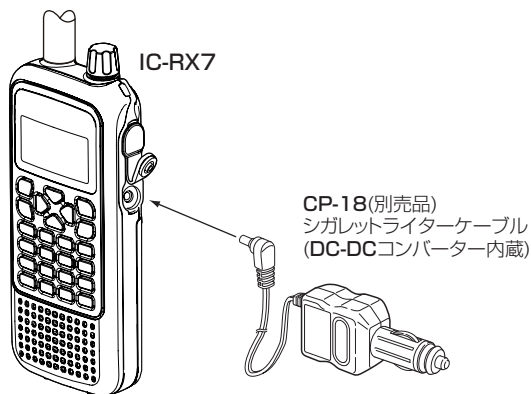
- ◎常温(20℃前後)で充電してください。
周囲温度が5℃以下または35℃以上になる場所では、正常に充電されないことがあります。
また、寒暖の激しい場所によっては十分に充電できないことがあります。

■外部電源の接続

別売品のCP-18(シガレットライターケーブル)を使用することにより、車のシガレットライター(12V系のバッテリー車)から、電源を供給できます。

※24V系のバッテリー車の場合は、DC-DCコンバーター(24Vを12Vに変換)が必要です。

お買い上げの販売店にご相談ください。

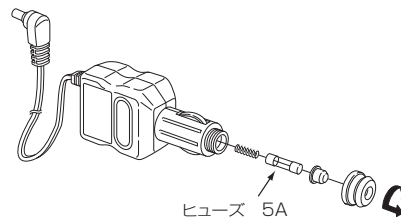


◇外部電源接続についてのご注意

- ◎外部電源の電圧が低く、本製品の外部電源ジャック(DC 6V)に接続した電圧が低いときは、バッテリーパックからの電源供給になります。
- ◎外部電源が供給されると、パワーセーブ機能(※P87)は無効になります。
- ◎CP-18(シガレットライターケーブル)をご使用の際、運用周波数によっては妨害を受ける場合があります。

■ヒューズの交換について


CP-18は、5Aのヒューズが内蔵されています。ヒューズが切れたときは、下図のようにして同じ容量のヒューズを交換してください。



4

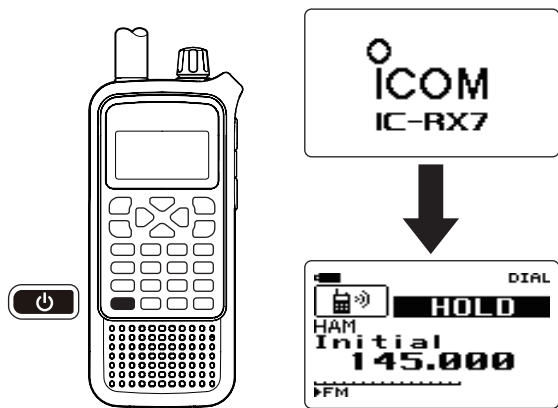
基本操作のしかた

■電源を入れる



[>]を長く押して、電源を“ON”にします。

- ピープ音が鳴り、「ICOM IC-RX7」を表示したあと、運用周波数を表示します。
- 電源を切るときも、同じ操作をします。

※MENU画面内の「オープニングロゴ表示の設定」項目で、オープニングロゴ表示を省略できます。(※P78)



■受信音量を調整する

[>]または[>]を短く押して、受信音量を調整します。(音量レベル[0～39]はディスプレイに表示します。)

[>]：大きくなります。

[>]：小さくなります。(初期設定：レベル19)

※キーを押しつづけると、連続動作になります。

※MENU画面やメモリー編集画面に入ると、受信音量の調整ができません。

※[>]/[>]と[DIAL]ツマミの割り当て機能を入れ替えます。(※P26)

※操作音量を調整したい場合は、MENU画面内の「ピープレベルの設定」項目でピープ音を調整できます。(※P76)



■スケルチレベルを調整する

弱い信号を排除し、好みのレベル以上の信号だけを受信するのに便利です。

スケルチレベルの数値が小さいほど、弱い信号でも受信できます。

- ① [CLR SQL]を長く(約1秒)押したあと、[DIAL]ツマミを1クリック回すと、現在設定しているスケルチレベルを表示します。
 - 初期設定で“AUTO”を設定しています。
- ② [DIAL]ツマミを回して、スケルチレベルを調整します。
 - スケルチレベルは、「OPEN」*、「AUTO」、「LEVEL1」～「LEVEL9」の中から選択します。
 - *常にスケルチを開いた状態にします。



■モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に使用します。

[CLR SQL]を長く(約1秒)押すと、スケルチを開いて受信します。スケルチレベルの“OPEN”と同じ状態になります。

- モニター機能を解除するときは、[CLR SQL]を短く押します。



4 基本操作のしかた

■操作モードについて

本製品には、サーチモード、スキャンモード、VFOモードという3つの操作モードがあります。

◇サーチモード

サーチモードとは、電波が出ている周波数を探すモードのことです。

特定の周波数範囲から順番に、音(信号)が出ているところを探していきます。

[SEARCH]を短く押して、オールサーチを開始します。

- バンドの切替(☞P17, P18) : [◀]/[▶]を短く押す
- アップサーチの切替 : [DIAL]ツマミを右に回す
- ダウンサーチの切替 : [DIAL]ツマミを左に回す
- サーチを一時停止 : [HOLD V]を短く押す
- 一時停止から再開 : [HOLD V]を短く押す
- 一時停止中に周波数の切替 : [DIAL]ツマミを回す

信号を受信したときは、サーチを一時停止します。

信号が途切れると、サーチを再開します。

MENU画面に入ったときはサーチを一時停止します。

サーチの詳細については5章(☞P27~P38)をご覧ください。



アップサーチ中の表示



ダウンサーチ中の表示

◆運用バンドを切り替える

本製品では、0.150~1300.000MHzの受信周波数範囲を10バンドに分けています。運用バンドは、サーチモードとVFOモードで使えます。

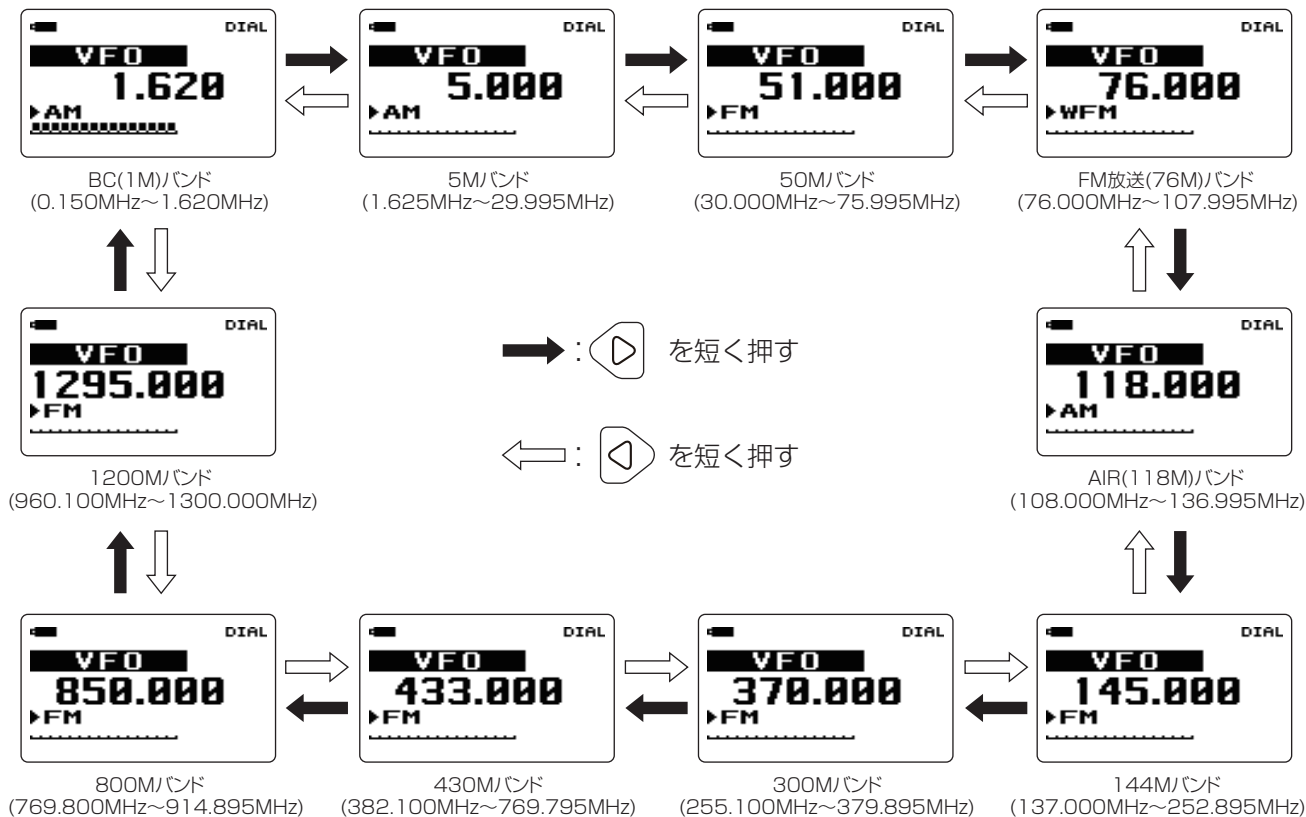
バンドごとの初期表示周波数は、右記のとおりです。

- ① サーチモード(左記)またはVFOモード(☞P19)にします。
- ② [◀]/[▶]を短く押すごとに、バンドを切り替えます。



VFOモード表示

●バンドごとの初期表示周波数



4 基本操作のしかた

◇スキャンモード

スキャンモードとは、メモリーに登録したチャンネルから電波が出ているチャンネルを探すモードのことです。

※本書では、周波数がメモリーに登録された時点で「M-CH」(メモリーチャンネル)と言います。

[SCAN]を短く押してリンクスキャンを開始します。

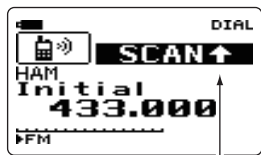
- アップスキャンの切替 : [DIAL]ツマミを右に回す
- ダウンスキャンの切替 : [DIAL]ツマミを左に回す
- スキャンを一時停止 : [HOLD V]を短く押す
- 一時停止から再開 : [HOLD V]を短く押す
- カテゴリの切替 : [◀]/[▶]を長く押す
- グループの切替 : [◀]/[▶]を短く押す
- CHの切替 : [DIAL]ツマミを回す

信号を受信したときは、スキャンを一時停止します。

信号が途切れると、スキャンを再開します。

MENU画面に入ったときはスキャンを一時停止します。

スキャンの詳細については7章(P45～P52)をご覧ください。



アップスキャン中
の表示

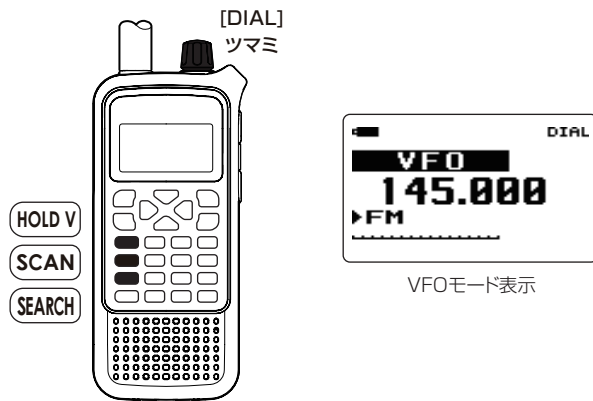


ダウンスキャン中
の表示

◇VFOモード

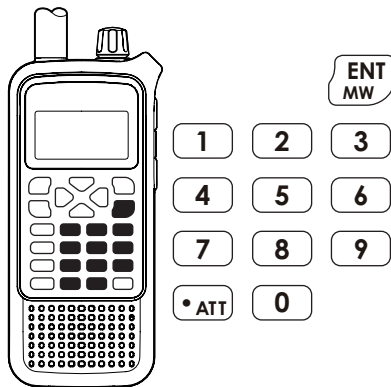
VFOモードとは、[DIAL]ツマミまたはテンキーで、周波数を選んで受信する操作モードです。

- ① [SEARCH]または[SCAN]を短く押します。
- ② [HOLD V]を長く(約1秒)押すと、VFOモードになります。
 - [DIAL]ツマミを回すと、周波数を選択できます。
 - VFOモードに入る前に表示されていたサーチの周波数、またはスキャンメモリがVFOで表示されます。



■テンキーで周波数を入力するには

VFOモードやプログラムサーチの周波数を設定するときや、M-CHの周波数を変更するとき、テンキー（[0]～[9]および[・ATT]）と[ENT MW]で、周波数を直接入力できます。



【ご注意】

1kHzケタを入力するときは、チューニングステップにより、入力を受け付けない場合があります。このときは、[0]（数値）を入力し、[DIAL] ツマミで周波数を設定してください。

◇入力のしかた

① VFOモードにします。（※P19）

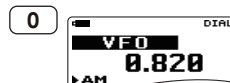
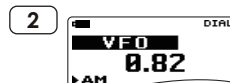
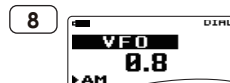
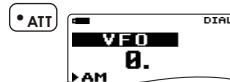
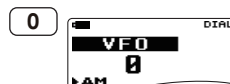
② テンキーから、希望の周波数を順番に入力します。

1kHzケタまで入力すると、「ピー」と音が鳴り、周波数を確定します。

● 入力の途中で[CLR SQL]を短く押すと、入力する前のVFO表示に戻ります。

[入力例]

● 0.820MHzの設定



● 1260MHzの設定



● 100kHz以下の周波数を変更する場合
1260.000MHzを
1260.240MHzにする

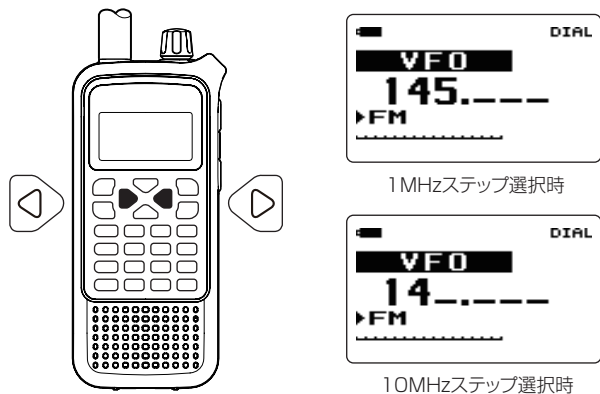


4 基本操作のしかた

■周波数を大きく動かすときは

VFOモードで、周波数を大幅に移動するとき便利な機能です。

- ① VFOモードにします。(P19)
- ② [◀]または[▶]を長く(約1秒)押しします。
- ③ [◀]を短く押しすと、10MHzステップに切り替わります。
[▶]を短く押しすと、1MHzステップに切り替わります。
- ④ [CLR SQL]を短く押しして、1MHzステップまたは10MHzステップ表示を解除します。



■受信モード(電波型式)を設定する

受信モード(電波型式)は初期設定で“**AUTO**”に設定しています。“**AUTO**”選択時は、受信バンドごとによく使用されている受信モード(電波型式)が選択されます。

- ① MENU画面に入り、[MODE]の設定内容に入ります。

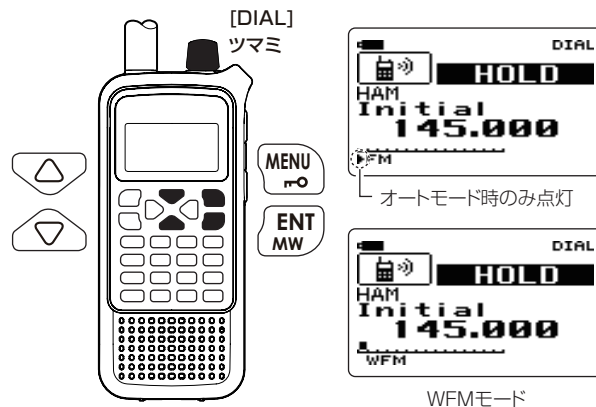
MENU→MODE/TS/TONE...→MODE (P68)
(メニュー→モード/TS/トーン...→モード)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、受信モード(電波型式)を切り替えます。

[FM]→[WFM]→[AM]→[AUTO]

- 設定した受信モードは、受信中の運用バンドだけに有効です。



■チューニングステップ

チューニングステップ(TS)とは、[DIAL]ツマミで周波数を設定するときに、変化する周波数のステップ幅です。

チューニングステップは、M-CHやプログラムサーチの項目ごとに設定できます。

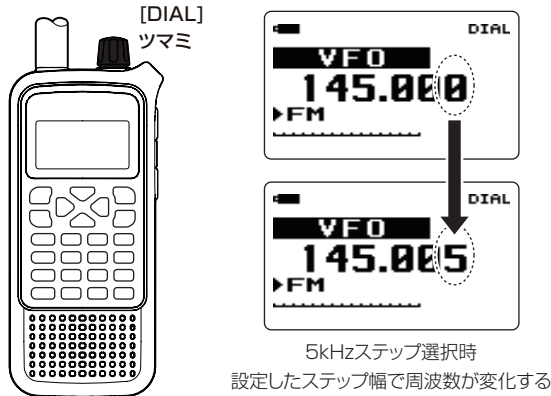
また、オフセット周波数を切り替えるステップ幅にもなります。
(P81)

チューニングステップは、

5.0/6.25/7.5/8.33¹/9.0²/10.0/12.5/15.0/20.0/25.0/30.0/
50.0/100.0/125.0/200.0kHz、およびAUTO(初期設定)が選
択できます。

*1: AIR(118M)バンドのみ選択でき、その他のバンドでは選択できません。

*2: BC(1M)バンドのみ選択できます。



◇チューニングステップを変更する

チューニングステップを変更するときは、MENU画面内の「モード/TS/トーン関連の設定」項目で設定できます。

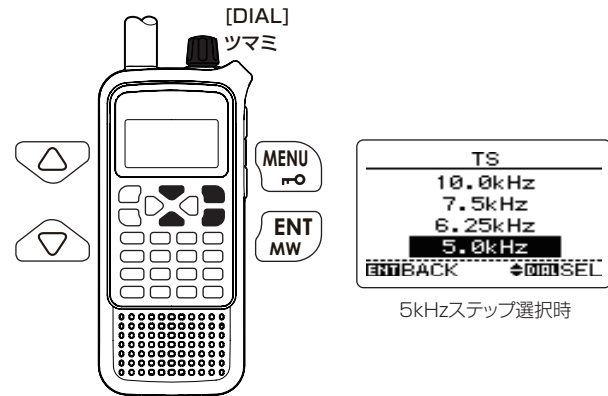
① MENU画面に入り、[TS]の設定内容に入ります。

MENU→MODE/TS/TONE...→TS (P67)
(メニュー→モード/TS/トーン...→TS)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、チューニングステップを選択します。

③ [CLR SQL]を短く押して、MENU画面を解除します。

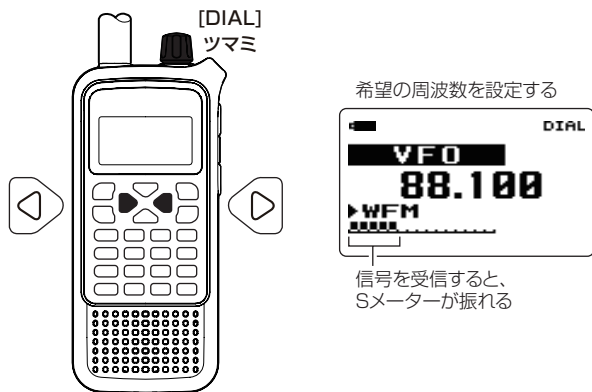


4 基本操作のしかた

■FM(ラジオ)放送を受信する

《例》FMラジオ 88.100MHzを受信する

- ① VFOモードにします。(☞P19)
- ② [◀]/[▶]を数回短く押し、FM放送(76M)バンドを選択します。
※受信モードがWFMでないときは、MENU画面からWFMを選択します。(☞P21)
- ③ [DIAL]ツマミを回して、88.100MHzを設定します。
- ④ 信号を受信すると、FM(ラジオ)放送が聞こえてきます。
信号の強さに応じてSメーターが振れます。



【ご参考】

利得の高いアンテナ(市販品)をご使用の際に、他局からの抑圧や妨害などを受ける場合は、ATT機能(☞P25)をONに設定してください。

■アンテナの切り替えについて

◎AMラジオ放送受信時のアンテナ(バーアンテナ)

BC(1M)バンドで、AMラジオ放送の周波数帯(0.495MHz～1.620MHz)を受信するときは、内蔵のバーアンテナを使用できます。

アンテナコネクタにアンテナを接続しなくてもAMラジオ放送をお楽しみいただけます。

◎FMラジオ放送受信時のアンテナ(イヤホンアンテナ)

接続するイヤホンをワイヤーアンテナとして使用できます。イヤホンアンテナは全ての受信モード/バンドでご使用いただけますが、アンテナの特性上、FMラジオ放送の周波数帯(76.000MHz～107.995MHz)やTV放送などの強い電波を受信するときにより効果があります。

バーアンテナ、イヤホンアンテナと外部アンテナの切り替えは、MENU画面で行います。

- バーアンテナを使用するときは、「AM ANTENNA」(AMアンテナ)を選択します。(初期設定：バー)
- イヤホンアンテナを使用するときは、「FM ANTENNA」(FMアンテナ)を選択します。(初期設定：ガイブ)



AMアンテナ選択(英語)



AMアンテナ選択(日本語)

◇AMアンテナ/FMアンテナの設定を変更する

- ① MENU画面に入り、「AM ANTENNA」または「FM ANTENNA」の設定内容に入ります。

MENU⇒SETTING⇒AM ANTENNA (P71)
(メニュー⇒セッティング⇒AM アンテナ)

[MENU]：メニュー [▲]/[▼]：選択 [ENT MW]：決定

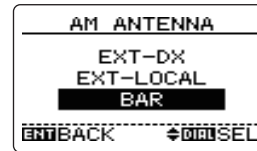
MENU⇒SETTING⇒FM ANTENNA (P71)
(メニュー⇒セッティング⇒FM アンテナ)

[MENU]：メニュー [▲]/[▼]：選択 [ENT MW]：決定

- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、アンテナ切り替えの設定内容を選択します。

- BC(1M)バンド受信時は、EXT-DX(ガイブ-DX)、EXT-LOCAL(ガイブローカル)またはBAR(バー)を選択します。
- FM放送(76M)バンド受信時は、EXT(ガイブ)またはEARPHONE(イヤホン)を選択します。

- ③ [CLR SQL]を短く押して、MENU画面を解除します。



バーアンテナ選択(英語)



バーアンテナ選択(日本語)



外部アンテナ選択(英語)



外部アンテナ選択(日本語)

※ イヤホンアンテナまたは内蔵のバーアンテナを使用するときは、ノイズを受けたり、スプリアスを受信したりすることがあります。
この場合は、市販の外部アンテナまたは付属のアンテナを使用することをおすすめします。

※ AMラジオ放送またはFMラジオ放送以外を受信するときは、付属のアンテナまたは市販の外部アンテナを使用してください。

※ バーアンテナを使用するときは、よく聞こえる方向に向けてください。

4 基本操作のしかた

■ATT機能について

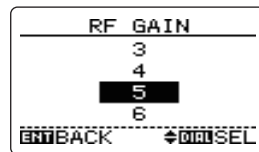
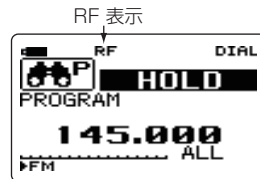
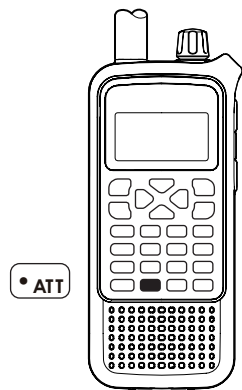
アッテネーター(減衰器)は、強い信号を受信したときに信号強度を減衰して受信音のひずみを低減します。また、高性能なアンテナ(市販品)を使用した場合に、強い信号からの妨害を抑える効果もあります。

アッテネーターの減衰量は約15dBですが、受信周波数により変化します。

[・ATT]を長く(約1秒)押すごとに、アッテネーター(ATT)機能が“ON/OFF”します。

“ON”時は、“ATT”表示が点灯します。

- アッテネーター機能は、すべてのバンドで動作します。
ただし、バーアンテナまたはイヤホンアンテナを使用しているときは動作しません。
- M-CHごとに設定が可能です。(P41)



レベル5選択時

■受信感度(RF GAIN)機能について

受信の感度を設定します。

妨害により目的の電波が聞こえにくい場合、GAINを調整することで、聞こえやすくなる場合があります。

通常はMAX(最大感度)で使用します。

- ① MENU画面に入り、[RF GAIN]の設定内容に入ります。

MENU⇒SETTING⇒RF GAIN (P71)
(メニュー⇒セッティング⇒RF ゲイン)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、受信感度(RF GAIN)を選択します。

- 受信感度はMIN/1～9/MAX(初期設定値)の中から選択します。
- MAX(初期設定値)以外を設定すると、“RF”表示が点灯します。

- ③ [CLR SQL]を短く押して、MENU画面を解除します。

■ロック機能の使いかた

不用意に [DIAL] ツマミやテンキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

[MENU] を長く (約1秒) 押します。

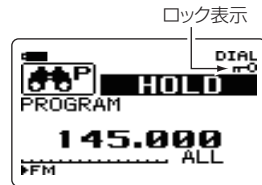
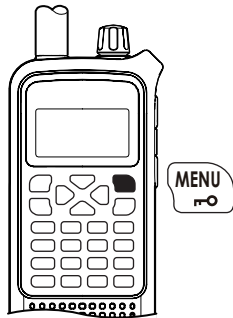
- ロック機能設定時は、**LOCK** (鍵マーク) が点灯します。
- ロック機能を解除するときも、同じ操作をします。
- ロック機能を設定していても、**[POWER]** / **[▲]** / **[▼]** / **[CLR SQL]** / **[MENU]** キーはロックされません。
※ **[▲]** / **[▼]** と **[DIAL]** ツマミの割り当てている機能を入れ替えたときは、**[▲]** / **[▼]** がロックされ、**[DIAL]** ツマミはロックされません。

注) MENU画面内の「キーロック機能の設定」により、ロックするキーを変更できます。

MENU → SETTING → LOCK (P74)

(メニュー → セッティング → ロック)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

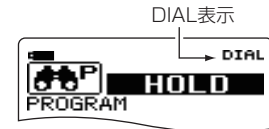


■ [DIAL] ツマミと [▲]/[▼] に割り当てている機能を入れ替える

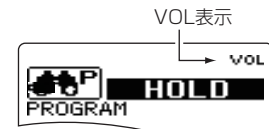
[DIAL] ツマミ (周波数や M-CH などの設定) と、**[▲]** / **[▼]** (音量調整) に割り当ててある機能を入れ替えることができます。

[NO. DIAL] を長く (約1秒) 押すごとに、表示が変わります。画面の表示とその割り当ては以下のとおりです。

	DIAL	VOL
[DIAL] ツマミ	<ul style="list-style-type: none"> •周波数の設定 •スキャン方向の切り替え •メモリーの切り替え •スケルチの切り替え 	<ul style="list-style-type: none"> •音量の設定
[▲]/[▼]	<ul style="list-style-type: none"> •音量の設定 	<ul style="list-style-type: none"> •周波数の設定 •スキャン方向の切り替え •メモリーの切り替え •スケルチの切り替え



[▲]/[▼] キーで音量操作



[DIAL] ツマミで音量操作

5 サーチのしかた

■サーチについて

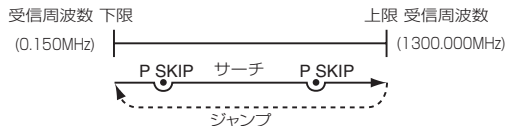
サーチとは、周波数やプログラムした周波数範囲を自動で信号の出ているところを探し出す機能です。

◇サーチの種類について

サーチモードには6種類のサーチがあります。
スキップする周波数は、“PSKIP”を指定します。(☞P37)

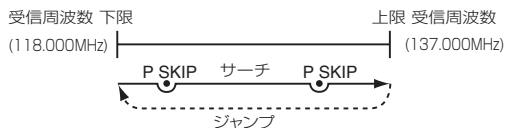
● SEARCH(オールサーチ) ☞P30

すべての受信周波数範囲をサーチします。



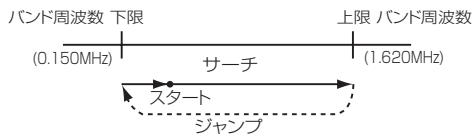
● BASIC SEARCH(ベーシックサーチ) ☞P31

受信周波数範囲を表すアイコンを選択してサーチします。
[例 エアーバンド選択時]



● BAND SEARCH(バンドサーチ) ☞P31

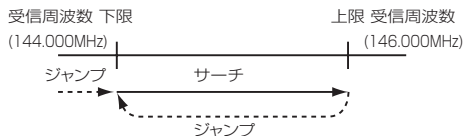
表示している運用バンドの周波数範囲をスキャンします。
[例 BC(1)M/バンド選択時]



● PROGRAM SEARCH(プログラムサーチ) ☞P32

プログラムサーチ用チャンネル(PROGRAM SEARCH)に書き込んだ周波数範囲をサーチします。

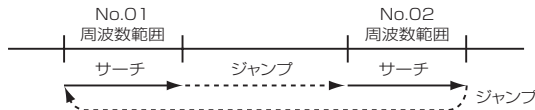
[例 プログラムNo.01(初期設定)選択時]



● PROGRAM LINK(プログラムリンクサーチ) ☞P32

MENU画面にある「プログラムサーチのリンク設定 (PROGRAM LINK)」項目(☞P126)で指定したプログラムサーチを連続してサーチします。

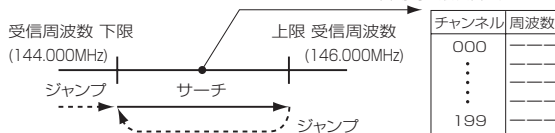
[例 プログラムNo.01にNo.02をリンク選択時]



● AW(オートメモリーライトサーチ)の動作 ☞P33

サーチ中に信号を受信すると、その周波数をオートメモリーライト用チャンネル(CH000～CH199)へ自動的に順次書き込みます。

[例 プログラムNo.01(初期設定)選択時] 信号を受信するとオートメモリーライト用チャンネルへ自動的に順次書き込む



◇スケルチの調整

通常スケルチレベルは“**AUTO**”にしていますが、受信信号の強さに応じて、サーチが一時停止するように調整できます。

- サーチ動作中に [CLR SQL] を長く (約 1 秒) 押したあと、[DIAL] ツマミを回すと、スケルチレベルの調整ができます。(※P16)※サーチは一時停止します。
スケルチレベルを調整後、[CLR SQL] を短く押し [SEARCH] を短く押すとサーチが再スタートします。

◇サーチ中の [DIAL] ツマミについて

- サーチ中に [DIAL] ツマミを回すと、回した方向でアップサーチとダウンサーチを切り替えます。
- 信号を受信してサーチが一時停止しているときに、[DIAL] ツマミを回すと即時再スタートします。

◇サーチ中のステップについて

サーチ中に周波数を切り替えるステップ幅は、オールサーチ/バンドサーチの場合、MENU画面にある「**チューニングステップの設定(TS)**」項目(※P22)で設定できます。
プログラムサーチは、PROGRAM-CHIに設定しているPROGRAM編集画面のチューニングステップで動作します。
プログラムサーチでTSを指定したとき以外は全て運用バンドの設定でサーチします。

◇サーチストップ時のビープ音設定

信号を受信してサーチが一時停止したとき、信号を受信したことを知らせるビープ音を、MENU画面にあるサーチ設定項目の「**ストップビープの設定(STOP BEEP)**」項目(※P65)で設定できます。

◇スキップ機能について

すべてのサーチでスキップ(必要のない周波数をサーチから除外する)指定ができます。
スキップの設定についてはP37を参照してください。

◇受信モード(電波型式)について

- サーチの電波型式を変更できます。
MENU画面にある「**モードの設定(MODE)**」項目(※P21)で設定できます。

◇信号を受信すると

- 信号が途切れるまで受信を続けます。
また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期設定)後に再スタートします。
- 上記のタイマーは、MENU画面にある「**サーチ一時停止タイマーの設定(PAUSE)**」項目(※P65)、「**サーチ再スタートタイマーの設定(RESUME)**」項目(※P66)で変更できます。

5 サーチのしかた

◇TRAIN(空線キャンセラー)機能について

通話していない鉄道無線で聞こえる空線信号を検出できます。TRAIN1またはTRAIN2を設定したときに空線信号を受信すると、受信音をミュートします。

● TRAIN1

TRAIN1単一周波数の空線信号を検出します。

● TRAIN2

1500HzのシングルトーンとMSK制御信号が交互に切り替わる信号を検出します。

TRAIN2を設定したときに検出する空線信号の周波数は、固定です。

※TRAIN(空線キャンセラー)機能の設定については、P30をご参照ください。

※サーチ中に信号を検出すると、「**サーチ一時停止タイマーの設定(PAUSE)**」項目(※P65)の設定に関わらず、サーチを再スタートします。

◇MSK機能について

MCA無線などで聞こえるMSK制御信号を検出できます。

※MSK機能の設定については、P30をご参照ください。

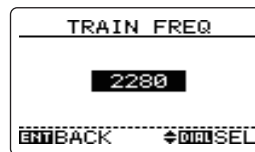
- MSK機能を設定したときにMSK制御信号を受信すると、受信音をミュートします。
- サーチ中にMSK制御信号を検出すると、「**サーチ一時停止タイマーの設定(PAUSE)**」項目(※P65)の設定に関わらず、サーチを再スタートします。

◇TRAIN1空線信号の周波数を設定する

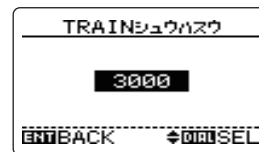
- ① 運用バンドと周波数を設定します。(※P17～P20)
- ② MENU画面から空線周波数を設定します。

MENU⇒MODE/TS/TONE...⇒**TRAIN FREQ** (※P70)
(メニュー⇒モード/TS/トーン...⇒**TRAINシュウハスウ**)
[MENU]⇒[O] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- 空線信号の周波数を表示します。



初期設定値



3000Hz設定時

TRAIN1空線信号の周波数を10Hzステップで300Hz～3000Hz設定範囲で設定できます。(初期設定：2280Hz)

- ③ [CLR SQL]を短く押すと、MENU画面から受信状態になります。

※TRAIN1空線信号の周波数は、M-CHごとに指定できます。

- 空線信号の周波数(2280Hz)を±50Hz程可変することにより、空線キャンセラー機能の効果が向上することがあります。
- TRAIN1空線信号の周波数を確認するときは、M-CHを選択して、上記と同様に操作します。

◇TRAIN(空線キャンセラー)/MSK機能を設定する

- ① 運用バンドと周波数を設定します。(P17～P20)
- ② MENU画面からキャンセラーを設定します。

MENU⇒MODE/TS/TONE...⇒**CANCELLER** (P70)
 (メニュー⇒モード/TS/トーン...⇒**キャンセラー**)

 [MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

●CANCELLER(キャンセラー)

OFF : 動作をしません。(初期設定)

TRAIN1 : 空線キャンセラー機能が動作します。

※検出する空線信号の周波数は、TRAIN1空線信号(初期設定値：2280Hz)です。

TRAIN2 : 1500HzのシングルトーンとMSK制御信号が交互に切り替わる信号を検出します。

※検出する空線信号の周波数は固定です。

MSK : MSK機能が動作します。

- ③ [CLR SQL]を短く押すと、MENU画面から受信状態になります。

- 空線キャンセラー機能、MSK機能は受信信号が弱いときや、ノイズが多いときなどは正しく動作しないことがあります。
- 空線キャンセラー機能、MSK機能はすべての空線信号またはMSK信号を検出するものではありません。MSK信号は1200bpsのMSK信号を検出できます。周波数がズレた場合などは検出できないこともあります。

■サーチの操作

各サーチの操作のしかたについて説明します。

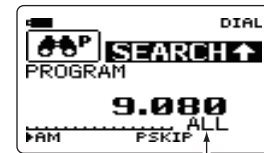
◇オールサーチの操作

[SEARCH]を短く押すとオールサーチを開始します。

※[HOLD V]を押すとサーチを一時停止し、さらに[HOLD V]を押すとサーチを再スタートします。

※サーチ中に[DIAL]ツマミを回すとアップサーチ/ダウンサーチを切り替えます。

※スキップを設定するときはP37、P38をご参照ください。



オールサーチ中の表示

【ご参考】

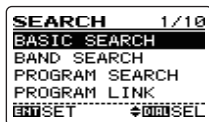
本製品にはサーチを止めるキーは存在しません。ただし、[HOLD V]でサーチを一時停止させて周波数を確認できます。

5 サーチのしかた

◇ベーシックサーチの操作

- ① [SEARCH]を長く(約1秒)押して、MENU画面のサーチ設定を表示します。
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「ベーシックサーチの設定(BASIC SEARCH)」項目を選択します。
- ③ [ENT MW]を短く押します。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、17種類の周波数範囲の中から聞きたい周波数範囲のアイコンを選択します。
- ⑤ [ENT MW]を短く押すと、ベーシックサーチを開始します。

※ ベーシックサーチの内容は、別売品クローニングソフトウェア(CS-RX7)で変更できます。



ベーシックサーチを選択



エア-バンドを選択

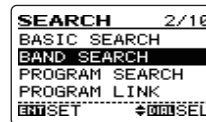


ベーシックサーチ中の表示

◇バンドサーチの操作

- ① [SEARCH]を長く(約1秒)押して、MENU画面のサーチ設定にします。
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「バンドサーチの設定(BAND SEARCH)」項目を選択します。
- ③ [ENT MW]を短く押します。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、10個のバンドの中から聞きたいバンドを選択します。
- ⑤ [ENT MW]を短く押すと、バンドサーチを開始します。

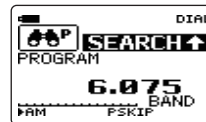
※ バンド選択画面に表示する周波数は、前回受信した周波数です。バンドサーチするときは、この周波数からスタートします。



バンドサーチを選択



BC(1M)バンドを選択

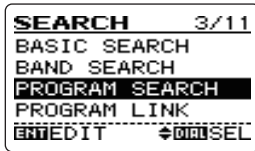


バンドサーチ中の表示

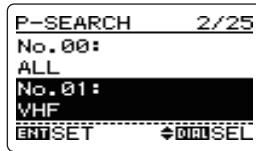


◇プログラムサーチの操作

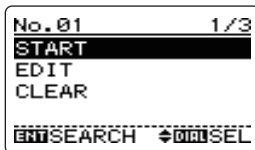
- ① [SEARCH]を長く(約1秒)押して、MENU画面のサーチ設定にします。
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「プログラムサーチの設定(PROGRAM SEARCH)」項目を選択します。
- ③ [ENT MW]を短く押します。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、登録しているプログラムの中から聞きたいプログラム番号を選択します。
※プログラムを書き込むときはP35をご参照ください。
- ⑤ [ENT MW]を短く2回押すと、プログラムサーチを開始します。
 - プログラムサーチ中に[◀]または[▶]を押すと、プログラムサーチ番号を切り替えます。



プログラムサーチ項目選択



No.01 選択



スタート選択



プログラムサーチ(No.01)の表示

◇プログラムリンクサーチの操作

- ① [SEARCH]を長く(約1秒)押して、MENU画面のサーチ設定にします。
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「プログラムリンクの設定(PROGRAM LINK)」項目を選択します。
- ③ [ENT MW]を短く押します。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、登録しているリンクチャンネルの中から聞きたいチャンネルを選択します。
※リンクを設定するときはP36をご参照ください。
- ⑤ [ENT MW]を短く2回押すと、プログラムリンクサーチを開始します。
 - プログラムリンクサーチ中に[◀]または[▶]を押すと、リンク番号を切り替えます。



プログラムリンクサーチ
リンク番号No.0の表示

◇工場出荷時のプログラムサーチについて

プログラムサーチは、No.00~No.24の各プログラムに書き込んだ周波数範囲をサーチします。工場出荷時、設定されているプログラムサーチの内容は、次のとおりです。

- プログラムサーチ
 - No.00 : ALL 0.150MHz~1300.000MHz
 - No.01 : VHF 144.000MHz~146.000MHz
 - No.02 : UHF 430.000MHz~440.000MHz

※No.03~No.24は工場出荷時、何も設定されていません。

5 サーチのしかた

◇オートメモリーライトサーチの操作

- ①受信したいサーチを選択し、開始します。
- ②[ENT MW]を長く(約1秒)押すと、“AW”表示が点滅して、オートメモリーライトサーチを開始します。

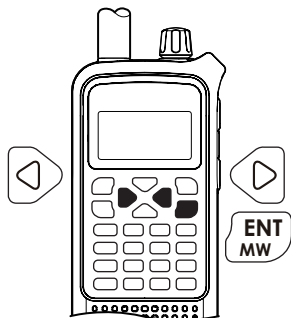
●信号を受信すると、

5秒間停止して、受信した周波数をオートメモリーライト用チャンネルのCH.000に書き込みます。

(書き込み時はピープ音が“ピッピッ”と鳴ります。)

書き込みが終わると自動的に再スタートします。

- オートメモリーライト用チャンネルは、CH.000～CH.199の合計200CHあります。
 - サーチ中に[◀]または[▶]を押すと、バンドまたはプログラムサーチ範囲が切り替わります。
- ③[ENT MW]を長く(約1秒)押すと、オートメモリーライトサーチを解除します。



※それ以前に書き込んだオートメモリーライト用チャンネルがあれば、順次上位チャンネルにシフトします。

※すべてのオートメモリーライト用チャンネル(200CH)を書き込んだときは、ピープ音を“ピー”と鳴らしてオートメモリーライトサーチを解除します。

※すべてのオートメモリーライト用チャンネルが書き込まれている状態では、オートメモリーライトサーチを開始できません。

◇オートメモリーライト用チャンネルの呼び出し

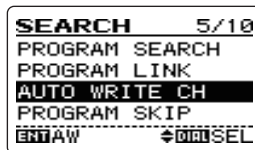
オートメモリーライトサーチで書き込んだチャンネルを呼び出します。

- ①MENU画面から、「オートライトCH」の設定内容に入ります。

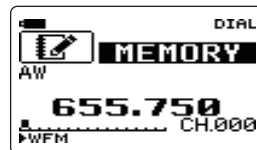
MENU⇒SEARCH⇒AUTO WRITE CH (P64)
(メニュー⇒サーチ⇒オートライトCH)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- ②[DIAL]ツマミを回して、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。



オートライト用チャンネル選択



オートメモリーライト用
チャンネル表示

◇オートメモリーライト用チャンネルからメモリーチャンネルへのコピーのしかた

オートメモリーライトサーチで書き込んだチャンネルをメモリーチャンネルへコピーします。

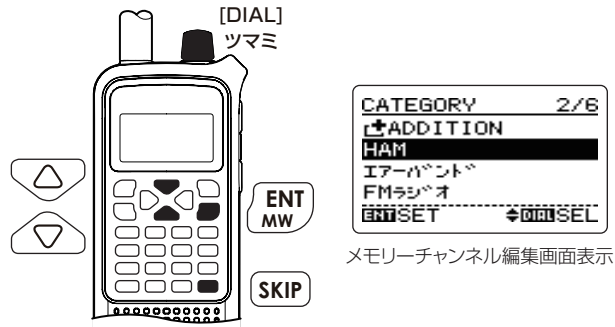
メモリーチャンネルに登録しておくチャンネルを整理できて便利です。

- ①MENU画面から、「オートライトCH」の設定内容に入ります。
- ②[DIAL]ツマミを回して、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。

- ③[ENT MW]を長く(約1秒)押すと、メモリーチャンネル編集画面を表示します。

※書き込みたいカテゴリ、グループ、名前を選択して[ENT MW]を長く(約1秒)押すとコピーできます。

カテゴリ、グループ、名前の編集は、6章(※P39～P44)をご覧ください。



◇オートメモリーライト用チャンネルのクリア操作

オートメモリーライトサーチで書き込んだチャンネルをすべて消去します。

※1CHごとのクリアはできません。

保存しておきたいチャンネルは、メモリーチャンネルへコピーしておくことをおすすめします。

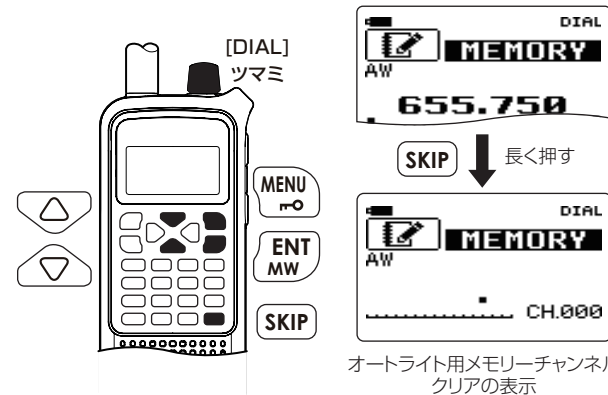
- ①MENU画面から、「オートライトCH」の設定内容に入ります。

MENU→SEARCH→AUTO WRITE CH (※P64)
(メニュー→サーチ→オートライトCH)

[MENU mO] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- ②[DIAL]ツマミを回して、オートメモリーライト用チャンネルを選択します。

- ③[SKIP]を長く(約1秒)押すと、すべてのオートメモリーライト用チャンネルをクリアします。



5 サーチのしかた

■プログラムの書き込みかた

個別にサーチしたい周波数範囲を設定できます。

- ① [SEARCH]を長く(約1秒)押し、サーチ設定画面にします。
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「プログラムサーチの設定(PROGRAM SEARCH)」項目を選択します。
- ③ [ENT MW]を短く押します。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、No.00～No.24の中から登録したい番号を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[EDIT]を選択します。
- ⑥ [ENT MW]を短く押します。
 - プログラム書き込み画面に入ります。
- ⑦ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[LOW]を選択します。

【ご注意】 [LOW]/[HIGH]項目の周波数を入力していないときは、ほかの項目は編集できません。
- ⑧ [ENT MW]を短く押します。

```
No.03      2/3
START
EDIT
CLEAR
-----
ENTSET-----<ENTSEL
```

プログラムサーチNo.03の
EDIT選択



```
EDGE EDIT  1/6
NAME:      [ENT]
LOW:
HIGH:
TS:-
-----
ENTEDIT-----<ENTSEL
```

プログラムサーチ編集画面

```
EDGE EDIT  2/6
NAME:      [ENT]
LOW:
HIGH:
TS:-
-----
ENTEDIT-----<ENTSEL
```

LOW選択

```
EDGE EDIT  3/6
NAME:      [ENT]
LOW: 144.50000
HIGH: 145.50000
TS:-
-----
ENTEDIT-----<ENTSEL
```

LOWとHIGH入力後の表示

- ⑨ [0]～[9]または[・ATT]で、周波数を設定します。
- ⑩ ⑦で[HIGH]を選択し、⑧⑨を繰り返して[HIGH]の周波数を設定します。
- ⑪ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[NAME]/[TS]/[MODE]/[ATT]を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑫ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、設定内容を選択します。
 - ※名前入力のしかたはP43、P44を参照ください。
- ⑬ [ENT MW]を短く押します。
- ⑭ プログラムの設定を解除するときは、[CLR SQL]を短く押します。

◇プログラムのクリア操作

プログラムに登録している編集内容を削除します。

- ① 左記の「プログラムの書き込みかた」の①～④の操作をして、削除したい番号を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[CLEAR]を選択します。
- ③ [ENT MW]を短く押します。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[YES]を選択します。
- ⑤ [ENT MW]を短く押して削除を確定します。

```
No.03      3/3
START
EDIT
CLEAR
-----
ENTSET-----<ENTSEL
```

CLEAR選択

```
No.03      3/3
ST: CLEAR?
ED:  YES
CL:  NO
-----
ENTSET-----<ENTSEL
```

YES選択

■ プログラムリンクの編集

サーチのとき、個別にリンクさせたい周波数範囲をプログラムの中から選択できます。

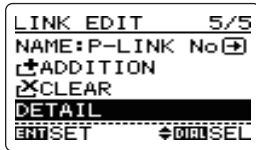
※プログラムサーチリンクは、10個のリンク項目があり、初期設定でプログラムチャンネルNo.00~No.24すべてをリンクしています。

◇リンクしているプログラムの呼び出し

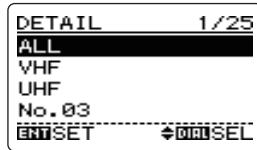
①MENU画面から、「プログラムリンク」の設定内容に入ります。

MENU⇒SEARCH⇒PROGRAM LINK (P63)
 (メニュー⇒サーチ⇒プログラムリンク)
 [MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- ② [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、No.0~No.09の中からリンクサーチしたい番号を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ③ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、[DETAIL]を選択します。リンクしているプログラムの一覧が表示します。
- ④ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、確認したいプログラムを選択し、[ENT MW]を短く押します。プログラムの書き込み情報が表示します。



DETAIL選択



プログラム(ALL)選択

◇リンクしているプログラムのクリア操作

- ①左記の「リンクしているプログラムの呼び出し」の①、②の操作をして、削除したいリンク番号を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ② [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、[CLEAR]を選択します。リンクしているプログラムの一覧が表示します。
- ③ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、削除したいプログラムを選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ④ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、[YES]を選択し、[ENT MW]を短く押します。選択したプログラムのリンクを解除します。

◇プログラムのリンク設定

- ①左記の「リンクしているプログラムの呼び出し」の①、②の操作をして、リンクさせたい番号を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ② [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、[ADDITION]を選択し [ENT MW]を短く押します。新たにリンクできるプログラムの一覧が表示します。
 【ご注意】すべてのプログラムをリンク設定している場合、[ADDITION]は無効になります。
- ③ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、リンクさせたいプログラムを選択し、[ENT MW]を短く押します。選択したプログラムのリンク設定が完了します。

5 サーチのしかた

■スキップ周波数の指定と解除のしかた

◇スキップ周波数の登録

サーチ中に、一時停止した周波数をサーチの対象から飛び越す(スキップ)ように指定する機能です。

M-CHにSKIP登録した周波数は、サーチのときにスキップしますので、頻繁に停止するような周波数はスキップに登録しておくこと快適なサーチができて便利です。

① サーチ中に周波数が一時停止します。

② [SKIP]を長く(約1秒)押します。

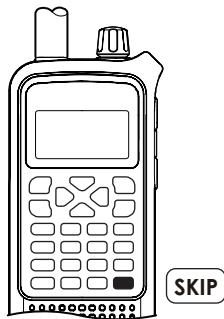
ピピピと鳴り、一時停止した周波数を、スキップ周波数として新規カテゴリと新規グループを作成し、下記の名前で自動的に書き込まれます。

カテゴリ：Program Search グループ：PSKIP1

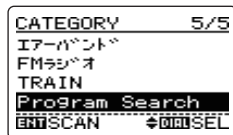
※グループ(PSKIP1)は最大100Chまでです。

101Chからは自動的にPSKIP2に書き込まれます。

③ 書き込みが完了すると、サーチが再スタートします。



サーチで周波数を受信中



新規カテゴリ
「Program Search」が作成

◇スキップ周波数の指定と解除

① スキャンから [HOLD V] を短く押して一時停止します。

② [SKIP] を短く押すごとに、“SKIP”表示を下記のように切り替えます。

“SKIP”→“PSKIP”→“OFF(消灯)”

●SKIP : スキャンのとき、指定したM-CHをスキップします。

●PSKIP : サーチ/スキャンのとき、指定したM-CH(周波数)をスキップします。

●OFF(消灯) : 指定したM-CHは、スキップを解除してサーチやスキャンの対象になります。

プログラムスキップとは

“PSKIP”に設定したM-CH(周波数)をサーチ中にスキップします。そのため、わずらわしい周波数をさげ、サーチのスピードアップができます。

この設定は、MENU画面のプログラムスキップの設定(※P64)で“ON(初期設定)/OFF”できます。

設定が“ON”のときは、サーチ中の画面で“PSKIP”の表示が点滅します。



“PSKIP”が点滅

■スキップの指定

◇スキップの設定

スキャン中に、一時停止した周波数をスキャンの対象からはずす(スキップ)ように指定する機能です。

- ① MENU画面から、スキャンの「スキップ」の設定内容に入ります。

MENU⇒SCAN⇒SKIP (P60)
(メニュー⇒スキャン⇒スキップ)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、スキップさせたいカテゴリを選択します。

※[ENT MW]を押して②の操作を繰り返すと、グループやネームを選択します。

- ③ [SKIP]を短く押すごとにスキップの設定をON/OFFします。

◇グループスキップの指定と解除

グループごとにスキャンの対象からはずす(スキップする)ように指定する機能です。

- ① スキャン(P19)を開始します。
- ② [SKIP]を長く(約1秒)押します。
- ③ [DIAL]ツマミで、グループスキップのON/OFFを選択し、[ENT MW]を短く押します。

- ON : 指定したM-CHのグループをスキップします。
- OFF : 指定したM-CHのグループをスキップしません。

※グループスキップの設定は、MENU画面のスキャンの「スキップ」の設定で確認できます。



グループスキップ OFF選択



グループスキップ ON選択

【ご注意】

“SKIP”を指定しているカテゴリやグループは、リンクをONに設定しても、スキップします。

6

メモリーに書き込む

■サーチで受信した周波数をメモリーへ書き込む

サーチで受信した周波数をメモリーチャンネル(M-CH)に書き込み、または書き替えをします。

メモリーに書き込むことで、もう一度サーチしなくても、書き込んだ場所を選択すれば聞くことができます。

※VFOモードで受信した周波数も書き込みます。

M-CHには、[カテゴリ]/[グループ]/[ネーム]/[CH]という階層に分類して書き込みます。

各階層の新規登録ができる数は以下のとおりです。

- カテゴリ : 最大26個
- グループ : 最大100個(カテゴリごとに)
- ネーム : 最大100個(グループごとに)
- CH : 最大6個(ネームごとに)

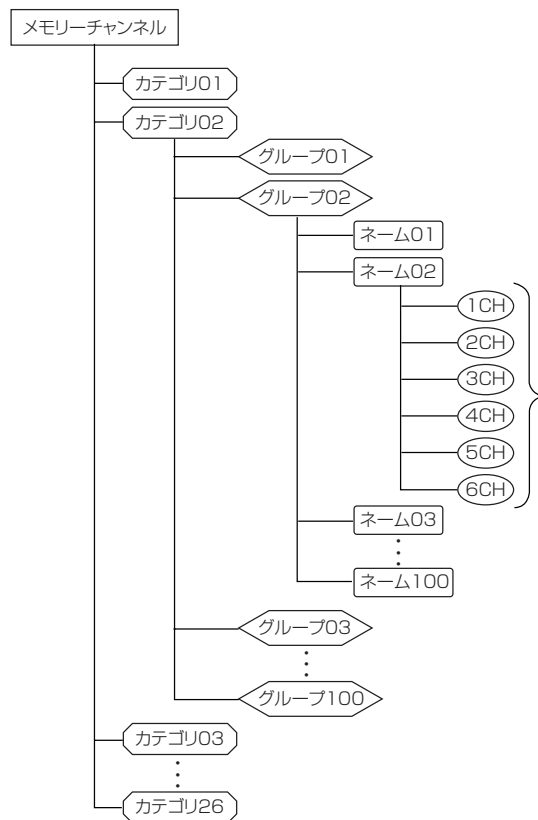
本製品には、通常のM-CHとして1600CH、プログラムサーチ用チャンネルとして25CH、およびオートメモリーライト200CHの合計1825CHを内蔵しています。

◆ M-CHに記憶できる内容

すべてのM-CHで受信周波数のほかに、下記の内容を記憶します。※プログラムサーチ用、オートメモリーライト用は除く

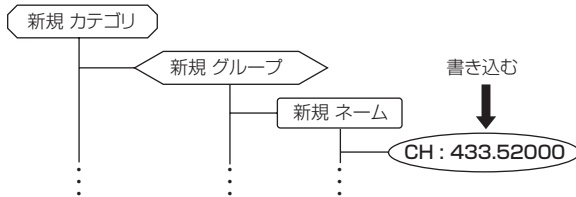
- 「デュプレックス」、「シフト方向(+/-)」、「オフセット周波数」、「トーンスケルチのトーン周波数と各種トーン機能」、「DTCSコード・極性」、「スキップ」、「TS」、「受信モード(電波型式)」、「プライオリティ」、「ストップビーブ」、「VSC」、「ATT」、「キャンセラー」、「TRAIN周波数」

●メモリーチャンネルの階層図



◇M-CHの書き込みかた

《例》一時停止した、“433.52000MHz”を新規カテゴリの
新規グループの新規ネームに書き込む場合



- ① サーチモードで433.52000MHzが一時停止します。
- ② [HOLD V]を短く押します。
- ③ [ENT MW]を長く(約1秒)押して、カテゴリ編集画面に入ります。

[カテゴリ編集画面]

- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[ADDITION]を選択し、[ENT MW]を短く押します。

すでに登録しているカテゴリに追加したい場合は、そのカテゴリを選択します。

※そのあと、[▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで [ADDITION]またはすでに登録しているグループを選択し、[ENT MW]を短く押します。

※[ADDITION]を選択した場合は、グループ編集画面(手順⑧)に移り、すでに登録しているグループを選択した場合は、NAME編集画面(手順⑩)に移ります。

- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、カテゴリの編集項目を選択し、[ENT MW]を短く押して設定します。

カテゴリの編集項目

- NAME ●ICON ●SKIP
- LINK ●DIRECT KEY(※P49、P50)

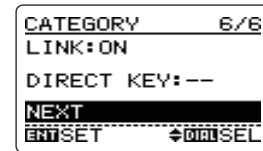
※名前入力のしかたはP43、P44を参照ください。

- ⑥ [ENT MW]を短く押して、カテゴリ編集画面に戻ります。
- ⑦ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[NEXT]を選択し、[ENT MW]を短く押します。

グループ編集画面に入ります。



CATEGORY編集画面



NEXT選択

[グループ編集画面]

- ⑧ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、グループの編集項目を選択し、[ENT MW]を短く押して設定します。

グループの編集項目

- NAME ●SKIP ●LINK ●DIRECT KEY

※名前入力のしかたはP43、P44を参照ください。

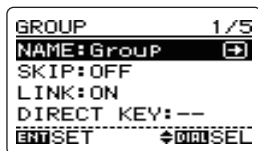
- ⑨ [ENT MW]を短く押して、グループ編集画面に戻ります。
- ⑩ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[NEXT]を選択し、[ENT MW]を短く押します。

ネーム編集画面に入ります。

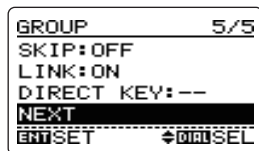
(次ページにつづく)

6 メモリーに書き込む

(グループ編集画面つづき)



GROUP編集画面



NEXT選択

[ネーム編集画面]

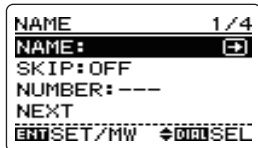
- ⑩ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、ネームの編集項目を選択し、[ENT MW]を短く押して設定します。

ネームの編集項目

- NAME ●SKIP ●NUMBER(※P51、P52)

※名前入力のしかたはP43、P44を参照ください。

- ⑪ [ENT MW]を短く押して、ネーム編集画面に戻ります。
- ⑬ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、[NEXT]を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- CH編集画面に入ります。



NAME編集画面

[ご参考]

メモリーを連続して書き込む場合、前回書き込んだカテゴリ、グループが自動で選択されます。

[CH編集画面]

- ⑭ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、CHの編集項目を選択し、[ENT MW]を短く押して設定します。

CHの編集項目

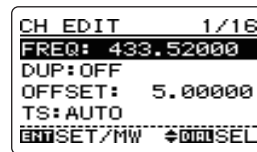
- FREQ ●DUP ●OFFSET
- TS ●MODE ●ATT
- SKIP ●PRIO ●STOP BEEP
- TONE ●TSQF FREQ ●DTCS CODE
- DTCS P ●CANCELLER ●TRAIN FREQ ●VSC

- ⑮ [ENT MW]を短く押して、CH編集画面に戻ります。

- ⑯ [▲]/[▼]または [DIAL]ツマミで、[NEXT]を選択し、[ENT MW]を短く押します。

CH編集画面に戻ります。

- ※スキャンのHOLD中から、VFOモードに移るとき、メモリーの内容がVFOにコピーされます。



CH編集画面

[書き込み]

- ⑰ すべての編集が済んだら、[ENT MW]を長く(約1秒)押しして書き込みます。

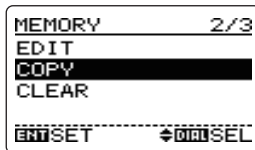
編集前の画面に戻ります。

※ネーム編集画面からも書き込みできます。

◇メモリーに書き込んだCHをコピーする

メモリーに書き込んだチャンネルを別のカテゴリやグループにコピーします。

- ① スキャンを開始し、[HOLD V]を短く押して一時停止します。
※スキャンはどのスキャンでもかまいません。
- ② 以下の操作をして、コピーしたいCHを選択します。
 - カテゴリの切替 : [◀]/[▶]を長く押す
 - グループの切替 : [◀]/[▶]を短く押す
 - CHの切替 : [DIAL]ツマミを回す
- ③ [ENT MW]を長く(約1秒)押して、M-CHの編集画面に入ります。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「COPY」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、コピーしたいカテゴリ、グループ、名前、CHに入り、[ADDITION]選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑥ [ENT MW]を長く(約1秒)押して、編集前の画面に戻ります。

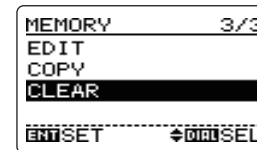


COPY選択

◇メモリーに書き込んだCHをクリアする

メモリーに書き込んだチャンネルをクリアします。

- ① スキャンを開始し、[HOLD V]を短く押して一時停止します。
※スキャンはどのスキャンでもかまいません。
- ② 以下の操作をして、クリアしたいCHを選択します。
 - カテゴリの切替 : [◀]/[▶]を長く押す
 - グループの切替 : [◀]/[▶]を短く押す
 - CHの切替 : [DIAL]ツマミを回す
- ③ [ENT MW]を長く(約1秒)押して、M-CHの編集画面に入ります。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「CLEAR」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、[YES]選択し、[ENT MW]を短く押して編集前の画面に戻ります。

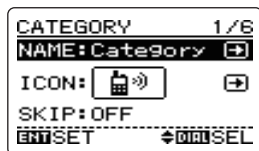


CLEAR選択

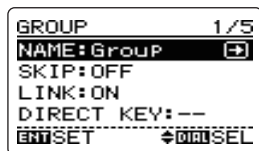
6 メモリーに書き込む

■名前入力のしかた

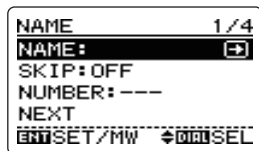
メモリーに記憶しているすべてのチャンネル、または編集した各階層で、アルファベット、カタカナ、数字、記号を使って、16文字以内で名前(ネーム)を入力できます。名前入力は下記の編集画面で入力できます。



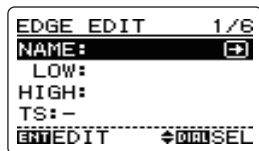
CATEGORY編集画面



GROUP編集画面



NAME編集画面



プログラムサーチ編集画面



プログラムリンクサーチ編集画面

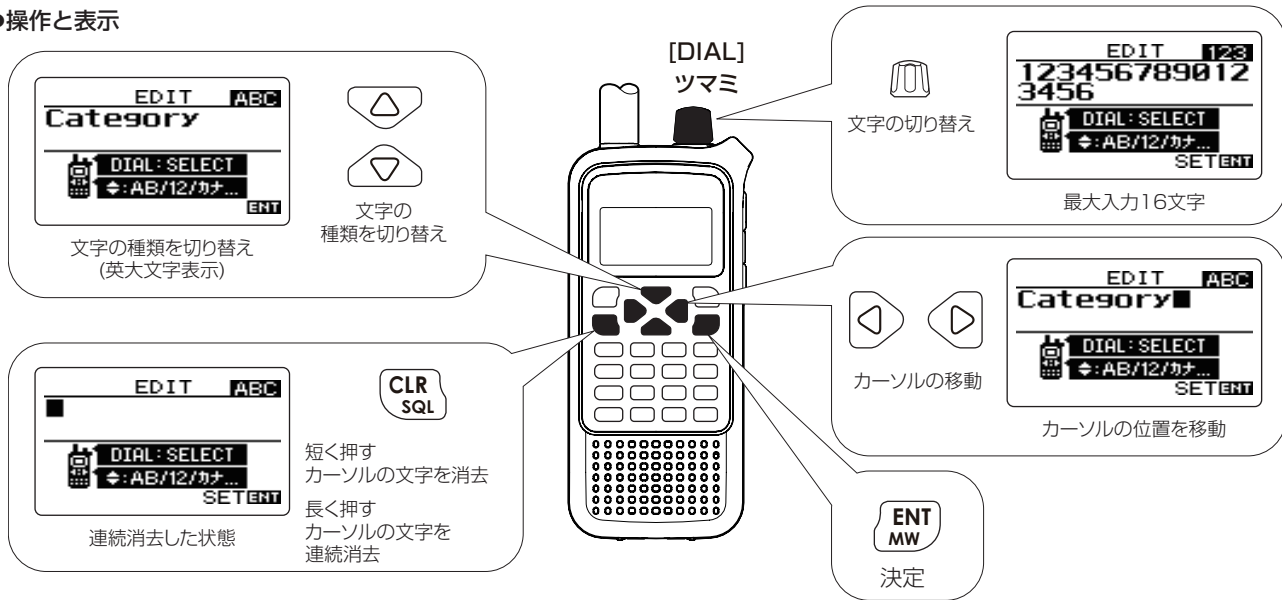
◇文字の編集

- ① 各操作の編集画面に入ります。
- ② [DIAL]ツマミを回して、1桁目の文字を入力します。
- ③ [▲]/[▼]を何度か押し、入力したい文字を切り替えます。

文字の種類		
AB : 英大文字	ab : 英小文字	12 : 数字
! " : 英文記号	カナ : カタカナ	カナ : カタカナ拗音/促音
。 : 和文記号		

- ④ [DIAL]ツマミを回して、文字を入力します。
 - [▶]を押すとカーソルを右に、[◀]を押すとカーソルを左に移動させます。
 - 選択した文字を消去 : [CLR SQL]を短く押す
 - 文字列を連続消去 : [CLR SQL]を長く押す※カテゴリ名とグループ名は、1文字でも入力しないと[ENT MW]を押しても編集画面に戻りません。
※ネームの名前を入力しないときは、スキャンモード画面において、周波数がネーム表示場所に表示します。
- ⑤ 前記④を繰り返して、16文字以内でネームを入力します。
- ⑥ [ENT MW]を短く押して書き込みます。
各編集の画面に戻ります。

●操作と表示



●文字入力一覧

●アルファベット(英大文字) ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ	●カタカナ アイエオカキクケコサシスセソタチツテトナニヌノ
●アルファベット(英小文字) abcdefghijklmnopqrstuvwxyz	●カタカナ拗音/促音 アイエオヤユヨ
●数字 0123456789	●和文記号 「」、・-*
●英文記号 !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?[¥]^_`{ }~ (スペース)	

7 スキャンのしかた

■スキャンについて

スキャンとは、メモリーチャンネル(M-CH)を順番にチェックし、信号の出ているチャンネルを探し出す機能です。

よく使用する周波数や情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(以下、M-CHと略記します)に記憶させておき、その中から呼び出して受信するためのモードです。

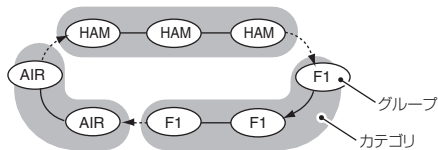
“SKIP”が指定されたM-CHはスキップします。(※P37)

※2CH以上のM-CHを登録していないと、スキャンは動作しません。

◇スキャンの種類について

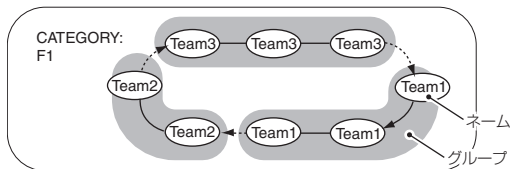
● ALL SCAN(オールスキャン) ※P48

すべてのM-CHをスキャンします。



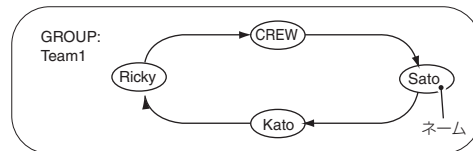
● CATEGORY SCAN(カテゴリースキャン) ※P48

カテゴリ内のM-CHを順番にスキャンします。



● GROUP SCAN(グループスキャン) ※P48

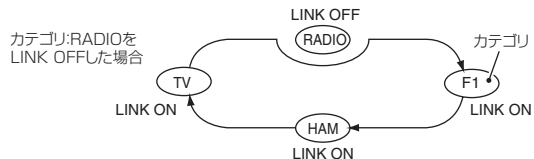
グループ内のM-CHを順番にスキャンします。



● LINK SCAN(リンクスキャン) ※P47

あらかじめリンク設定されたカテゴリ/グループを順番にスキャンします。

スキャン中でもリンクのON/OFFを変更できます。



◇ネームの呼び出し機能について

● NUMBER INPUT(ナンバーインプット) ※P51、P52

特定のネームをスキャン中に直接呼び出します。

表示中のカテゴリに属するネームだけ呼び出します。

◇スケルチの調整

通常スケルチレベルは“**AUTO**”にしていますが、受信信号の強さに応じて、スキャンが一時停止するように調整できます。

- スキャン動作中に **[CLR SQL]** を長く (約1秒) 押したあと、**[DIAL]** ツマミを回すと、スケルチレベルの調整ができます。(☞P16)※スキャンは一時停止します。スケルチレベルを調整後、**[CLR SQL]** を短く押すとスキャンが再スタートします。

◇スキャン中の **[DIAL]** ツマミについて

- スキャン中に **[DIAL]** ツマミを回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、**[DIAL]** ツマミを回すと即時再スタートします。

◇スキャンストップ時のビープ音設定

信号を受信してスキャンが一時停止すると、ビープ音が鳴るように、MENU画面にあるスキャン設定項目の「**ストップビープの設定 (STOP BEEP)**」項目(☞P60)で設定できます。

◇スキップ機能について

すべてのスキャンでスキップ(必要のないM-CHをスキャンから除外する)指定ができます。

スキップの設定についてはP37、P38を参照してください。

◇受信モード(電波型式)について

- スキャン時は、メモリーで設定している電波型式で動作します。

◇信号を受信すると

- 信号が途切れるまで受信を続けます。また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期設定)後に再スタートします。
- 上記のタイマーは、MENU画面にある「**スキャン一時停止タイマーの設定 (PAUSE)**」項目(☞P61)、「**スキャン再スタートタイマーの設定 (RESUME)**」項目(☞P61)で変更できます。

7 スキャンのしかた

■スキャンのしかた

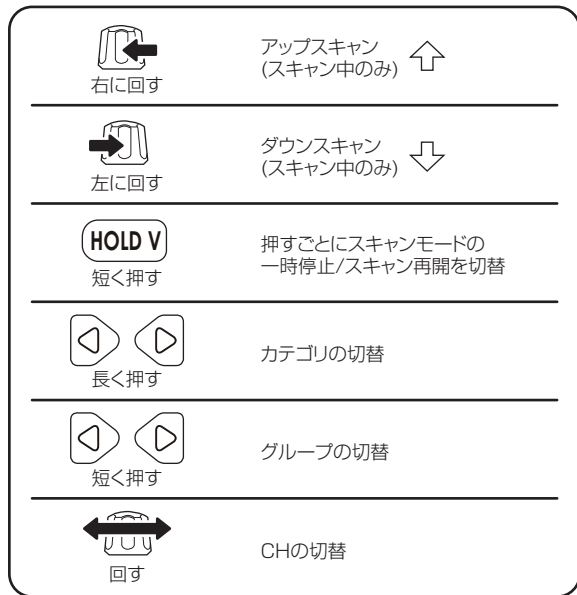
スキャンには、リンクスキャン、オールスキャン、カテゴリスキャン、グループスキャンがあります。

※“SKIP”を指定している M-CH は、スキャン中にスキップします。(P37、P38)

※ M-CH は 2CH 以上書き込んでください。

◇スキャンモード共通の操作

各スキャンすべてで使う操作です。



◇リンクスキャンの操作

[SCAN]を短く押してリンクスキャンを開始します。

信号を受信すると、スキャンを一時停止します。

信号が途切れると、スキャンを再開します。

※[SCAN]を短く押すと、他のスキャンからでも同様にリンクスキャンがスタートします。

MENU画面に入ったときはスキャンを一時停止します。

※リンクの設定については P49、P50 を参照ください。

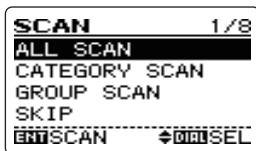


【ご参考】

本製品にはスキャンを止めるキーは存在しません。ただし、[HOLD V]でスキャンを一時停止させて M-CH を確認できます。

◇ オールスキヤンの操作

- ① [SCAN]を長く(約1秒)押して、スキヤン設定画面にします。
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「ALL SCAN」を選択します。
- ③ [ENT MW]を短く押すと、オールスキヤンを開始します。



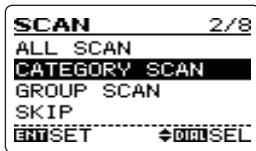
オールスキヤン項目選択



オールスキヤンであらかじめ登録したNHK キョウトを受信した状態

◇ カテゴリスキヤンの操作

- ① [SCAN]を長く(約1秒)押して、スキヤン設定画面にします。
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「CATEGORY SCAN」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ③ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、登録しているカテゴリを選択します。
- ④ [ENT MW]を短く押すと、カテゴリスキヤンを開始します。



カテゴリスキヤン項目選択



カテゴリ「HAM」選択

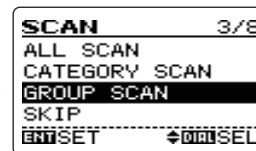
◇ グループスキヤンの操作

- ① [SCAN]を短く押し、[HOLD]を短く押して一時停止します。
- ② [◀]/[▶]を何回か長く押して、グループスキヤンしたいカテゴリを選択します。
- ③ [SCAN]を長く(約1秒)押して、スキヤン設定画面にします。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「GROUP SCAN」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、登録しているグループを選択します。
- ⑥ [ENT MW]を短く押すと、グループスキヤンを開始します。

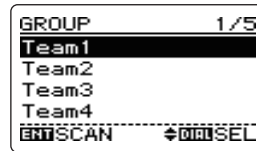
例)カテゴリ「F1」のグループ「Team1」をグループスキヤンする場合



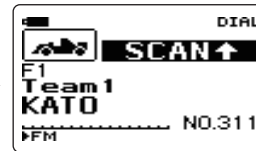
カテゴリ「F1」選択



グループスキヤン項目選択



グループ「Team1」選択



グループスキヤン中の表示

7 スキャンのしかた

■リンクの設定のしかた

各カテゴリと各グループに割り当てたダイレクトキーをリンクスキャン中に入力することで、直接リンクのON/OFFを設定できます。

※ 同じダイレクトキーを複数のカテゴリやグループに設定することはできません。

【ご注意】

“SKIP”を指定しているカテゴリやグループは、リンクをONに設定してもスキップします。

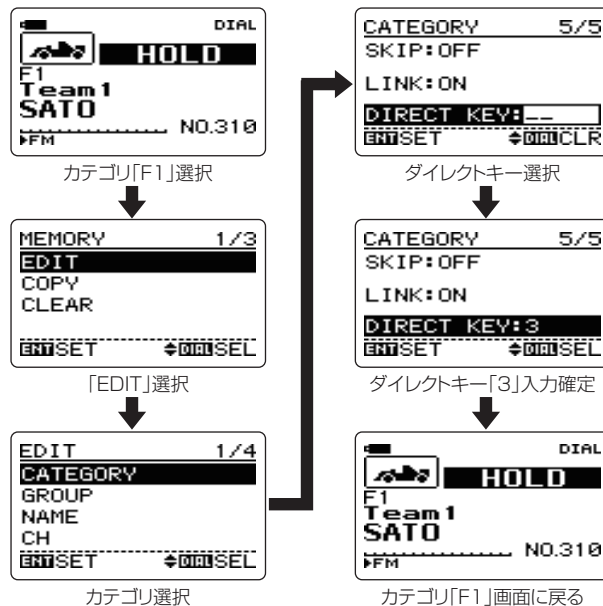
◇ダイレクトキーを設定する

M-CHの編集画面で、ダイレクトキーを設定します。

- ① [SCAN]を短く押し、[HOLD V]を短く押します。
- ② [◀]/[▶]を何回か長く(約1秒)押して、設定したいカテゴリを選択します。
※グループのダイレクトキーを設定したい場合も、そのグループが属するカテゴリを選択します。
- ③ [ENT MW]を長く(約1秒)押して、M-CHの編集画面に入ります。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「EDIT」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「CATEGORY」または「GROUP」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑥ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「DIRECT KEY」を選択し、[ENT MW]を短く押します。

- ⑦ テンキーで0～99までの好きな数字を押します。
※0～9を入力する場合は、数字を入力したあとに[ENT MW]を短く押します。
※設定したダイレクトキーをクリアしたい場合は、[ENT MW]を短く押します。
- ⑧ [CLR SQL]を短く押して編集前の画面に戻ります。

カテゴリ「F1」にダイレクトキー「3」を設定する場合

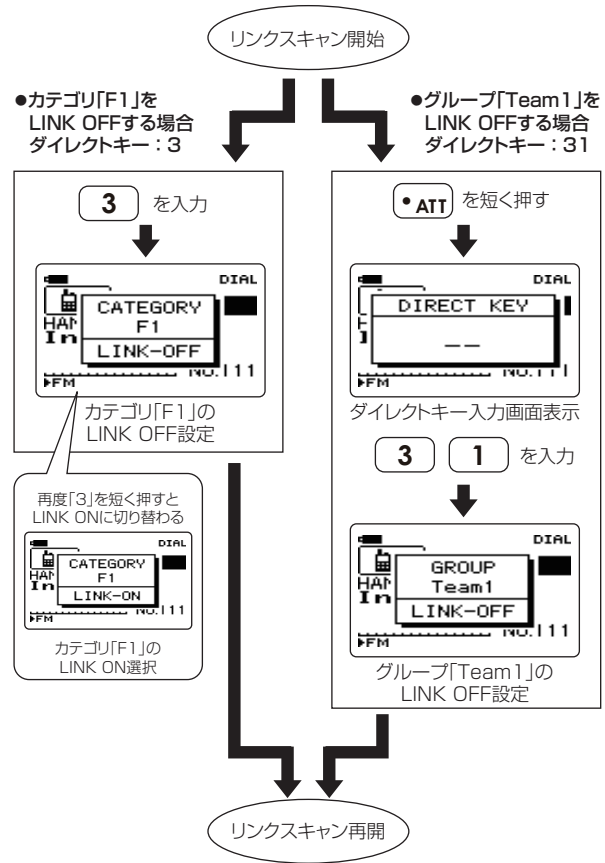


◇リンクスキヤン中にカテゴリまたはグループをリンクさせる

リンクスキヤン中に、特定のカテゴリやグループへのリンクをON/OFFできます。

- ① P49に従ってカテゴリまたはグループのダイレクトキーを設定します。
 - ② [SCAN]を短く押してリンクスキヤンを開始します。
 - ③ ダイレクトキーを入力してリンクのON/OFFを設定します。
 - ダイレクトキーが1桁の場合
テンキーで番号を直接入力
 - ダイレクトキーが2桁の場合
[・ATT]を短く押したあと、テンキーで番号を入力
 - ④ リンク設定をした状態でリンクスキヤンが再開します。
- ※リンクのON/OFFは、M-CHの編集画面からも設定でき、リンクスキヤン中のリンク設定と連動しています。
- ※グループをリンクさせたいときは、そのグループが属するカテゴリもリンクをONに設定してください。

【ご注意】
“SKIP”を指定しているカテゴリやグループは、リンクをONに設定しても、スキップします。



7 スキャンのしかた

■ネーム直接呼び出しのしかた

[HOLD V]を押してスキャンを一時停止しているとき、表示しているカテゴリの中のネームを直接呼び出せます。聞いたたいネームが決まっているときに便利です。

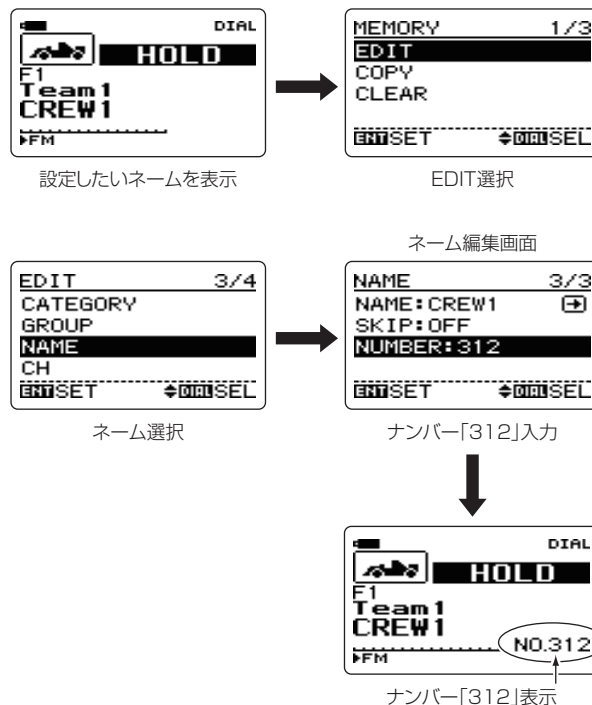
ネームを呼び出すには、ネームの編集画面からナンバー(ネームの呼び出し番号)を設定する必要があります。

◇ナンバーを設定する

ネームの編集画面から、ナンバー(ネームの呼び出し番号)を設定します。

- ① スキャンを開始し、[HOLD V]を短く押して一時停止します。
※スキャンはどのスキャンでもかまいません。
- ② [◀]/[▶]を数回長く(約1秒)押して、設定したいネームのカテゴリを選択します。
- ③ [ENT MW]を長く(約1秒)押して、M-CHの編集画面に入ります。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「EDIT」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「NAME」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑥ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「NUMBER」を選択し、[ENT MW]を短く押します。
- ⑦ テンキーで0～999までの好きな数字を押します。
- ⑧ [CLR SQL]を短く押して編集前の画面に戻ります。

例) カテゴリ「F1」のグループ「Team1」のネーム「CREW1」にナンバー(ネーム呼び出し番号)「312」を設定する場合

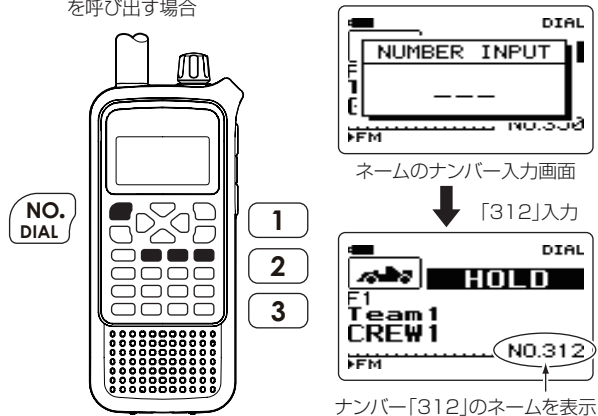


◇スキャンの一時停止中にネームを呼び出す

- ① P51 に従ってネームのナンバーを設定します。
- ② スキャンを開始し、[HOLD V] を短く押して一時停止します。
※スキャンはどのスキャンでもかまいません。
- ③ [◀] または [▶] を長く (約1秒) 押して聞きたいネームのカテゴリを選択します。
- ④ [NO. DIAL] を短く押します。
- ⑤ 設定したネームのナンバーをテンキーで入力します。
希望のネームを表示します。

※ネームの中に、M-CH が複数入っている場合、M-CH 編集画面の CH 項目の一番上の M-CH がネームナンバーの対象になります。

例) ネームナンバー「312」
を呼び出す場合



【ナンバー設定時のご注意】

ナンバーは、0～9、00～99、000～999と全て選べますが、1、01、001は別のナンバーになります。
例えば、ナンバー「1」を呼び出す場合は、
[No. DIAL]→[1]→[ENT MW]と操作します。
[No. DIAL]→[0]→[1]→[ENT MW]と操作すると、ナンバー「01」が呼び出されます。

8 プライオリティのしかた

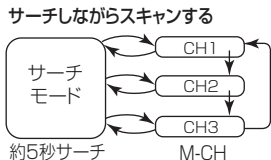
■ プライオリティ機能とは

プライオリティ機能とは、サーチまたはスキャンしながら指定のM-CHの信号の有無を確認できる機能です。

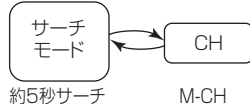
◇ プライオリティの種類について

● プライオリティサーチ

サーチをしながら、スキャンしているM-CHを順番に受信(監視)します。
スキャンのHOLD中は、表示しているM-CHだけを受信(監視)します。

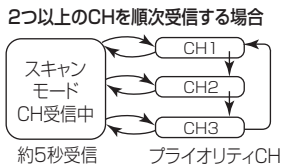
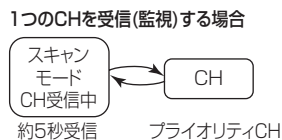


サーチしながらM-CHを受信(監視)する



● プライオリティスキャン

スキャンで信号を受信したときに、指定のプライオリティCHを受信(監視)します。
2つ以上のプライオリティCHを指定している場合は、順番に受信(監視)します。



■ プライオリティサーチのしかた

① 受信(監視)したいM-CHを設定する

受信(監視)したいスキャンを設定する場合(2CH以上)

- ① 受信(監視)したいスキャンをスタートさせます。
(☞P47、P48)

受信(監視)したいM-CHを呼び出す場合(1CHのみ)

- ① [SCAN]を短く押したあと、[HOLD V]を短く押します。
- ② 受信(監視)したいM-CHを選択します。
カテゴリの切替 : [◀]/[▶]を長く押し
グループの切替 : [◀]/[▶]を短く押し
CHの切替 : [DIAL]ツマミを回す

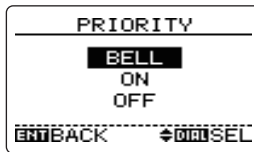
② プライオリティサーチ設定をONにする

- ① MENU画面から、サーチの「プライオリティ」の設定内容に入ります。

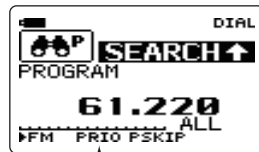
MENU⇒SEARCH⇒*PRIORITY* (☞P64)
(メニュー⇒サーチ⇒プライオリティ)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「ON」または「BELL」を選択します。



BELL選択



プライオリティサーチ中の表示

② [CLR SQL]を短く押すと、“PRIO”表示が点灯します。

③各サーチを開始します (P30～P32)

- ※プライオリティサーチがスタートします。
- ※一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのサーチと同じです。
- ※プライオリティサーチで、M-CHを受信して一時停止したときは、[CLR SQL]を短く押すと強制的にサーチの画面に戻ります。
- ※プライオリティサーチ中に、[HOLD V]を短く押すと一時停止します。
- プライオリティサーチ中に、[HOLD V]を長く押すとVFOモードに入り、VFOからM-CHを5秒に1回受信(監視)します。

[ご注意]

ONに設定した場合、M-CHを受信するとそのチャンネルで一時停止し、一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのサーチと同じです。
 BELLに設定した場合は、M-CHを受信してもベルが鳴るだけで、一時停止しません。

◇プライオリティサーチの動作

●ON選択時

M-CHの信号を受信すると、一時停止します。

サーチしながらM-CHを受信(監視)する



約5秒サーチ

サーチしながらスキャンする

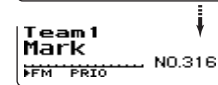
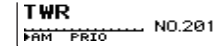


約5秒サーチ



約5秒中に1回

スキャンHOLD中のM-CHを受信

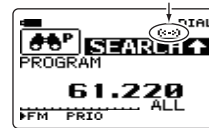


約5秒に1回

スキャン中のM-CHを順番に受信

●BELL選択時

M-CHの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてベルマークが点滅します。



約5秒サーチ



約5秒に1回 M-CHを受信

8 プライオリティのしかた

■ プライオリティスキャンのしかた

【準備】 プライオリティCHを設定する

受信(監視)したいM-CHをプライオリティCHに設定します。

- ① [SCAN]を短く押したあと、[HOLD V]を短く押します。
- ② 受信(監視)したいM-CHを表示します。
カテゴリの切替 : [◀]/[▶]を長く押す
グループの切替 : [◀]/[▶]を短く押す
CHの切替 : [DIAL]ツマミを回す
- ③ [ENT MW]を長く(約1秒)押して、M-CHの編集画面に入ります。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「EDIT」を選択し[ENT MW]を短く押します。
- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「CH」を選択し[ENT MW]を短く押します。
- ⑥ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「PRIO」を選択し[ENT MW]を短く押します。
- ⑦ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「ON」を選択し[ENT MW]を短く押します。
※プライオリティCHの設定を解除したい場合は、「OFF」を選択します。
- ⑧ [ENT MW]を長く(約1秒)押します。
- ⑨ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「YES」を選択し[ENT MW]を短く押して変更した設定を書き込みます。

① プライオリティスキャン設定をONにする

- ① MENU画面から、スキャンの「プライオリティ」の設定内容に入ります。

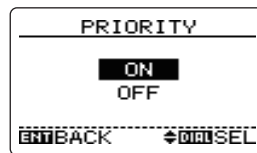
MENU⇒SCAN⇒**PRIORITY** (P60)
(メニュー⇒スキャン⇒プライオリティ)

[MENU]⇒[O]:メニュー [▲]/[▼]:選択 [ENT MW]:決定

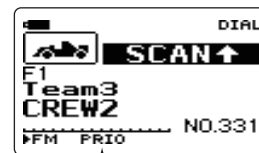
- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「ON」を選択します。
- ③ [CLR SQL]を短く押すと、「PRIO」表示が点灯します。

② 各スキャンを開始します (P47、P48)

- ※一時停止の時間および再スタートの条件は、スキャンと同じです。
- ※プライオリティスキャンがスタートします。
- ※信号を受信しスキャンを一時停止しても、5秒以内に再スタートしたときはプライオリティCHを受信(監視)しません。
- ※プライオリティスキャン中に[HOLD V]を短く押すとプライオリティスキャンを一時停止します。



プライオリティスキャン設定のON選択

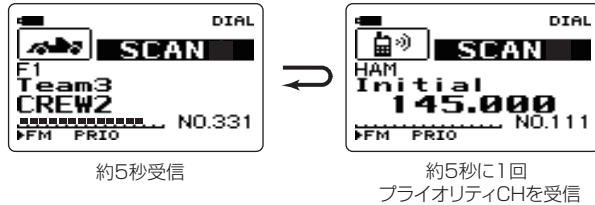


プライオリティスキャン中の表示

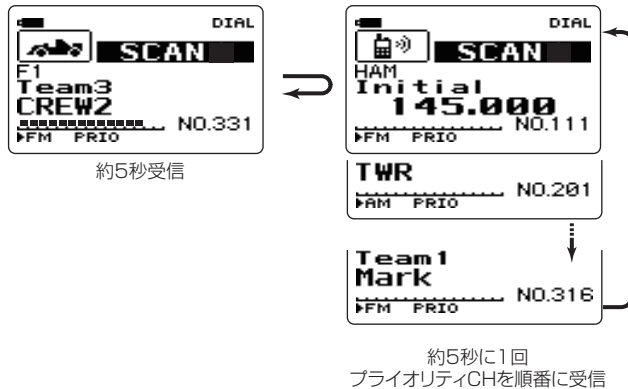
◇プライオリティスキャンの動作

プライオリティCHの信号を受信すると、一時停止します。

●1CHだけの場合



●2CH以上の場合



■プライオリティサーチ、プライオリティスキャンの解除のしかた

プライオリティ設定を解除するには、サーチまたはスキャンの「**プライオリティの設定(PRIORITY)**」画面に入り、“OFF”に設定してください。

※プライオリティサーチは[CLR SQL]を短く押しても解除しません。

※プライオリティサーチは[HOLD V]を短く押して一時停止の状態にしても解除しません。

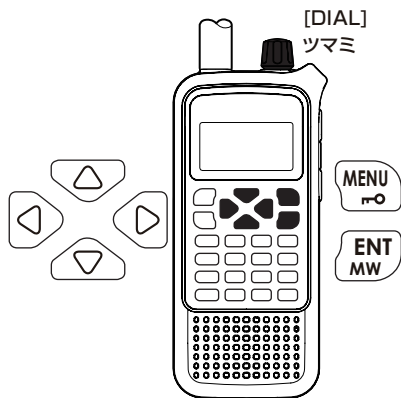
一時停止をしながら、特定のM-CHを約5秒に1回受信(監視)します。

■ 設定項目の選択方法

MENU画面では、初期設定されている条件を運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更します。

MENU画面に表示される設定モードから設定項目を選択し、その設定内容を変更します。

各設定内容で変更できる運用条件を次のページから記載していますので、このページと併せてご覧ください。



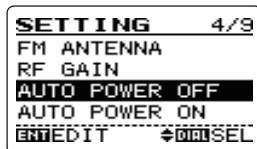
設定内容を変更する

(例：オートパワーオフ機能を30分に設定するとき)

- ① [MENU] を短く押します。(MENU画面を表示します。)
- ② [▲] または [▼] を短く押して、“SETTING”を選択します。(DIAL)を回しても選択できます。)



- ③ [ENT MW] または [▶] を短く押すと、セッティングの設定項目を表示します。
- ④ [▲] または [▼] を短く押して、“AUTO POWER OFF”(オートパワーオフ機能)を選択します。(DIAL)を回しても選択できます。)



- ⑤ [ENT MW] または [▶] を短く押すと、設定値を表示します。

- ⑥ [▲] または [▼] を短く押して、“30MIN”を選択します。(DIAL)を回しても選択できます。)
※画面を一段階ずつ戻りたいときは、[◀]を短く押ししてください。
※つづけて設定するときは、②～⑥を繰り返し操作してください。
※MENU画面の一番上の階層に戻りたいときは、[MENU] を短く押ししてください。



- ⑦ [CLR SQL] を短く押して、MENU画面を解除します。

■ 設定項目の一覧表

MENU画面の設定項目

MENU		
参照	設定項目	設定項目の名称
P59～P61	SCAN	スキャンの設定項目
P62～P66	SEARCH	サーチの設定項目
P66～P70	MODE/TS/TONE	モード/TS/トーンの設定項目
P71～P75	SETTING	セッティングの設定項目
P76～P77	SOUNDS	サウンドの設定項目
P77～P78	DISPLAY	ディスプレイの設定項目

スキャンの設定項目

SCAN		
参照	設定項目	設定項目の名称
P59	ALL SCAN	オールスキャンの設定
P59	CATEGORY SCAN	カテゴリスキャンの設定
P60	GROUP SCAN	グループスキャンの設定
P60	SKIP	スキップの設定
P60	PRIORITY	プライオリティスキャンの設定
P60	STOP BEEP	スキャンストップビーブの設定
P61	PAUSE	スキャン一時停止タイマーの設定
P61	RESUME	スキャン再スタートタイマーの設定

サーチの設定項目

SEARCH		
参照	設定項目	設定項目の名称
P62	BASIC SEARCH	ベーシックサーチの設定
P62	BAND SEARCH	バンドサーチの設定
P62	PROGRAM SEARCH	プログラムサーチの設定
P63	PROGRAM LINK	プログラムサーチリンクの設定
P64	AUTO WRITE CH	オートライトチャンネル設定
P64	PROGRAM SKIP	プログラムスキップの設定
P64	TONE SEARCH	トーンサーチの設定
P64	PRIORITY	プライオリティサーチの設定
P65	STOP BEEP	サーチストップビーブの設定
P65	PAUSE	サーチ一時停止タイマーの設定
P66	RESUME	サーチ再スタートタイマーの設定

モード/TS/トーンの設定項目

MODE/TS/TONE...		
参照	設定項目	設定項目の名称
P66	DUPLEX	デュプレクスモードの設定
P67	OFFSET FREQ	オフセット周波数の設定
P67	TS	チューニングステップの設定
P68	MODE	受信モード(電波型式)の設定
P68	TONE	トーン機能の設定
P69	TSQL FREQ	CTCSS トーン周波数の設定
P69	DTCS CODE	DTCSコードの設定
P70	DTCS POLARITY	DTCS位相の設定
P70	CANCELLER	キャンセラーの設定
P70	TRAIN FREQ	空線信号周波数の設定
P70	VSC	VSCの設定

9 MENU 画面について

■ 各設定項目の一覧表(つづき)

セッティングの設定項目

SETTING		
参照	設定項目	設定項目の名称
P71	AM ANTENNA	AMアンテナ切替の設定
P71	FM ANTENNA	FMアンテナ切替の設定
P71	RF GAIN	受信感度(RF GAIN)機能の設定
P72	AUTO POWER OFF	オートパワーオフ機能の設定
P72	AUTO POWER ON	オートパワーオン機能の設定
P73	POWER SAVE	パワーセーブ機能の設定
P73	DIAL SPEED-UP	ダイヤルスピードの設定
P74	LOCK	キーロック機能の設定
P74	CI-V SET	CI-V の設定

サウンドの設定項目

SOUNDS		
参照	設定項目	設定項目の名称
P76	KEY-TOUCH BEEP	キー操作音の設定
P76	BEEP LEVEL	ビーブ音(操作音)レベルの設定
P76	AF FILTER	AFフィルター機能の設定
P77	tone control	トーンコントロール設定

ディスプレイの設定項目

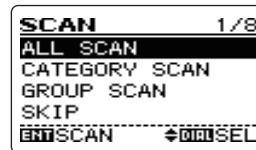
DISPLAY		
参照	設定項目	設定項目の名称
P77	BACKLIGHT	ディスプレイバックライトの設定
P77	LCD CONTRAST	LCDコントラストの設定
P78	OPENING LOGO	オープニングロゴの設定
P78	LANGUAGE	表示言語(英語/日本語)の設定
P78	FONT SIZE	フォントサイズの設定

■ スキャンの項目について

◆ オールスキャンの設定

周波数範囲のすべてをスキャンする項目です。(P48)

- ALL SCAN (オール スキャン)



オールスキャン(英語)

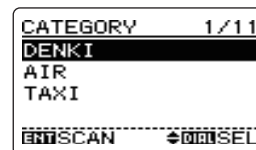


オールスキャン(日本語)

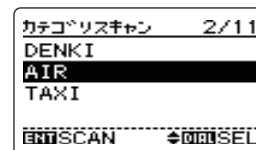
◆ カテゴリスキャンの設定

登録したカテゴリを選択し、スキャンする項目です。(P48)

- CATEGORY SCAN (カテゴリ スキャン)



カテゴリスキャン(例:DENKI)

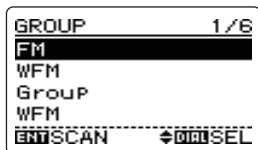


カテゴリスキャン(例:AIR)

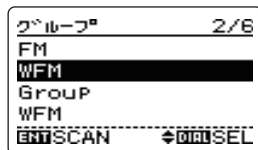
◆ グループスキャンの設定

登録したグループを選択し、スキャンする項目です。(※P48)

● GROUP SCAN (グループ スキャン)



グループスキャン(例:FM)

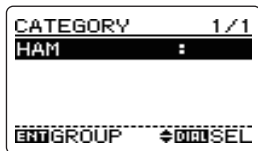


グループスキャン(例:WFM)

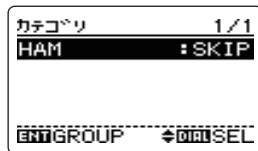
◆ スキップの設定

各階層の各項目に対してスキップ設定する項目です。(※P38)

● SKIP



スキップ設定なし



スキップ設定あり

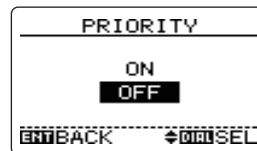
◆ プライオリティスキャンの設定

プライオリティスキャンの“ON/OFF”を設定する項目です。

● PRIORITY (プライオリティ)

ON : プライオリティスキャンを有効にします。

OFF : プライオリティスキャンを無効にします。(初期設定)



プライオリティ オフ



プライオリティ オン

◆ スキャンストップビーブ機能の設定

スキャン動作中に、信号を受信してスキャンが一時停止したときのビーブ音を設定する項目です。

● STOP BEEP(ストップ ビープ)

ON : ビープ音を鳴らします。

OFF : ビープ音を鳴らしません。(初期設定)



ストップビーブ オフ



ストップビーブ オン

9 MENU 画面について

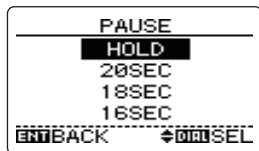
◆スキャン一時停止タイマーの設定

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。設定時間だけ受信をつづけ、設定時間を過ぎると再スタートします。

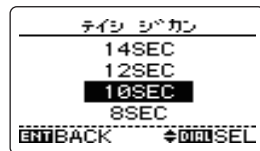
●PAUSE (テイシ ジカン)

HOLD (ホールド) : 信号を受信している間は、一時停止をつづけ、信号がなくなると「スキャン再スタートタイマーの設定」の条件で再スタートします。(初期設定)

2~20SEC : 2秒ごとに設定できます。
なお、停止中に信号がなくなると、「スキャン再スタートタイマーの設定」の条件で再スタートします。



信号受信中は停止



10秒間停止

◆スキャン再スタートタイマーの設定

スキャンが一時停止したあと、受信信号が途切れてからスキャンが再スタートする条件(時間)を設定する項目です。

●RESUME (サイスタート ジカン)

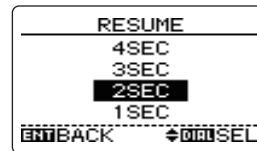
HOLD (ホールド) : 信号がなくなっても一時停止状態を保持します。

※スキャン一時停止タイマーが**HOLD**の場合、再スタートは[DIAL]ツマミでの操作になります。

※スキャン一時停止タイマーが**2SEC**~**20SEC**の場合、スキャン一時停止タイマーを優先して再スタートします。

1~5SEC : 信号がなくなると各設定時間後にスキャンが再スタートします。
(初期設定 2SEC)

0SEC : 信号がなくなると同時にスキャンが再スタートします。



2秒後再スタート



PAUSEの設定 : ホールド
RESUMEの設定 : ホールドのとき
[DIAL]ツマミの操作で再スタート

■ サーチの設定項目について

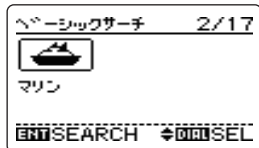
◆ ベーシックサーチの設定

アイコンを選択し、そのアイコンに登録されている周波数範囲をサーチする項目です。

● BASIC SEARCH (ベーシックサーチ) (※P31)



航空無線通信をサーチ

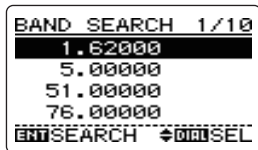


海上無線通信をサーチ

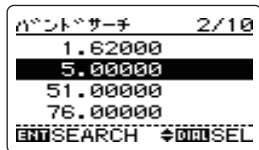
◆ バンドサーチ機能の設定

バンドを選択し、サーチします。

● BAND SEARCH (バンドサーチ) (※P31)



BC(1M)バンドをサーチ

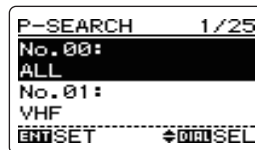


5Mバンドをサーチ

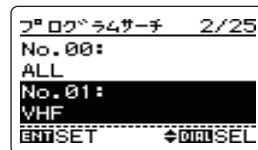
◆ プログラムサーチの操作

サーチしたいプログラムサーチ範囲を選択する項目です。

● P-SEARCH (プログラムサーチ)



No.00に登録した
周波数範囲をサーチ



No.01に登録した
周波数範囲をサーチ

※登録されたプログラムサーチを選択後、[ENT MW]を押して、“START”を選択するとプログラムサーチを開始します。

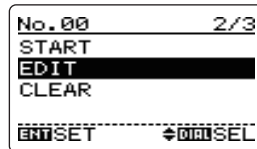
◇ プログラムサーチの操作項目

選択したプログラムの操作項目を選択します。

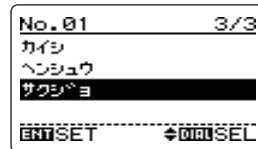
START(カイン) : 選択したプログラムをサーチします。

EDIT(ヘンシュウ) : 選択したプログラムを編集します。

CLEAR(サクジョ) : 選択したプログラムを削除します。



プログラムNo.00を編集



プログラムNo.01を削除

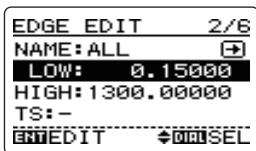
9 MENU 画面について

◇ プログラムサーチの編集

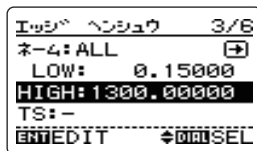
選択したプログラムサーチの登録内容を編集します。

● EDGE EDIT (エッジ ヘンシュウ)

- NAME(ネーム) : プログラムサーチの名前を設定します。※16文字まで入力可能
- LOW : 下限周波数を設定します。
- HIGH : 上限周波数を設定します。
- TS : チューニングステップを設定します。
- MODE(モード) : モード(電波型式)を設定します。
- ATT(アッテネーター) : ON/OFF/ー(設定なし)の中から選択します。



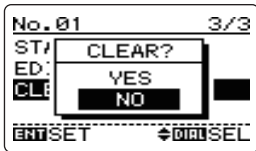
プログラムNo.00の
下限周波数を選択



プログラムNo.00の
上限周波数を選択

◇ プログラムサーチの削除

選択したプログラムサーチを削除します。



NOを選択



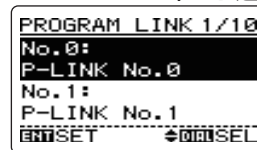
ハイを選択

◆ プログラムサーチのリンクの設定

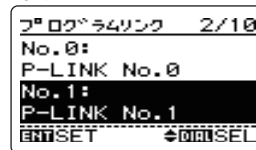
プログラムリンクとは、複数のプログラムサーチの中からリンクさせたいプログラムサーチをいくつか選択できます。プログラムリンクは、あらかじめプログラムサーチのすべてをリンクさせています。

● PROGRAM LINK (プログラムリンク)

No.0~No.9の中から選択します。



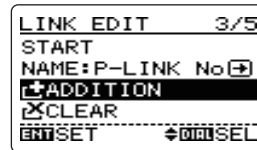
プログラムリンクNo.0を選択



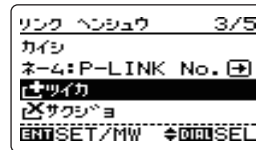
プログラムリンクNo.1を選択

〈リンクの編集〉

- START : 選択したプログラムリンクをサーチします。
- NAME : プログラムリンクネームを編集します。
※名前入力のしかたはP43、P44を参照ください。
- ADDITION : リンクさせたいプログラムサーチを追加します。
- CLEAR : リンクから外したいプログラムサーチをリンクから解除します。
- DETAIL : 各プログラムサーチの詳細を確認できます。



プログラムリンクNo.0を追加

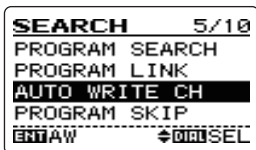


プログラムリンクNo.0を追加

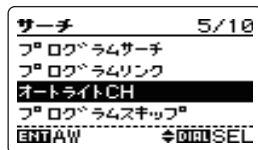
◆オートライトチャンネルの設定

オートライトチャンネルに書き込んだチャンネルを表示します。

● AUTO WRITE CH (オートライトCH)



オートライトチャンネル
を選択(英語)



オートライトチャンネル
を選択(日本語)

◆プログラムスキップの設定

プログラムスキップの“ON/OFF”を設定する項目です。

● PROGRAM SKIP (プログラムスキップ)

- ON : プログラムスキップを設定します。(初期設定)
- OFF : プログラムスキップを設定しません。



プログラムスキップ オン



プログラムスキップ オフ

◆トーンサーチの設定

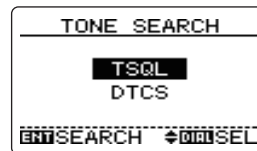
トーンを選択し、サーチする項目です。

FMモードを選択しているときだけ、項目を表示します。

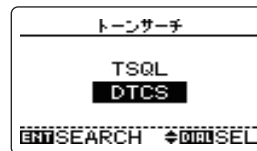
● TONE SEARCH (トーンサーチ)

TSQL : CTCSSトーン周波数をサーチします。(初期設定)

DTCS : DTCSコードをサーチします。



TSQL



DTCS

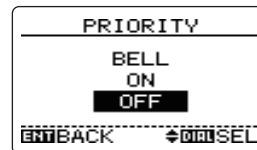
◆プライオリティサーチの設定

プライオリティサーチの“ON/OFF”、およびプライオリティサーチベルを設定する項目です。

● PRIORITY (プライオリティ)

BELL(ベル) : プライオリティチャンネルで信号を受信すると、ベル音を鳴らし、ベルマーク“(●)”表示の点滅で受信を知らせます。

- ON : プライオリティサーチを設定します。
- OFF : 動作しません。(初期設定)



プライオリティ オフ



プライオリティ ベル

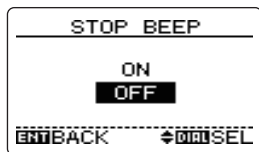
9 MENU 画面について

◆ サーチストップビーブの設定

サーチ動作中に、信号を受信してサーチが一時停止したときのビーブ音を設定する項目です。

● STOP BEEP(ストップ ビーブ)

- ON : ビーブ音を鳴らします。
OFF : ビーブ音を鳴らしません。(初期設定)



ストップビーブ オフ



ストップビーブ オン

◆ サーチ一時停止タイマーの設定

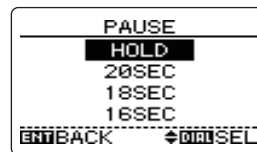
サーチ中に信号を受信すると、サーチは一時停止します。設定時間だけ受信をつづけ、設定時間を過ぎると再スタートします。

● PAUSE (テイシ ジカン)

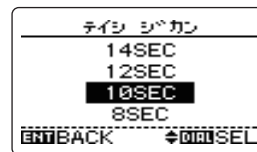
- HOLD (ホールド) : 信号を受信している間は、一時停止をつづけ、信号がなくなると「サーチ再スタートタイマーの設定」の条件で再スタートします。(初期設定)

2~20SEC : 2秒ごとに設定できます。

なお、停止中に信号がなくなると、「サーチ再スタートタイマーの設定」の条件で再スタートします。



信号受信中は停止



10秒間停止

◆サーチ再スタートタイマーの設定

サーチが一時停止後、受信信号が途切れてからの再スタートの条件(時間)を設定する項目です。

●RESUME (サイスタート ジカン)

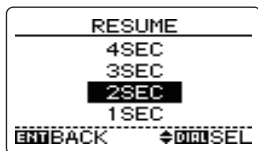
HOLD (ホールド) : 信号がなくなっても一時停止状態を保持します。

※サーチ一時停止タイマーが**HOLD V**の場合、再スタートは[DIAL]ツマミでの操作になります。

※サーチ一時停止タイマーが**2～20SEC**の場合、サーチ一時停止タイマーを優先して再スタートします。

1～5SEC : 信号がなくなると各設定時間後にサーチが再スタートします。
(初期設定 2SEC)

0SEC : 信号がなくなると同時にサーチが再スタートします。



2秒後再スタート



PAUSEの設定 : ホールド
RESUMEの設定 : ホールドのとき
[DIAL]ツマミの操作で再スタート

■モード/TS/トーン関連の設定項目について

◆デュプレクスモードの設定

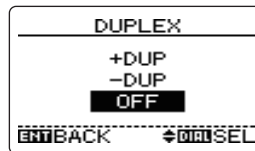
送信と受信で異なった周波数を使用するデュプレクスモードでの通信を、受信するための項目です。

●DUPLEX (デュプレクス)

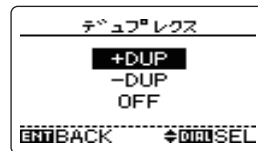
+DUP : モニター機能を使用しているあいだ、設定周波数からオフセット分高い周波数が受信できます。

-DUP : モニター機能を使用しているあいだ、設定周波数からオフセット分低い周波数が受信できます。

OFF : デュプレクスを使用しない。(初期設定)



デュプレクス オフ



+デュプレクス

9 MENU 画面について

◆ オフセット周波数の設定

デュプレックス運用時に使用するシフト幅を設定します。

● OFFSET FREQ (オフセット シュウハスウ)

0.000~159.995 MHzの範囲で設定できます。

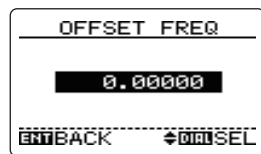
アマチュアバンドの初期設定値

0.00000MHz (430MHz/1200MHz帯以外)

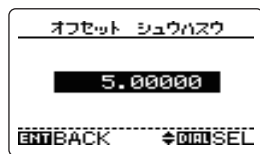
5.00000MHz (430MHz帯)

20.00000MHz (1200MHz帯)

※すべてのメモリーチャンネルを個別にして、オフセット周波数の設定を記憶できます。



0.00000MHz



5.00000MHz

◆ チューニングステップの設定

チューニングステップ(TS)とは、[DIAL]ツマミで周波数を設定するときに、変化する周波数の幅です。

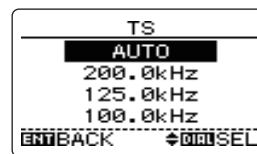
● TS

チューニングステップは、5.0/6.25/7.5/8.33¹/9.0²/10.0/12.5/15.0/20.0/25.0/30.0/50.0/100.0/125.0/200.0kHz、および AUTO(初期設定値)が選択できます。

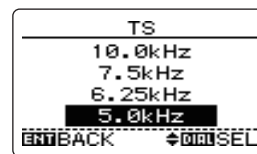
*1 : AIRバンドのみ選択でき、その他バンドでは選択できません。

*2 : BC(1M)バンドのみ選択できます。

※バンドについてはP17、P18を参照ください。



チューニングステップ オート



5.0kHz

オフセット周波数/CTCSSトーン周波数について

※バンドごとに設定が可能です。

※すべてのメモリーチャンネルに対して個別に設定を記憶できます。

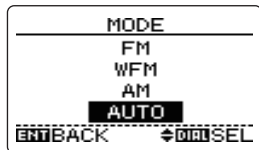
◆受信モード(電波型式)の設定

受信モード(電波型式)は初期設定で“**AUTO**”に設定しています。

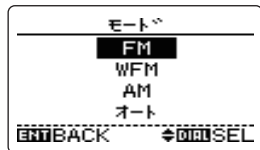
●MODE(モード)

FM/WFM/AM/AUTOの中から選択します。

(初期設定 AUTO)



オートモード



FMモード

◆トーン機能の設定

CTCSSトーンスケルチ、DTCSコードスケルチ、またはポケットビープを選択する項目です。

トーン機能の使い方についてはP83～P86を参照ください。

●TONE (トーン)

DTCS-R : 逆DTCSスケルチ機能を設定します。

DTCS : DTCSコードスケルチ機能を設定します。

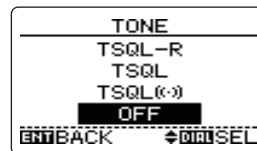
DTCS((・)) : DTCSコードスケルチを使ったポケットビープ機能を設定します。

TSQR-R : 逆トーンスケルチ機能を設定します。

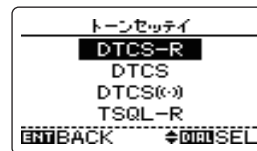
TSQL : トーンスケルチ機能を設定します。

TSQL((・)) : トーンスケルチを使ったポケットビープ機能を設定します。

OFF : トーンを使用しません。(初期設定)



トーン機能 オフ



逆DTCSスケルチ機能

9 MENU 画面について

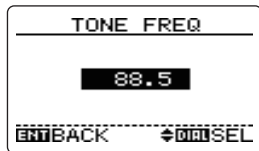
◆トーン周波数の設定

トーンスケルチ運用で使用するトーン/デコーダー周波数を設定します。

● TONE FREQ (トーン シュウハスウ)

67.0~254.1Hz(50波)の中から選択します。

(初期設定 88.5Hz)



トーン



トーン

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

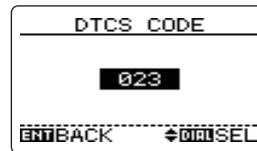
◆DTCSコードの設定

DTCSスケルチ運用で使用するDTCSコードを設定します。

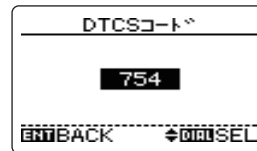
● DTCS CODE(DTCSコード)

023~754(104コード)の中から選択します。

(初期設定 023)



023



754

023	072	152	244	311	412	466	631
025	073	155	245	315	413	503	632
026	074	156	246	325	423	506	654
031	114	162	251	331	431	516	662
032	115	165	252	332	432	523	664
036	116	172	255	343	445	526	703
043	122	174	261	346	446	532	712
047	125	205	263	351	452	546	723
051	131	212	265	356	454	565	731
053	132	223	266	364	455	606	732
054	134	225	271	365	462	612	734
065	143	226	274	371	464	624	743
071	145	243	306	411	465	627	754

DTCSコード/DTCS位相反転機能/空線周波数について

※すべてのメモリーチャンネルに対して個別に設定を記憶できます。

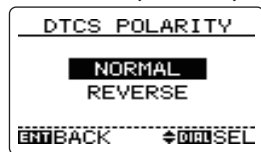
◆DTCS位相反転機能の設定

DTCSコードの位相を設定します。

●DTCS POLARITY (DTCSキョクセイ)

NORMAL (ツウジョウ) : 位相を反転しません。(初期設定)

REVERSE (ハンテン) : 位相を反転します。



反転しない



反転する

◆空線キャンセラー機能の設定

空線信号、MSK制御音をキャンセルする項目です。

●CANCELLER (キャンセラー)

MSK : MSK機能が動作します。

TRAIN2 : 1500HzのシングルトーンとMSK制御音
が交互に切り替わる信号を検出します。
※検出する空線信号の周波数は固定です。

TRAIN1 : 空線キャンセラー機能が動作します。
※検出する空線信号の周波数は、TRAIN周波
数(初期設定値: 2280Hz)

OFF : 動作しません。(初期設定)



オフ



MSK

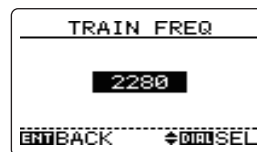
◆空線信号周波数の設定

空線信号の周波数(TRAIN1)を設定します。

●TRAIN FREQ (TRAINシュウハスウ)

300~3000Hzの範囲(10Hzステップ)で設定します。

(初期設定値 2280)



初期設定値



3000Hz設定時

◆ボイススケルチコントロール機能の設定

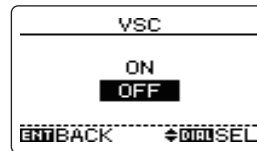
ボイススケルチコントロール機能を設定する項目です。

受信している信号に音声信号が含まれていれば、スケルチを
開き、含まれていなければスケルチを開きません。

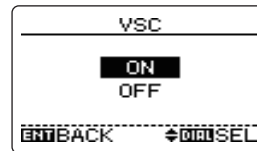
●VSC

ON : ボイススケルチコントロール機能を設定します。

OFF : 動作しません。(初期設定)



VSC オフ



VSC オン

9 MENU 画面について

■ セッティングの設定項目について

◆AMアンテナの設定

BC(1M)バンドの受信アンテナを、アンテナコネクタに接続しているアンテナ、または内蔵のバーアンテナから選択します。

● AM ANTENNA (AMアンテナ)

EXT-DX(ガイク-DX) : アンテナコネクタに接続しているアンテナを使い、フィルターを通さず受信します。

EXT-LOCAL(ガイク-ローカル) : アンテナコネクタに接続しているアンテナを使い、フィルターを通して受信します。

BAR(バー) : 内蔵のバーアンテナで受信します。(初期設定)



外部アンテナ



内蔵バーアンテナ

EXT-DXとEXT-LOCALについて

一般的に都心など周りの影響を受けやすい場所では、EXT-LOCALに設定してください。フィルターを通すので特定の信号は受信しやすくなりますが、感度は悪くなります。また、周りの信号の影響を受けにくいときは、EXT-DXに設定してください。

◆FMアンテナの設定

FM放送(76M)バンドなどの強い電波の場合、受信アンテナをアンテナコネクタに接続している外部アンテナ、または接続したイヤホンアンテナとして使用するイヤホンアンテナに切り替えられます。

● FM ANTENNA (FMアンテナ)

EXT(ガイク) : アンテナコネクタに接続している外部アンテナで受信します。(初期設定)

EARPHONE(イヤホン) : イヤホンアンテナで受信します。



外部アンテナ



イヤホンアンテナ

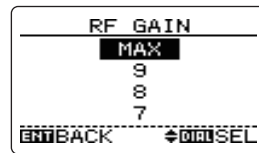
◆受信感度(RF GAIN)機能の設定

受信感度を設定する項目です。

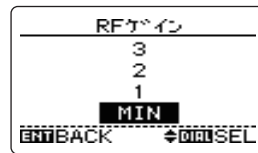
妨害により目的の電波が聞こえにくい場合、GAINを調整することで、聞こえやすくなる場合があります。

● RF GAIN (RFゲイン)

MAX、9～1、MINの中から選択します。(初期設定 MAX)



最大感度



最小感度

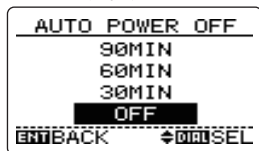
◆オートパワーオフ機能の設定

自動的に電源を“OFF”するオートパワーオフ機能を設定します。
キー操作のない状態が一定時間(下記の設定時間)続くと、自動的に電源を切ります。

● AUTO POWER OFF (オートパワーオフ)

- 120MIN : 約120分後に電源が切れます。
- 90MIN : 約90分後に電源が切れます。
- 60MIN : 約60分後に電源が切れます。
- 30MIN : 約30分後に電源が切れます。
- OFF : オートパワーオフ機能が動作しません。
(初期設定)

※ 電源を切っても、オートパワーオフ機能の設定を保持しています。



オートパワーオフ機能 オフ



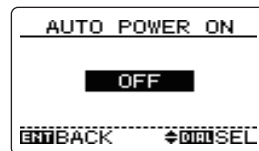
120分後に電源オフ

◆オートパワーオン機能の設定

本製品の電源を“OFF”してから、自動的に電源を“ON”する時間を設定します。

● AUTO POWER ON (オートパワーオン)

- OFF : オートパワーオン機能オフ(初期設定)
- 0:30~24:00 : 30分ごとに設定できます。



オートパワーオン機能 オフ



30分後に設定

9 MENU 画面について

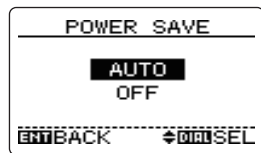
◆パワーセーブ機能の設定

電池の消耗を防ぐため、パワーセーブ機能を設定します。

●POWER SAVE (パワーセーブ)

AUTO(オート) : 無信号の状態が約5秒つづくと、“1:4(125msec:500msec)”の比率でパワーセーブ機能を開始し、さらに無信号の状態が約60秒つづくと“1:8(125msec:1000msec)”の比率で動作します。(初期設定)

OFF : パワーセーブが動作しません。



パワーセーブ機能 オン



パワーセーブ機能 オフ

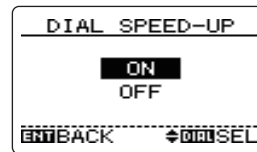
◆ダイヤルスピードの設定

[DIAL]ツマミを早く回したときに、更にスピードアップするダイヤルスピード機能を選択します。

●DIAL SPEED-UP (ダイヤル カソク)

ON : スピードアップします。(初期設定)

OFF : [DIAL]ツマミを回す速度に合わせます。



ダイヤルスピード オン



ダイヤルスピード オフ

◆キーロック機能の設定

[DIAL]ツマミおよびキーの操作を無効にするキーロック機能を設定する項目です。

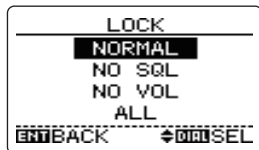
● LOCK(ロック)

NORMAL(ツウジョウ) : [▲]/[▼]キー、[CLR SQL]キーを除くキーをロックします。
(初期設定)

NO SQL(SQLノゾク) : [CLR SQL]キーを除くキーをロックします。

NO VOL(VOLノゾク) : [▲]/[▼]キーを除くキーをロックします。

ALL(スベテ) : すべてのキーをロックします。



通常のロック



[SQL]キー以外ロック

※ どの場合も、[POWER]キー、[MENU]キーはロックされません。

※ [▲]/[▼]と[DIAL]ツマミの割り当てている機能を入れ替えたときは、[▲]/[▼]がロックされ、[DIAL]ツマミはロックされません。

◆CI-V セットの設定

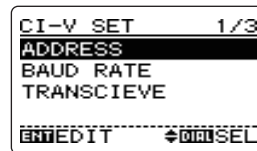
CI-Vシステムを設定します。

● CI-V SET (CI-Vセット)

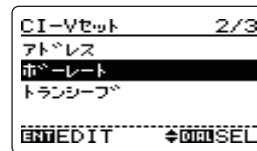
ADDRESS(アドレス) : CI-Vアドレスを設定します。

BAUD RATE(ボーレート) : CI-Vボーレートを設定します。

TRANSCIEVE(トランシーブ) : CI-Vトランシーブを設定します。



CI-V アドレス選択



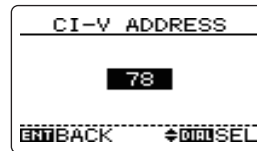
CI-V ボーレート選択

◇CI-V アドレスの設定

CI-Vシステムで、本製品を外部からコントロールするときの本製品のアドレスを設定します。

● ADDRESS (CI-Vアドレス)

01 ~ 7Fの中から選択します。(初期設定 : 78)



CI-V アドレス[78]選択



CI-V アドレス[7F]選択

9 MENU 画面について

◇ CI-V ボーレートの設定

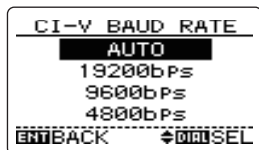
CI-Vシステムで、本機を外部からコントロールするときの通信速度を設定します。

● BAUD RATE (CI-Vボーレート)

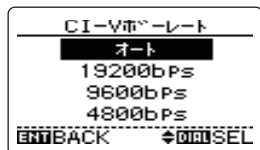
AUTO(オート)/19200bps/9600bps/4800bps/1200bps/300bpsの中から選択します。

(初期設定：AUTO)

AUTO(オート)は接続した機器からのデータの通信速度に自動設定します。



CI-V ボーレート オート



CI-V ボーレート オート

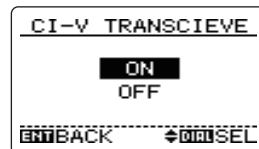
◇ CI-V トランシーブの設定

CI-Vシステムを利用した、トランシーブ機能の“ON/OFF”を設定します。

● TRANSCEIVE (CI-Vトランシーブ)

ON : トランシーブ動作します。(初期設定)

OFF : トランシーブ動作しません。



CI-V トランシーブ動作 オン



CI-V トランシーブ動作 オフ

■ サウンドの設定項目について

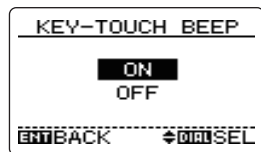
◆ キー操作音の設定

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビーブ音を設定します。

● KEY-TOUCH BEEP (ソウサオン)

ON : キーを操作したときや、各種機能が動作するときにビーブ音を鳴らします。(初期設定)

OFF : ビーブ音を鳴らしません。



キータッチビーブ オン



キータッチビーブ オフ

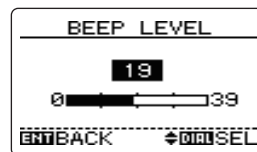
◆ ビーブレベルの設定

キー操作が正しく行われたかどうかを知らせるビーブ音の音量を設定する項目です。

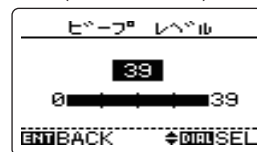
キー操作音の設定がONのときだけ有効になります。

● BEEP LEVEL (ビーブ レベル)

0~39 : ビーブ音は受信音量の設定に関係なくここで設定した音量で鳴ります。(初期設定 19)



ビーブレベル 19



ビーブレベル 39

◆ AFフィルターの設定

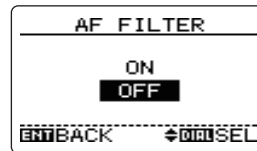
高音域のノイズを抑える、AFフィルター機能を“ON/OFF”します。
 ※WFMモード、AMモードを選択しているときだけ、項目を表示します。

※また、運用モード(WFM、AM)ごとに設定できます。

● AF FILTER (AFフィルター)

ON : AFフィルター機能を有効にします。(AM初期設定)

OFF : AFフィルター機能を無効にします。(WFM初期設定)



AFフィルター機能 オフ



AFフィルター機能 オン

9 MENU 画面について

◆低音/高音機能の設定

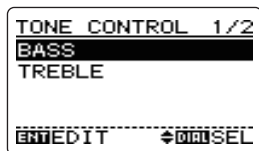
お好みの音質に合わせて、低音/高音の設定をします。
別売品のヘッドホン(HP-4)とあわせてご使用いただくと効果的です。

運用モード(FM、WFM、AM)ごとに設定できます。

●TONE CONTROL (トーン コントロール)

BASS(テイオン) : 低音域を設定します。

TREBLE(コウオン) : 高音域を設定します。



低音域設定



高音域設定

◇低音/高音機能の調整

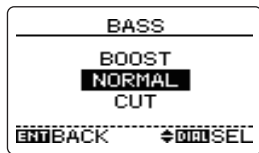
選択した低音/高音の調整をします。

運用モード(FM、WFM、AM)ごとに設定できます。

BOOST(キョウチョウ) : 選択した音域を強調します。

NORMAL(ツウジョウ) : 動作しません。(初期設定)

CUT(カット) : 選択した音域を減衰します。



低音域の通常設定



高音域の強調設定

■ディスプレイの設定項目について

◆バックライトの設定

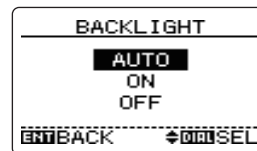
キーや[DIAL]ツマミを操作したときに、ディスプレイの照明を点灯するか、しないかを設定します。

●BACKLIGHT (バックライト)

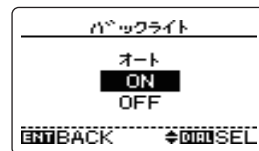
AUTO (オート) : キーや[DIAL]ツマミを操作したときに、自動で点灯します。なお、約5秒操作しない状態が続くと、消灯します。(初期設定)

ON : 常時点灯します。

OFF : 点灯しません。



自動点灯



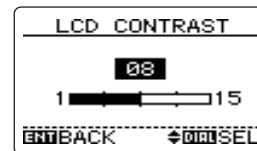
常時点灯

◆LCDコントラストの設定

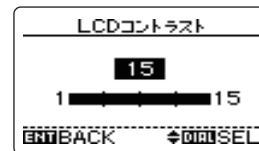
ディスプレイのコントラストを設定します。

●LCD CONTRAST (LCDコントラスト)

1(淡)~15(濃)の中から選択します。(初期設定 濃度8)



レベル 08



最大レベル

◆ オープニングロゴの設定

電源“ON”時に、オープニングロゴ(アイコムロゴと“IC-RX7”)を表示するか、しないかを設定します。

● OPENING LOGO (オープニングロゴ)

ON : ロゴを表示します。(初期設定)

OFF : ロゴを表示しません。



オープニングロゴ オン



オープニングロゴ オフ

◆ 表示言語(英語/日本語)の設定

MENU画面選択時、表示言語を日本語と英語から選択します。

● LANGUAGE (ゲンゴ)

ENGLISH (エイゴ) : 英語表示(初期設定)

JAPANESE (ニホンゴ) : 日本語表示



英語表記



日本語表記

◆ フォントサイズの設定

ディスプレイに表示する文字の大きさを設定します。

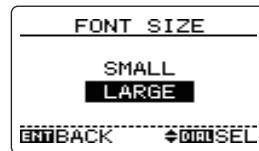
● FONT SIZE (フォントサイズ)

SMALL (チイサイ) : グループとネームの表示を16文字表示します。

LARGE (オオキイ) : グループとネームの表示を12文字表示します。(初期設定)

※スキャン中の画面とサーチ中の画面だけに有効となる機能です。

ほかの画面には適用されませんのでご注意ください。



文字のサイズ 大きい



文字のサイズ 小さい

10 各種機能の使いかた

■デュプレクス通信を受信する

◆デュプレクスとは

デュプレクス通信とは、送信と受信で違った2つの周波数を使用して交信する方式です。

430MHz/1200MHz帯のアマチュア無線用FMレピータシステムや各通信分野で広く利用されています。

本機にデュプレクスモードを設定すると、ワンタッチの切り替え操作で、送信/受信両方の周波数が受信できます。

デュプレクス通信を受信するときは、オフセット周波数の設定も必要です。

◆オフセット周波数とは

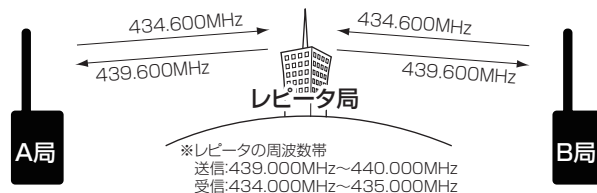
デュプレクス通信で、送信周波数と受信周波数の差をオフセット周波数といいます。

デュプレクスモード、およびオフセット周波数は、MENU画面で設定します。(P67)

〔例〕430MHz帯のレピータ交信を受信するには

レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局と交信できたり、通信範囲(通信距離)を拡大するための、自動無線中継装置のことです。

レピータ交信の概略と周波数例



- 通常、アマチュア無線で運用されている430MHz帯のレピータ交信は、オフセット周波数を5.000MHzに設定しています。

上図の例の場合に限っては、レピータは送信されてくる434.600MHzを受信すると、自動的に439.600MHzの周波数に変換して送信します。

- 本機で上記通信を受信するには、デュプレクスモードとオフセット周波数5.000MHzの設定が必要です。

430Mバンド : レピータ受信用に5.000MHzを初期設定

1200Mバンド : レピータ受信用に20.000MHzを初期設定

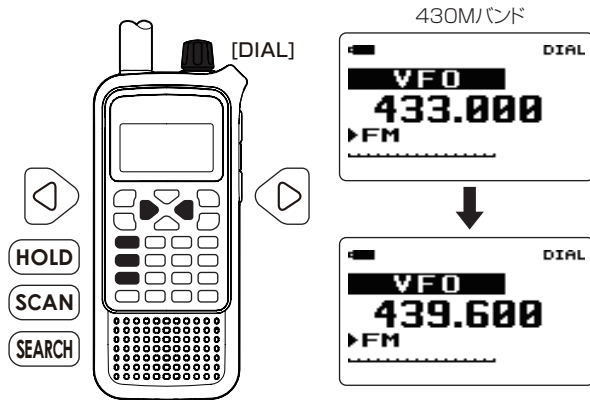
- 上図の例の周波数を受信する場合は、次のように設定します。本機の表示(受信)周波数を439.600MHz(レピータの送信周波数)に設定したときは“-DUPモード”に、434.600MHz(レピータの受信周波数)に設定したときは“+DUPモード”に設定してください。

◇レピータの送信周波数を設定する

レピータの周波数帯

送信 : 439.000MHz ~ 440.000MHz
 : 1290.000MHz ~ 1293.000MHz
 受信 : 434.000MHz ~ 435.000MHz
 : 1270.000MHz ~ 1273.000MHz

- ① [SEARCH] または [SCAN] を短く押し、[HOLD V] を長く押し、VFOモードにします。
- ② [◀] または [▶] を短く押し、430Mバンド(1200Mバンド)を選択します。
- ③ テンキーで直接入力するか、または [DIAL] ツマミを回して、439.600MHz(1292.340MHz)を設定します。



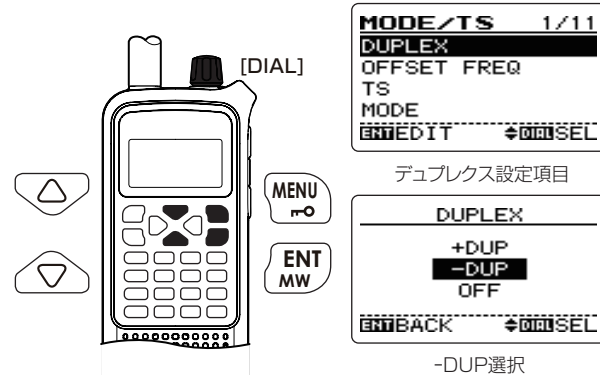
◇デュプレクスモードとオフセット周波数を設定する

- ① MENU画面に入り、「デュプレクス」の設定内容に入ります。

MENU⇒MODE/TS/TONE...⇒**DUPLEX** (P66)
 (メニュー⇒モード/TS/トーン...⇒デュプレクス)

[MENU]⇨O:メニュー [▲]/[▼]:選択 [ENT MW]:決定

- ② [▲]/[▼] または [DIAL] ツマミで、「-DUP」または「+DUP」を選択します。
 +DUP : モニター機能を使用しているあいだ、設定周波数からオフセット分高い周波数が受信できます。
 -DUP : モニター機能を使用しているあいだ、設定周波数からオフセット分低い周波数が受信できます。
 OFF : デュプレクスを使用しない。(初期設定)
- ③ [ENT MW] を短く押し、「モード/TS/トーン関連」項目の画面に戻ります。



10 各種機能の使いかた

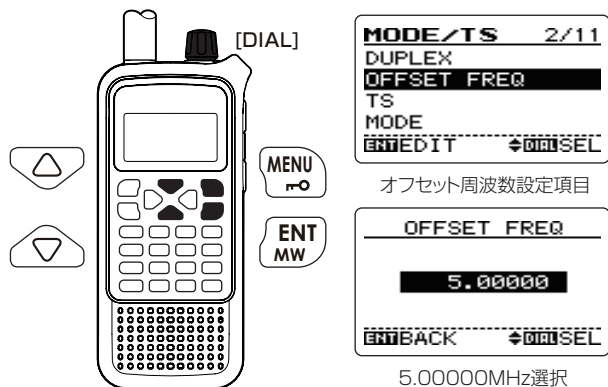
◇デュプレクスモードとオフセット周波数を設定する(つづき)

④MENU画面の「オフセット周波数」の設定内容に入ります。

MENU⇒MODE/TS/TONE...⇒**OFFSET FREQ** (☞P67)
(メニュー⇒モード/TS/トーン...⇒**オフセット シュウハスウ**)

[MENU]：メニュー [▲]/[▼]：選択 [ENT MW]：決定

⑤[▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「OFFSET FREQ(オフセット周波数)」項目を選択し、[ENT MW]を短く押すとオフセット周波数を表示します。

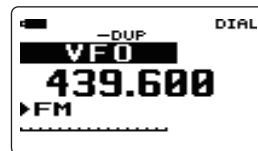


※[▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、オフセット周波数を可変できます。(可変範囲：0.00MHz～159.999990MHz)

※430MHz帯：5.000MHz/1200MHz帯：20.000MHz、その他のバンドは0.000MHzを初期設定しています。

※MENU画面で設定しているチューニングステップ(☞P67)で動作します。

⑥[CLR SQL]を押すとMENU画面を解除して、デュプレクスモードになります。



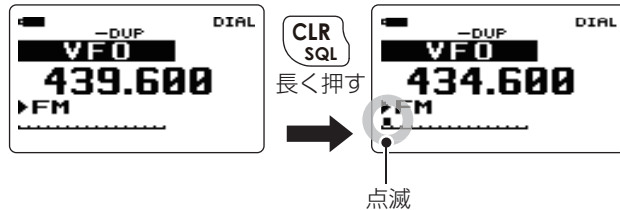
【ご参考】

デュプレクスとオフセット周波数の設定は、M-CHの編集画面から設定できます。

◇デュプレクス通信の周波数を受信する

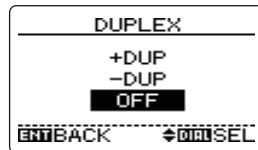
[CLR SQL]を長く(約1秒)押します。

- 400Mバンドのときは、5.000MHz低い434.600MHzを受信します。
 - 1200Mバンドのときは、20.000MHz低い1272.340MHzを受信します。
- ※[CLR SQL]を長く押すと「-DUP」モードのとき、オフセット周波数分低い周波数を受信します。
「+DUP」モードのときは、オフセット周波数分高い周波数を受信します。



◇デュプレクスを解除するときは

MENU画面の、「DUPLEX」項目を「OFF」にします。(P66)



デュプレクスOFF選択

■トーン/DTCESを使った通信を受信する

◇トーンスケルチ/DTCESコードスケルチ機能とは

トーンスケルチは、受信した周波数に重畳したトーン周波数が一致したときだけスケルチが開いて音声聞こえます。アマチュア無線、簡易業務用無線、特定小電力無線などの通信に利用されています。

本機に設定している周波数およびトーン周波数が同じ信号だけを受信できます。

逆に、自局が設定したトーン周波数やDTCESコード(FMモード)を受信したときだけ、スケルチが閉じるTSQL-R/DTCES-Rも用途にあわせてご利用ください。

◇ポケットビーブ機能とは

上記トーンスケルチ/DTCESコードスケルチ機能で受信したとき、ビーブ音で知らせる便利な機能です。

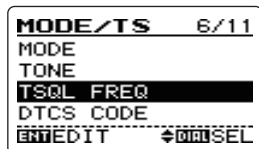
呼び出しを受けると、呼び出し音“ピロピロピロ”が30秒間鳴りつづけるとともに、ディスプレイの“(●)”表示が点滅して知らせてくれるので、聞き逃すことがありません。

10 各種機能の使いかた

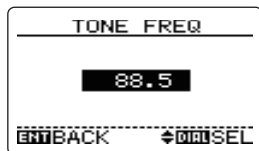
◇トーン周波数を設定する (FMモード)

トーン周波数は、MENU画面から設定します。

- ① 運用周波数を設定します。(P19、P20)
※FMモードを設定してください。
- ② [MENU] を短く押して、MENU画面を表示します。
- ③ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「モード/TS/トーン関連の設定(MODE/TS/TONE...)」項目を選択し、[ENT MW]を押します。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「トーン周波数の設定(TONE FREQ)」項目を選択し、[ENT MW]を押します。



- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、トーン周波数を選択します。
[▲]/[▼]を長く(約1秒)押すと、連続して設定値が切り替わります。

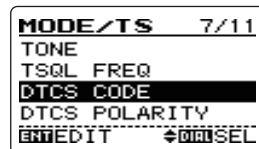


- ⑥ [ENT MW]を押すと、設定項目の画面に戻ります。

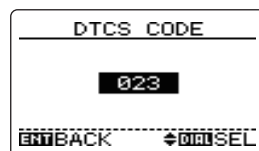
◇DTCSコードを設定する (FMモード)

DTCSコードは、MENU画面から設定します。

- ① 運用周波数を設定します。(P19、P20)
※FMモードに設定してください。
- ② [MENU] を短く押して、MENU画面を表示します。
- ③ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「モード/TS/トーン関連の設定(MODE/TS/TONE...)」項目を選択し、[ENT MW]を押します。
- ④ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「DTCSコードの設定(DTCS CODE)」項目を選択し、[ENT MW]を押します。



- ⑤ [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、DTCSコードを選択します。
[▲]/[▼]を長く(約1秒)押すと、連続して設定値が切り替わります。



- ⑥ [ENT MW]を押すと、設定項目の画面に戻ります。

◇トーン項目を設定する

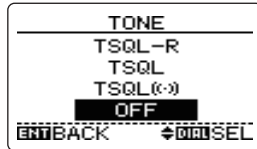
トーン周波数、DTCSコード、ポケットビーブ、逆トーンスケルチ機能、または逆DTCSスケルチ機能から受信モードを選択します。

MENU画面からトーン項目を設定します。

MENU⇒MODE/TS/TONE...⇒**TONE** (☞P68)
 (メニュー⇒モード/TS/トーン...⇒トーンセッテイ)
 [MENU]：メニュー [▲]/[▼]：選択 [ENT MW]：決定

● TONE (トーン)

- OFF : トーンを使用しません。(初期設定)
- P BEEP : ポケットビーブ機能を設定します。
- TSQL : トーンスケルチ機能を設定します。
- TSQL-R : 逆トーンスケルチ機能を設定します。
- P DTCS : ポケットDTCSコード機能を設定します。
- DTCS : DTCSコードスケルチ機能を設定します。
- DTCS-R : 逆DTCSスケルチ機能を設定します。

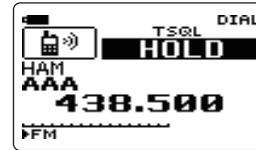


TONE オフ

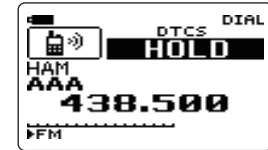
※ なお、TRAIN機能(☞P30)、MSK機能(☞P30)、VSC機能(☞P86)については、各参照ページをご覧ください。

◇トーン通信/DTCSコード通信を受信すると

- トーンスケルチ機能、またはDTCSコードスケルチ機能を設定しているときは設定しているトーン周波数、またはDTCSコードが同じ電波を受信するとスケルチが開いて、通信している局の音声聞こえます。

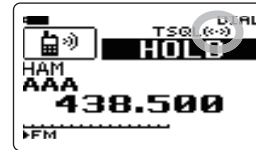


トーンスケルチ

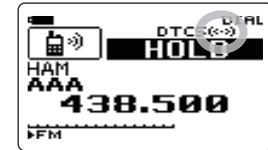


DTCSスケルチ

- ポケットビーブ機能を設定しているときは、ベルが約30秒間鳴りつづき、“(・)”表示が点滅します。



トーンスケルチによる
ポケットビーブ機能



DTCSスケルチによる
ポケットビーブ機能

10 各種機能の使いかた

◇DTCS位相反転機能について

受信する局(送出側)に合わせて、DTCSコードの位相検出を設定できます。

DTCS位相反転機能は、MENU画面で変更できます。

①[MENU]を短く押し、MENU画面を表示します。

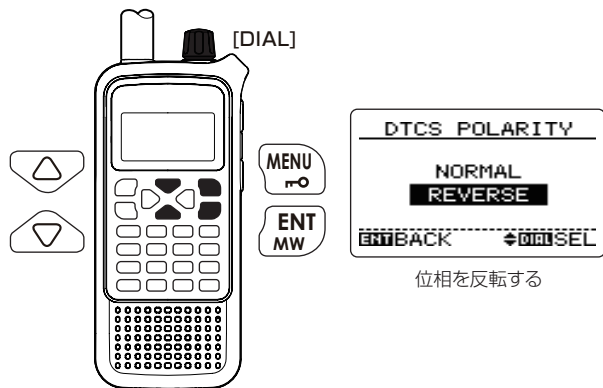
MENU⇒MODE/TS/TONE...⇒DTCS POLARITY (P70)
(メニュー⇒モード/TS/トーン...⇒DTCSキョクセイ)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

②[▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、「NORMAL」または「REVERSE」を選択します。

- **NORMAL** : 位相反転をしない。(初期設定)
- **REVERSE** : 位相反転をする

③[CLR SQL]を短く押し、MENU画面を解除します。



■トーン/コードサーチのしかた

相手局が使用しているトーン周波数またはDTCSコードを検知します。

トーン/コードサーチは、MENU画面で変更できます。

① MENU画面に入り、「TONE SEARCH」の設定内容に入ります。

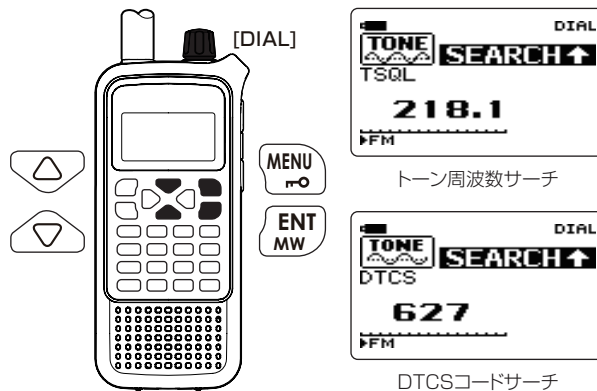
MENU⇒SEARCH⇒TONE SEARCH (P64)
(メニュー⇒サーチ⇒トーンサーチ)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、TSQLまたはDTCSを選択します。

- **TSQL** : トーン周波数をサーチします。(初期設定)
- **DTCS** : DTCSコードをサーチします。

③ [CLR SQL]を短く押し、MENU画面を解除します。



- ※ トーン/コードサーチ中に [DIAL]ツマミを右に回すと、アップサーチ、左に回すとダウンサーチに切り替わります。トーン/コードサーチ中に信号を受信しているときはゆっくり、信号を受信していないときは速くサーチします。
- ※ VFOまたはサーチモードのときは、一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、トーン/コードサーチがサーチ一時停止タイマーで設定した時間(☞P65)一時停止し、トーン周波数またはDTCSコードを自動的に書き替えたあと、トーン/コードサーチを再スタートします。ただし、スキャンをしたときは、一時的に記憶しますが、書き替えはしません。
- ※ ポケットビープ状態から、トーンサーチをするとポケットビープを解除し、トーンサーチまたはDTCSコードスキャンになります。
- ※ 隣接したトーン周波数やDTCSコードを使用している局がいると、トーンスケルチが開くことがあります。

■VSC(ボイススケルチコントロール)機能について

ボイススケルチコントロール機能は、受信した信号に音声信号が含まれているかを識別し、スケルチをコントロールします。音声信号が含まれていればスケルチを開き、含まれていなければスケルチは開きません。

- ① MENU画面に入り、[VSC]の設定内容に入ります。

MENU⇒MODE/TS/TONE...⇒VSC (☞P70)
(メニュー⇒モード/TS/トーン...⇒VSC)

[MENU] : メニュー [▲]/[▼] : 選択 [ENT MW] : 決定

- ② [▲]/[▼]または[DIAL]ツマミで、ON/OFFを選択します。
- ③ [CLR SQL]を短く押して、MENU画面を解除します。
※ONに設定すると、VSC機能による受信状態になります。

10 各種機能の使いかた

■ビープ音について

キーを操作したときに、その操作が有効か無効かを下記のようにビープ音で知らせる機能です。

MENU画面内の「キー操作音の設定(KEY-TOUCH BEEP)」項目で、キーを操作したときに、ビープ音の“ON(鳴る)/OFF(鳴らない)”が設定できます。(初期設定：ON)

MENU⇒SOUND⇒KEY-TOUCH BEEP (P76)
(メニュー⇒サウンド⇒ソウサオン)

[MENU F0]：メニュー [▲]/[▼]：選択 [ENT MW]：決定

● ビープ音の種類

- “ピッ”：短く押すキー操作が正しいとき
- “ピッ、ピー”：長く押すキー操作が正しいとき
- “プッ”：キー操作が無効のとき
- “ピッ、ピビ”：メモリー書き込み操作が正しいとき

■ダイヤルスピード機能について

[DIAL]ツマミをゆっくり回しているときは、設定したTS(チューニングステップ)で動作します。

速く回したときに周波数またはM-CHをダイヤルの速度以上にすばやく切り替える機能です。

MENU画面内の「ダイヤルスピードの設定(DIAL SPEED-UP)」項目で、“ON/OFF”が設定できます。(初期設定：ON)

MENU⇒SETTING⇒DIAL SPEED-UP (P73)
(メニュー⇒セッティング⇒ダイヤル カソク)

[MENU F0]：メニュー [▲]/[▼]：選択 [ENT MW]：決定

■パワーセーブ機能の使いかた

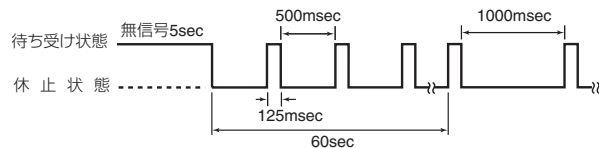
何も操作しない状態(受信もしない)が一定時間つづくと、自動的に本機の動作を休止状態にして、電池の消耗を防ぐ機能です。

MENU画面内の「パワーセーブの設定(POWER SAVE)」項目で、パワーセーブを設定できます。

MENU⇒SETTING⇒POWER SAVE (P73)
(メニュー⇒セッティング⇒パワーセーブ)

[MENU F0]：メニュー [▲]/[▼]：選択 [ENT MW]：決定

- “AUTO”選択時は、無信号状態が約5秒つづくと、“1：4(125msec：500msec)”の比率でパワーセーブ機能を開始します。
さらに無信号状態が約60秒つづくと、“1：8(125msec：1000msec)”比率で動作します。



■ オープニングメッセージの設定について

電源を“ON”にしたときのオープニングロゴ(アイコムロゴと“IC-RX7”)の表示/非表示を設定できます。

MENU画面内の「オープニングロゴ表示の設定(OPENING LOGO)」項目で「アイコムロゴ」と「IC-RX7」の表示/非表示を設定できます。

MENU⇒DISPLAY⇒**OPENING LOGO** (P78)
 (メニュー⇒ディスプレイ⇒オープニングロゴ)
 [MENU **⇨**]: メニュー [▲]/[▼]: 選択 [ENT MW]: 決定

■ 表示フォントのサイズ設定について

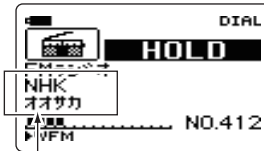
ディスプレイに表示する文字の大きさを設定します。

MENU画面内の「フォントサイズの設定(FONT SIZE)」項目でSMALL(小さい)/LARGE(大きい)から選択します。

MENU⇒DISPLAY⇒**FONT SIZE** (P78)
 (メニュー⇒ディスプレイ⇒フォントサイズ)
 [MENU **⇨**]: メニュー [▲]/[▼]: 選択 [ENT MW]: 決定



フォントサイズ 大きい



フォントサイズ 小さい

※スキャン中の画面とサーチ中の画面だけに有効となる機能です。

ほかの画面には適用されませんのでご注意ください。

■ バックライトについて

ディスプレイの表示を見やすくするために、キー操作をするごとにディスプレイのバックライト(照明)を点灯します。

MENU画面内の「バックライトの設定(BACKLIGHT)」項目でAUTO(初期設定)/ON/OFFから選択できます。

MENU⇒DISPLAY⇒**BACKLIGHT** (P77)
 (メニュー⇒ディスプレイ⇒バックライト)
 [MENU **⇨**]: メニュー [▲]/[▼]: 選択 [ENT MW]: 決定

■ コントラスト調整について

周囲の明るさに応じて、ディスプレイのコントラスト(濃淡)を調整できます。

MENU画面内の「LCDコントラストの設定(LCD CONTRAST)」項目で15段階から設定できます。

MENU⇒DISPLAY⇒**LCD CONTRAST** (P77)
 (メニュー⇒ディスプレイ⇒LCDコントラスト)
 [MENU **⇨**]: メニュー [▲]/[▼]: 選択 [ENT MW]: 決定

10 各種機能の使いかた

■オートパワーオフ機能の使いかた

このタイマーは、電源の切り忘れを防止するための機能です。運用を終了し、何も操作しない状態が設定したタイマー時間まで続くと、“ピー”音が5回鳴って電源が自動的に切れます。

MENU画面内の「**オートパワーオフ機能の設定(AUTO POWER OFF)**」項目で時間を設定できます。

MENU⇒SETTING⇒**AUTO POWER OFF** (P72)
(メニュー⇒セッティング⇒オートパワーオフ)

- 30MIN(30分)/60MIN(1時間)/90MIN(1時間30分)/120MIN(2時間)の指定時間が経過すると、電源が自動的に切れます。

タイマーが設定されていると、電源を入れるたびにタイマーが動作します。

※ 使用しないときは、“OFF”に設定してください。

- オートパワーオフ機能がONになると、表示部に“”が表示されます。

■オートパワーオン機能の使いかた

このタイマーは、電源を切った状態から一定時間経過後に自動的に電源を“ON”にするための機能です。

電源を切り、設定したタイマー時間になると、自動的に本製品の電源を“ON”にします。

MENU画面内の「**オートパワーオン機能の設定(AUTO POWER ON)**」の設定項目で、時間を設定できます。

MENU⇒SETTING⇒**AUTO POWER ON** (P72)
(メニュー⇒セッティング⇒オートパワーオン)

- 30分～24時間までの範囲を30分単位で設定できます。
オートパワーオン機能で自動的に電源“ON”になった後は、自動的に設定が“OFF”になります。
- ※ 電池の容量が低下し、タイマーの途中で電池の容量がなくなった場合、この機能は動作しません。

【ご注意】

電源“OFF”の間は、オートパワーオン機能が“ON”になっていると“OFF”のときより電池が早く消耗します。

- ・ 電源“ON”の間は変化しません。
- ・ オートパワーオフは影響しません。

■クローニングについて

クローニングとは、1台のIC-RX7に登録した周波数の内容やMENU画面の設定内容を、別のIC-RX7に送出して、同じ設定内容にする機能です。

◇クローニングのしかた

- ① 右図のようにOPC-474(別売品)で接続します。



- ② 子機(クローニング受信側)の電源を“ON”にします。

【ご注意】

CI-Vボーレートの設定(☞P75)で通信速度を「9600」と「オート」以外に設定した場合は、[SCAN]キーを押しながら電源を入れてください。

- ③ 親機(クローニング送信側)の操作

[▲]と[MENU]を押しながら、[電源]を押して電源を入れ、クローニング画面を表示します。

[ENT MW]を押すと、親機(クローニング送信側)では“CLONE OUT”を表示し、設定内容を送出します。

子機(クローニング受信側)では“CLONE IN”を表示します。

- ④ クローニングが完了すると、子機に“CLONE END”を表示するので、[電源]を押して電源を切ります。



クローニング送出中の親機の表示



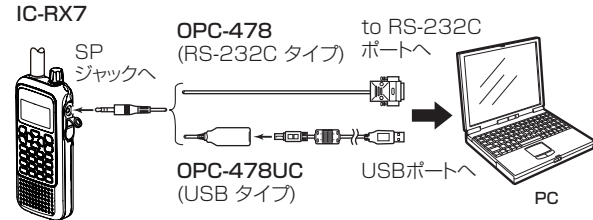
クローニング受信中の子機の表示

- ◎クローニングには、左記の本体間クローニングのほか、パソコン(PC)とクローニングソフトウェアCS-RX7(別売品)、クローニングケーブルOPC-478UC (CS-RX7に同梱)を使うクローニングもあります。

詳しくは、販売店におたずねください。

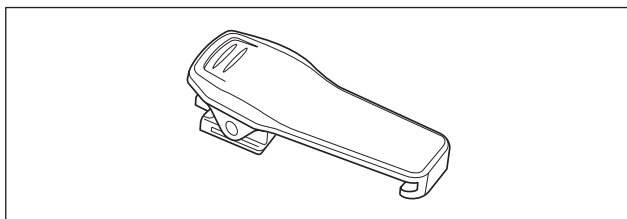
※icfファイルを保存、開くだけではクローニングできません。

※左の【ご注意】より、本製品の通信速度を「9600」と「オート」以外に設定した場合は、同様の操作をしてください。

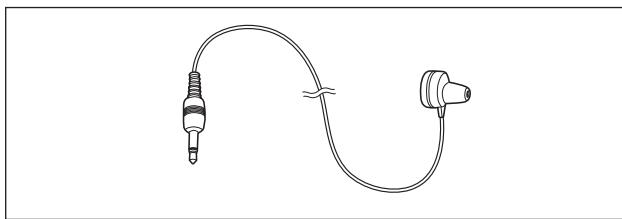


11 別売品一覧

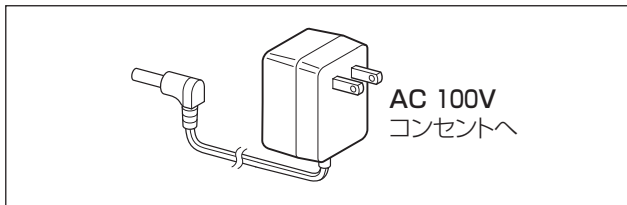
MB-112G : ベルトクリップ (補修用)



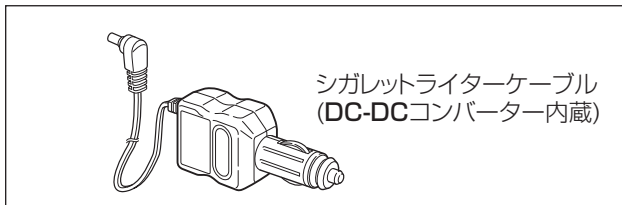
SP-13 : イヤホン



BC-149 : 充電器 (補修用)



CP-18 : DC/DC シガレットライターケーブル



バッテリー関係

- BP-262 : バッテリーケース(単3形アルカリ乾電池用)
- BP-244 : バッテリーパック(補修用)
(リチウムイオン: 3.7V/1100mAh)

その他

- FA-S270C : アンテナ(補修用)
- AD-92SMA : SMA→BNC変換コネクタ
- HP-4 : ヘッドホン
- LC-170 : キャリングケース
- ハンドストラップ(補修用)

ケーブル / クローニングソフトウェア関係

- CS-RX7 : クローニングソフトウェア
(OPC-478UC付属)
- OPC-474 : クローニングケーブル(受信機同士)
- OPC-478UC : クローニングケーブル(USB)
- OPC-478 : クローニングケーブル(RS-232C)
- CT-17 : CI-Vレベルコンバータ

■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には

静電気などによる外部要因で、誤動作したときは、オールリセット、またはパーシャルリセット操作をしてください。





◎ オールリセット操作をすると、次の機能データを工場出荷時の状態に戻します。

- VFO周波数、メモリーチャンネル(M-CH)、MENU画面の設定内容、音量設定、スキャンエッジ、スケルチレベルなど
- ベーシックサーチに登録されている周波数範囲はクリアされません。





◎ パーシャルリセット操作をすると、次の機能データを工場出荷時の状態に戻し、メモリーチャンネル(M-CH)、オートライトCHはクリアされません。

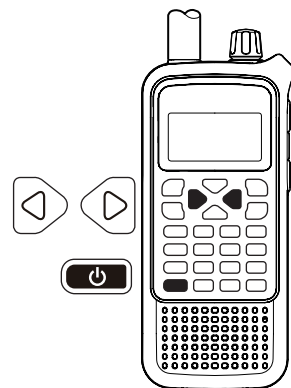
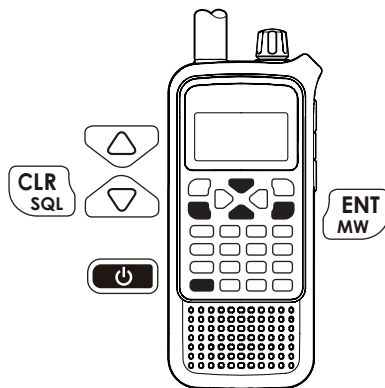
- VFO周波数、MENU画面の設定内容、音量設定、スキャンエッジ、スケルチレベル
- ベーシックサーチに登録されている周波数範囲はクリアされません。

① オールリセットのしかた

- ① **[]**を長く(約1秒)押し、いったん電源を切ります。
 - ② **[]**、**[]**、**[CLR SQL]**、**[ENT MW]**を同時に押しながら、**[]**を長く(約1秒)押しして電源を入れます。
- “ALL RESET”を表示したあと、初期表示になります。

② パーシャルリセットのしかた

- ① **[]**を長く(約1秒)押し、いったん電源を切ります。
 - ② **[]**、**[]**を押しながら、**[]**を長く(約1秒)押しして電源を入れます。
- 初期表示になります。
 - ※ パーシャルリセットの場合、メッセージの表示はありません。



12 ご参考に

■ 故障かな?と思ったら

下記の状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、お問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	◎バッテリーバック(ケース)の接触不良 ◎電池の極性まちがい ◎バッテリーバックまたは電池の消耗	◎バッテリーバック(ケース)の端子を清掃する ◎極性を確認して、電池を入れなおす ◎バッテリーバックは充電し、電池は入れ替える	P10 P10 P11
充電できない	◎充電器のプラグが正しく挿入されていない	◎充電器を正しく挿入する	P12
スピーカーから音が出ない	◎受信音量が小さくなっている ◎イヤホンを接続している	◎[▲]/[▼]を押して、受信音量を設定しなおす ◎イヤホンを抜く	P15 —
感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎ATT機能が動作している ◎RF GAIN機能が動作している	◎ATT機能を解除する ◎RF GAINをMAXに設定する	P25 P25
BCバンドの感度が悪い	◎バーアンテナが選択されていない ◎IC-RX7の向きが悪い	◎MENU画面のAMアンテナの設定でバーアンテナに切り替える ◎よく聞こえる方向に向ける	P71 —
[DIAL]ツマミを回すと、音量が変化する	◎入れ替え機能が動作している	◎[NO. DIAL]を長く(約1秒)押して、入れ替え機能を解除する	P26 —
[▲]または[▼]を押すと、周波数が変化する	◎入れ替え機能が動作している	◎[NO. DIAL]を長く(約1秒)押して、入れ替え機能を解除する	P26
周波数の設定ができない	◎キーロック機能が動作している	◎キーロック機能を解除する	P74
周波数が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している ◎静電気などによる外部要因	◎リセットする ◎バッテリーを装着しなおす	P92 P9
サーチが動作しない	◎サーチモードになっていない ◎スケルチが開いている	◎[SEARCH]を押して、サーチモードにする ◎スケルチレベルを変更する	P17 P16
スキャンが動作しない	◎スキャンモードになっていない ◎M-CHに2CH以上書き込まれていない ◎スケルチが開いている	◎[SCAN]を押して、スキャンモードにする ◎2CH以上をM-CHに書き込む ◎スケルチレベルを変更する	P19 P39~P42 P19
キー操作できない	◎モニタ状態になっている	◎[CLR SQL]を短く押し、SQL設定を解除する	P16

現象	原因	処置	参照
プライオリティスキャンでプライオリティCHを受信(監視)しない	◎ネームの中の別のCHを、プライオリティCHに設定している	○ネームのCH一覧で、一番上のCHを設定したいプライオリティCHの周波数に変更する	P41
サーチ中にバンドの切り替えができない	◎バンドの切れ目があるため	○DIALを回してサーチ方向を切り替える	P17
リンクしない	◎スキップをONに設定しているため	○スキップをOFFに設定する	P38

■アフターサービスについて

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品の設定、「故障かな?」と思ったら(※P93、P94)などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

◇弊社製品のお問い合わせ先について

- お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313 (フリーダイヤル)

◆携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949 (通話料がかかります)

受付 (平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」または弊社ホームページ(<http://www.icom.co.jp/>)をご覧ください。

12 ご参考に

■CI-V(リモート)について

◇CI-Vのデータ設定について

CI-Vシステムを利用して外部コントロールするとき、本機のアドレス、ボーレート、トランシーブ“ON/OFF”のデータが必要になります。

これらの項目は、セッティングで設定します。(P74、P75)

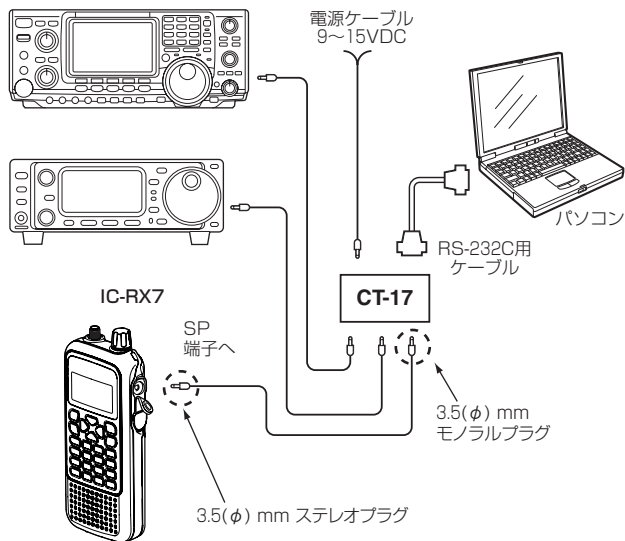
◇パソコンの接続

IC-RX7にパソコンを接続することにより、受信周波数と受信モードを外部制御できます。

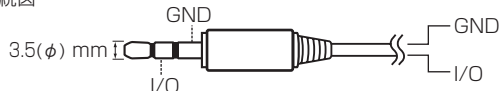
コントロールは、ICOM Communication Interface V(CI-V: シーアイファイブ)によるシリアル方式です。

別売品のCT-17(CI-Vレベルコンバーター)を使用することにより、RS-232Cタイプのシリアルポートを持つパソコンが接続でき、外部コントロールができます。

パソコンでアイコムを受信機、および無線機を制御する方法は、CT-17に添付の取扱説明書、およびCI-Vシステム解説書(有料)をご用意していますので、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。



●接続図



■CI-Vの基本フォーマットについて

(1) コントローラー(パソコン) → レシーバー(IC-RX7)

① プリアンブル				② 受信 アドレス		③ 送信 アドレス		④ コマンド		⑤ サブ コマンド		⑥ データエリア						⑦ EOM	
F	E	F	E	7	8	E	0	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	F	D

(2) レシーバー → コントローラー

① プリアンブル				② 受信 アドレス		③ 送信 アドレス		④ コマンド		⑤ サブ コマンド		⑥ データエリア						⑦ EOM	
F	E	F	E	E	0	7	8	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	F	D

- ①プリアンブル : データのはじめに挿入する同期用のコードで、16進の“FE”を2回送出します。
- ②受信アドレス/③送信アドレス : IC-RX7の初期アドレスは“78(16進)”とし、コントローラーは“E0”としたときの例を示しています。
- ④コマンド : コントロールできる機能を16進2ケタでコマンドとしています。(右表参照)
- ⑤サブコマンド : コマンド補足命令として16進2ケタを用います。(右表参照)
- ⑥データエリア : 周波数データなどをセットするエリアで、データにより可変長とします。
- ⑦EOM : メッセージの終わりを示すコードで、16進の“FD”とします。

■コマンド一覧表

コマンド	サブ	動作	コマンド	サブ	動作
00		周波数データの転送(トランシーブ)	06	02	AMモードの設定
01		モードデータの転送(トランシーブ)		05	FMモードの設定
03		表示周波数の読み込み		06	WFMモードの設定
04		表示モードの読み込み	15	01	スケルチの状態(開/閉)の読み込み
05		周波数データの設定		02	Sメーターレベルの読み込み

13 定 格

■一般仕様

- 受信周波数範囲：0.150～252.895MHz
255.100～261.895MHz
266.100～270.895MHz
275.100～379.895MHz
382.100～411.895MHz
415.100～809.895MHz
834.100～859.895MHz
889.100～914.895MHz
960.100～1300.000MHz
- 使用温度範囲：-10℃～+60℃
- 周波数安定度：±6ppm以内(-10℃～+60℃)
- 周波数分解能：5/6.25/7.5/8.33*/9*/10/12.5/15/20/25
/30/50/100/125/200kHz
※運用バンド、運用モードによっては選択
できません。
- メモリーチャンネル数：1825チャンネル
(スキャンエッジ、オートメモリーライトチャ
ンネルを含む)
- 電源電圧：BP-244 : 3.7V(Li-ion)
BP-262 : 4.5V(単三アルカリ電池×3)
DC 5.1～6.9V(外部電源ジャック CP-18)
- 接地方式：マイナス接地
- 電波型式：FM、WFM、AM
- アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡(SMA型)
- 外形寸法：57(W)×128(H)×23(D)mm
(突起物を除く)
- 重量：約200g(アンテナ、BP-244含む)

■受信部

- 受信方式：トリプルスーパーヘテロダイナ
- 中間周波数：1st 429.1MHz
2nd 19.65MHz(FM/AM) 20.75MHz(WFM)
3rd 450kHz(FM/AM) 1.55MHz(WFM)
- 選択度：FM/AM 15kHz以上 / - 9dB
30kHz以下 / - 60dB
WFM 150kHz以上 / - 6dB
- 消費電流：DC 3.7V時
受信時 150mA typ.
待ち受け時 100mA typ.
パワーセーブ時(1:4) 35mA typ.
- 低周波出力：60mW以上
(DC 3.7V/8Ω / 70%変調 / 10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス：8Ω
- 受信感度：(スプリアスポイントは除く)
AM 10dB S/N 0.495～4.995MHz 8dBμ以下
(1kHz 30% MOD) 5.000～29.995MHz 5dBμ以下
EXT-ANT(DX)時 118.000～136.000MHz 5dBμ以下
222.000～246.995MHz 5dBμ以下
247.000～329.995MHz 5dBμ以下
FM 12dB SINAD 1.625～4.995MHz -5dBμ以下
(1kHz 3.5kHz DEV) 5.000～246.995MHz -8dBμ以下
247.000～832.995MHz -5dBμ以下
833.000～1300.000MHz -2dBμ以下
WFM 12dB SINAD 76.000～108.000MHz 5dBμ以下
(1kHz 52.5kHz DEV) 175.000～221.995MHz 5dBμ以下
470.000～770.000MHz 8dBμ以下

●スケルチ感度:

AM	0.495 ~ 4.995MHz	8dBμ 以下
(1kHz 30% MOD)	5.000 ~ 29.995MHz	5dBμ 以下
EXT-ANT(DX) 時	118.000 ~ 136.000MHz	5dBμ 以下
	222.000 ~ 246.995MHz	5dBμ 以下
	247.000 ~ 329.995MHz	5dBμ 以下
FM	1.625 ~ 4.995MHz	- 5dBμ 以下
(1kHz 3.5kHz DEV)	5.000 ~ 246.995MHz	- 8dBμ 以下
	247.000 ~ 832.995MHz	- 5dBμ 以下
	833.000 ~ 1300.000MHz	- 2dBμ 以下
WFM	76.000 ~ 108.000MHz	15dBμ 以下
(1kHz 52.5kHz DEV)	175.000 ~ 221.995MHz	15dBμ 以下
	470.000 ~ 770.000MHz	15dBμ 以下

※測定値は、JAIA(日本アマチュア本製品器工業会)で定めた測定法によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

索引

A		あ	
ATT機能について	25	アフターサービスについて	94
C		アンテナの取り付けかた	1
CI-V(リモート)について	95	アンテナの切り替えについて	23
CI-Vの基本フォーマットについて	96	一般仕様	97
D		運用時間と残量表示について	11
[DIAL]ツマミと[▲]/[▼]に割り当てている機能を入れ替える	26	オートパワーオフ機能の使いかた	89
F		オートパワーオン機能の使いかた	89
FM(ラジオ)放送を受信する	23	オープニングメッセージの設定について	88
M		か	
MENU画面	57	外部電源の接続	14
V		乾電池の装着	10
VSC(ボイススケルチコントロール)機能について	86	キーボード	4
		クローニングについて	90
		工場出荷時の状態に戻す(リセット)には	92
		故障かな?と思ったら	93
		コントラスト調整について	88
		さ	
		サーチで受信した周波数をメモリーへ書き込む	39
		サーチについて	27
		サーチの設定項目について	62
		サーチの操作	30
		サウンドの設定項目について	76
		受信音量を調整する	15
		受信感度(RF GAIN)機能について	25
		受信部	97

受信モード(電波型式)を設定する	21
充電のしかた	12
周波数を大きく動かすときは	21
スキップ周波数の指定と解除のしかた	37
スキップの指定	38
スキャンについて	45
スキャンのしかた	47
スキャンの設定項目について	59
スケルチレベルを調整する	16
設定項目の一覧表	58
設定項目の選択方法	57
セッティングの設定項目について	71
操作パネル	3
操作モードについて	17
た	
ダイヤルスピード機能について	87
チューニングステップ	22
ディスプレイ	7
ディスプレイの設定項目について	77
デュプレクス通信を受信する	79
テンキーで周波数を入力するには	20
電源を入れる	15
トーン/DTCCSを使った通信を受信する	82
トーン/コードサーチのしかた	85

な	
ネーム直接呼び出しのしかた	51
名前入力 of のしかた	43
は	
バックライトについて	88
バッテリーパックの装着	9
パワーセーブ機能の使いかた	87
ハンドストラップの取り付けかた	2
ビーブ音について	87
表示フォントのサイズ設定について	88
ヒューズの交換について	14
プライオリティ機能とは	53
プライオリティ機能の使いかた	54
プライオリティサーチ、プライオリティスキャンの解除のしかた	56
プログラムの書き込みかた	35
プログラムリンクの編集	36
ベルトクリップの取り付けかた	1
ま	
モード/TS/トーン関連の設定項目について	66
モニターのしかた	16
ら	
リンクの設定のしかた	49
ロック機能の使いかた	26

高品質がテーマです。

A-6663D-1J-①
Printed in Japan
© 2008 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32